

男女共同参画に関するアンケート調査 報 告 書

令和2年2月

香取市

も く じ

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	1
4. 報告書を見る際の留意点	1
II 調査の結果	2
1. あなた自身について	2
2. 男女平等について	8
3. 家庭生活について	12
4. 仕事について	20
5. 少子・高齢化について	51
6. 人権に関することについて	57
7. 男女平等推進の施策について	68
8. 社会活動等への参画について	76
自由回答	84

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、香取市男女共同参画計画の計画期間が令和元年度に終了するにあたり、令和2年度以降の新たな計画の策定に向け、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、今後の計画や施策に反映させることを目的として実施しました。

2. 調査設計

- 調査地域：香取市全域
- 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した市内在住の20歳以上の男女2,000人
- 調査期間：令和元年5月31日から令和元年6月14日
- 調査方法：郵送配布・郵送回収による調査

3. 回収結果

配布数	回収数	回収率
2,000	650	32.5%

4. 報告書を見る際の留意点

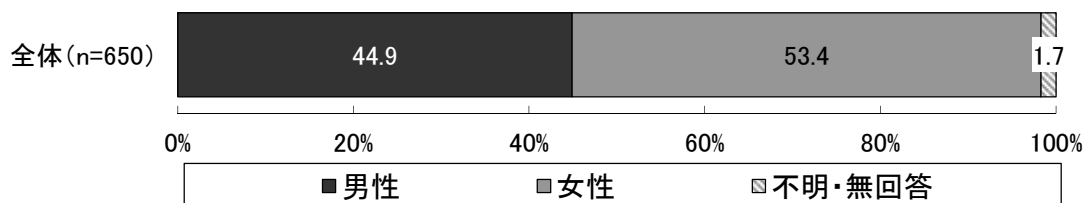
- 回答結果の割合（％）はサンプル数（集計対象者総数）に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表のn数（number of case）は、サンプル数（集計対象者総数あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人数）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

II 調査の結果

1. あなた自身について

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

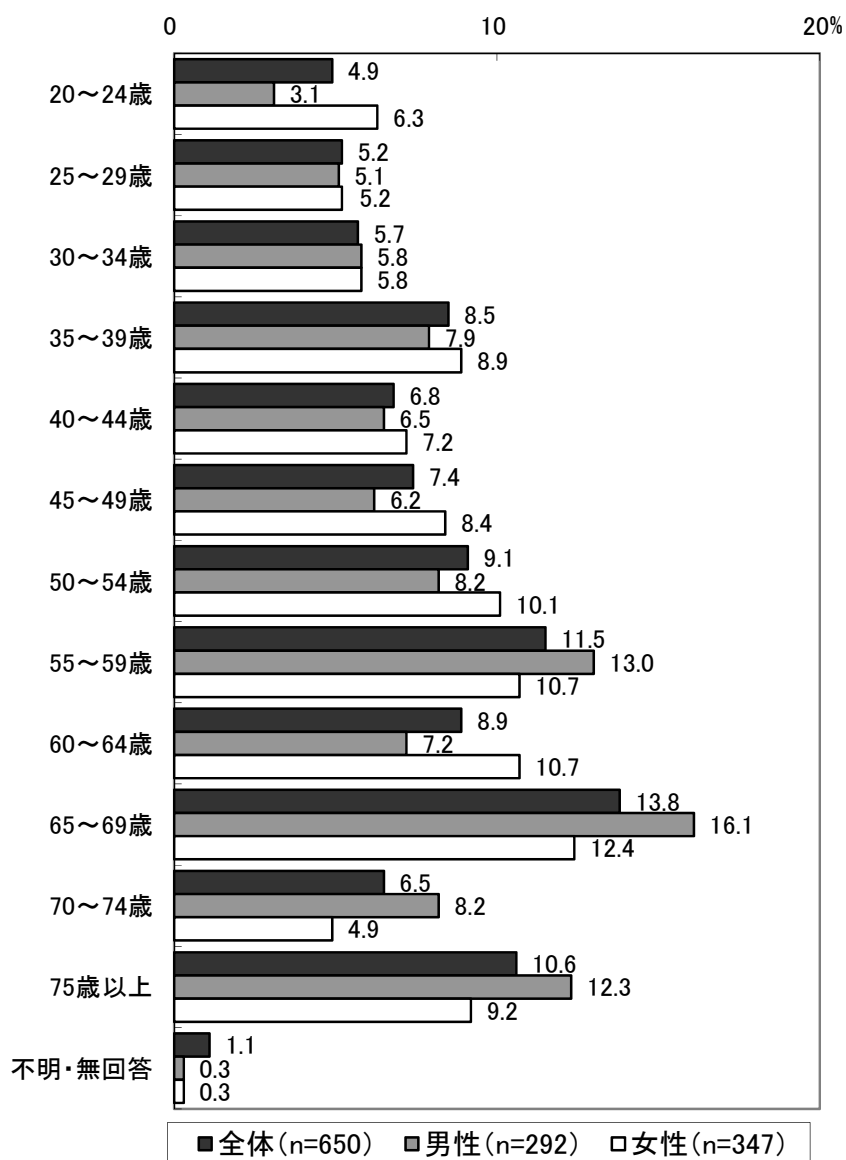
性別については、「女性」が53.4%で、「男性」の44.9%を上回っています。



問2 あなたは現在おいくつですか。(1つに○)

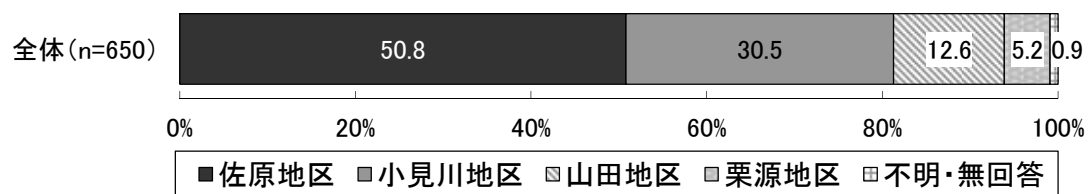
年齢については、全体では「65～69歳」が13.8%で最も高く、次いで「55～59歳」が11.5%、「75歳以上」が10.6%となっています。

性別にみても、全体とほぼ同様の傾向となっています。



問3 あなたのお住まいの地区はどちらですか。(1つに○)

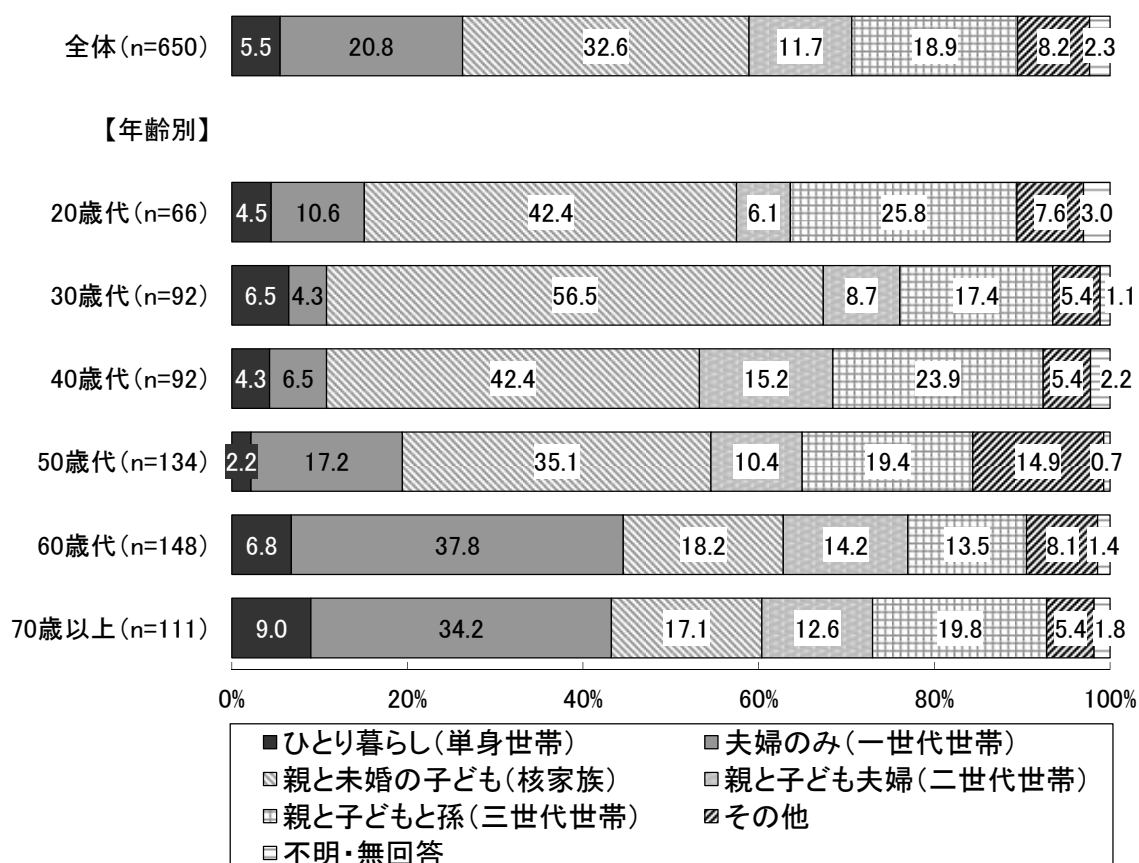
居住地区については、「佐原地区」が50.8%で最も高く、次いで「小見川地区」が30.5%、「山田地区」が12.6%となっています。



問4 あなたの世帯は次のどれに該当しますか。(1つに○)

世帯構成については、全体では「親と未婚の子ども(核家族)」が32.6%で最も高く、次いで「夫婦のみ(一世代世帯)」が20.8%、「親と子どもと孫(三世代世帯)」が18.9%となっています。

年齢別にみると、60歳代以上で「夫婦のみ(一世代世帯)」が全体に比べて高くなっています。また、20～40歳代で「親と未婚の子ども(核家族)」が全体に比べて高くなっています。

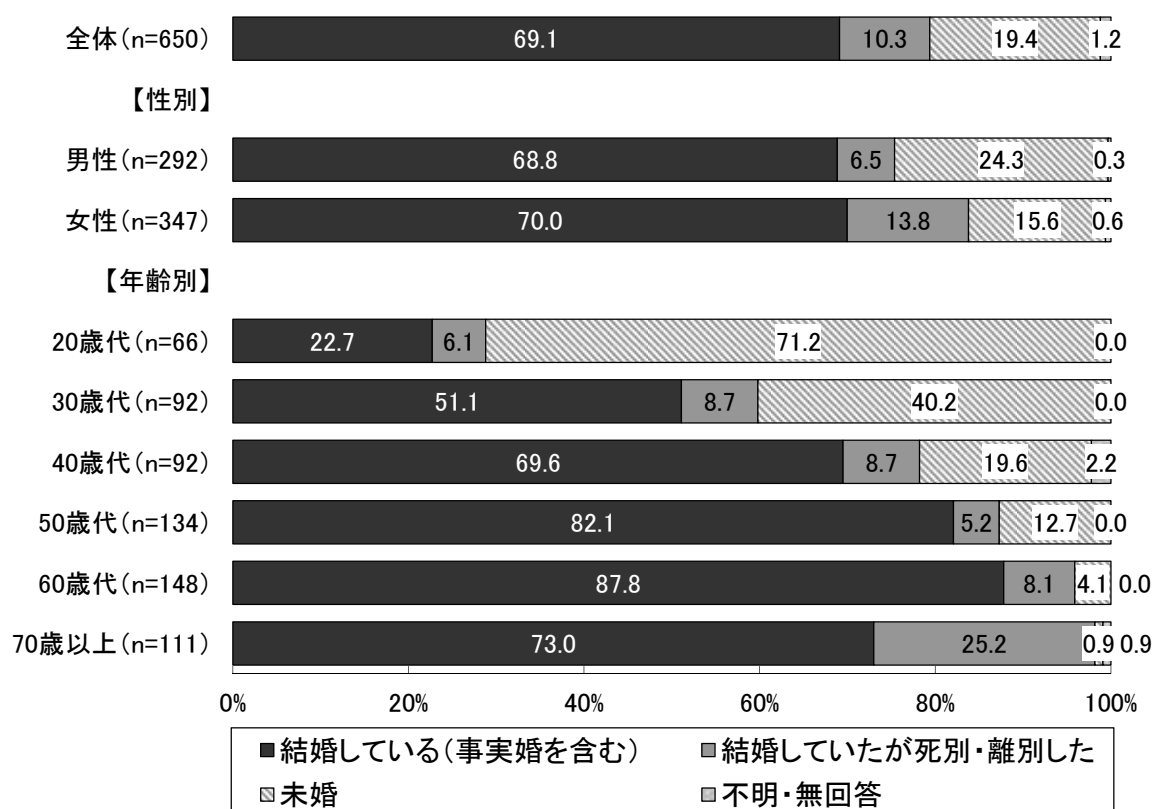


問5 あなたの婚姻関係（事実婚を含む）はどれに該当しますか。（1つに○）

婚姻関係（事実婚を含む）の状況については、全体では「結婚している（事実婚を含む）」が69.1%で最も高く、次いで「未婚」が19.4%、「結婚していたが死別・離別した」が10.3%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、30歳代以下で「結婚している（事実婚を含む）」が全体に比べて低く、50～60歳代で高くなっています。また、70歳以上で「結婚していたが死別・離別した」が全体に比べて高くなっています。

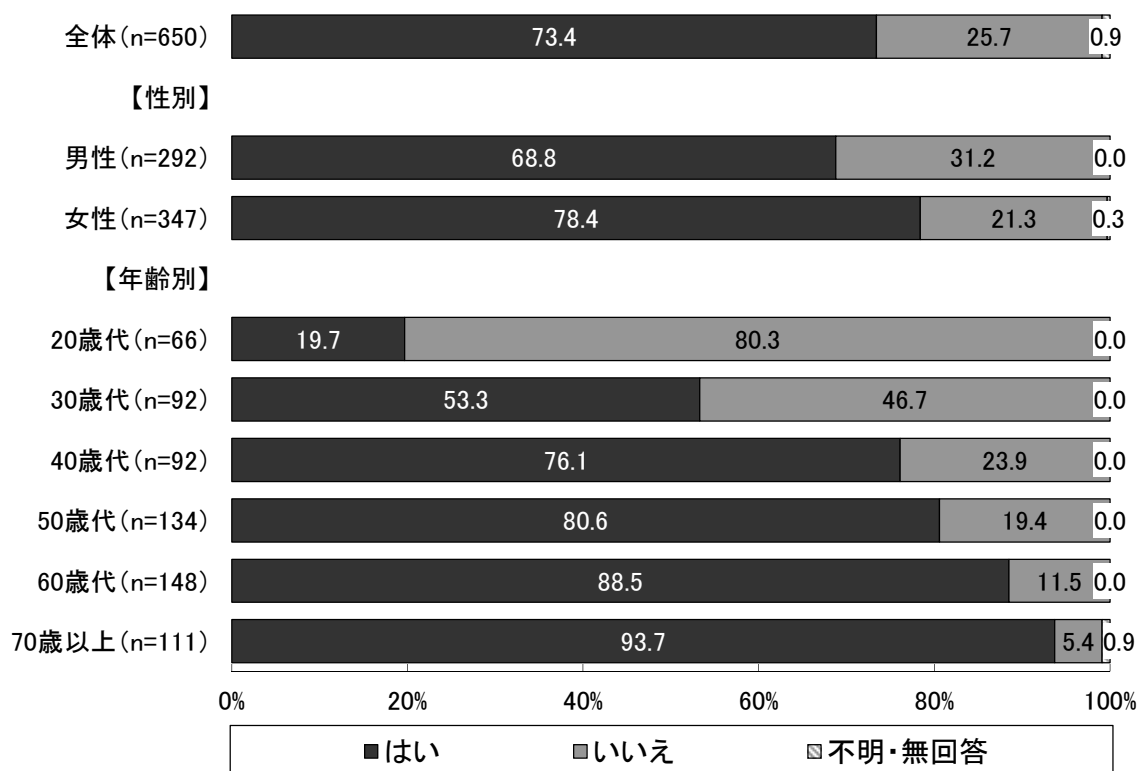


問6 あなたにお子さんはいらっしゃいますか。(1つに○)

子どもがいるかについては、全体では「はい」が73.4%で、「いいえ」の25.7%を上回っています。

性別にみると、全体とほぼ同様の傾向となっています。

年齢別にみると、30歳代以下で「はい」が全体に比べて低く、60歳代以上で高くなっています。

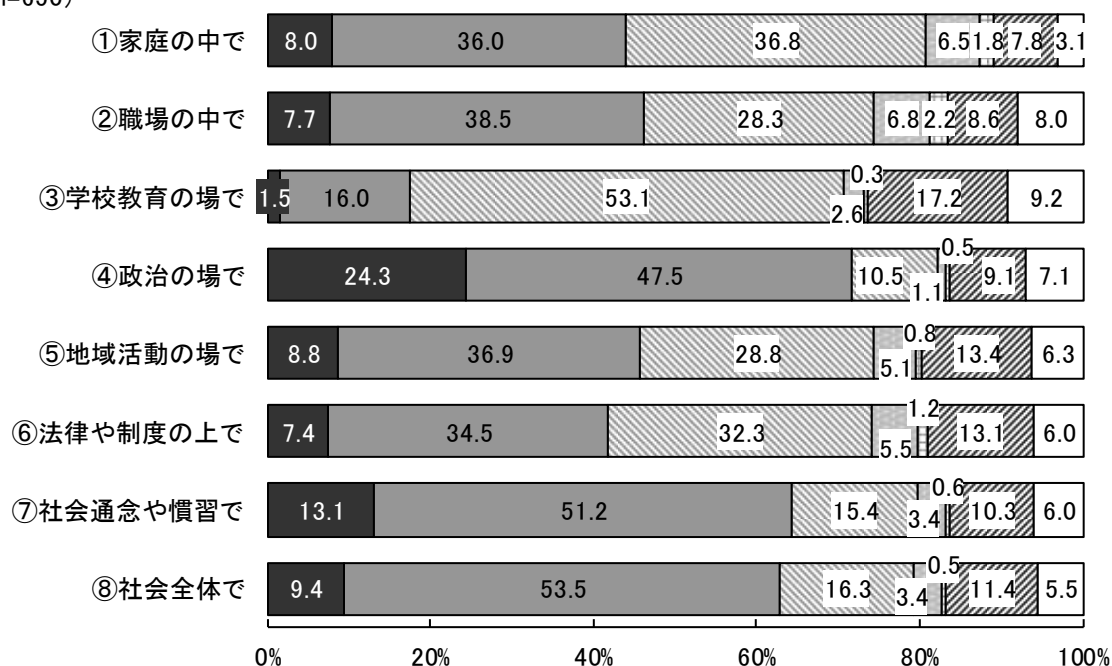


2. 男女平等について

問7 あなたは、次の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(①～⑧それぞれ1つに○)

次のような場における男女の平等の状況について、「平等である」は、[③学校教育の場で]で53.1%となっていますが、それ以外では4割を下回っています。「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性優遇”は[④政治の場で][⑦社会通念や慣習で][⑧社会全体で]で6割を超えて高くなっています。一方、「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた“女性優遇”はいずれも1割に満たない状況です。

(n=650)

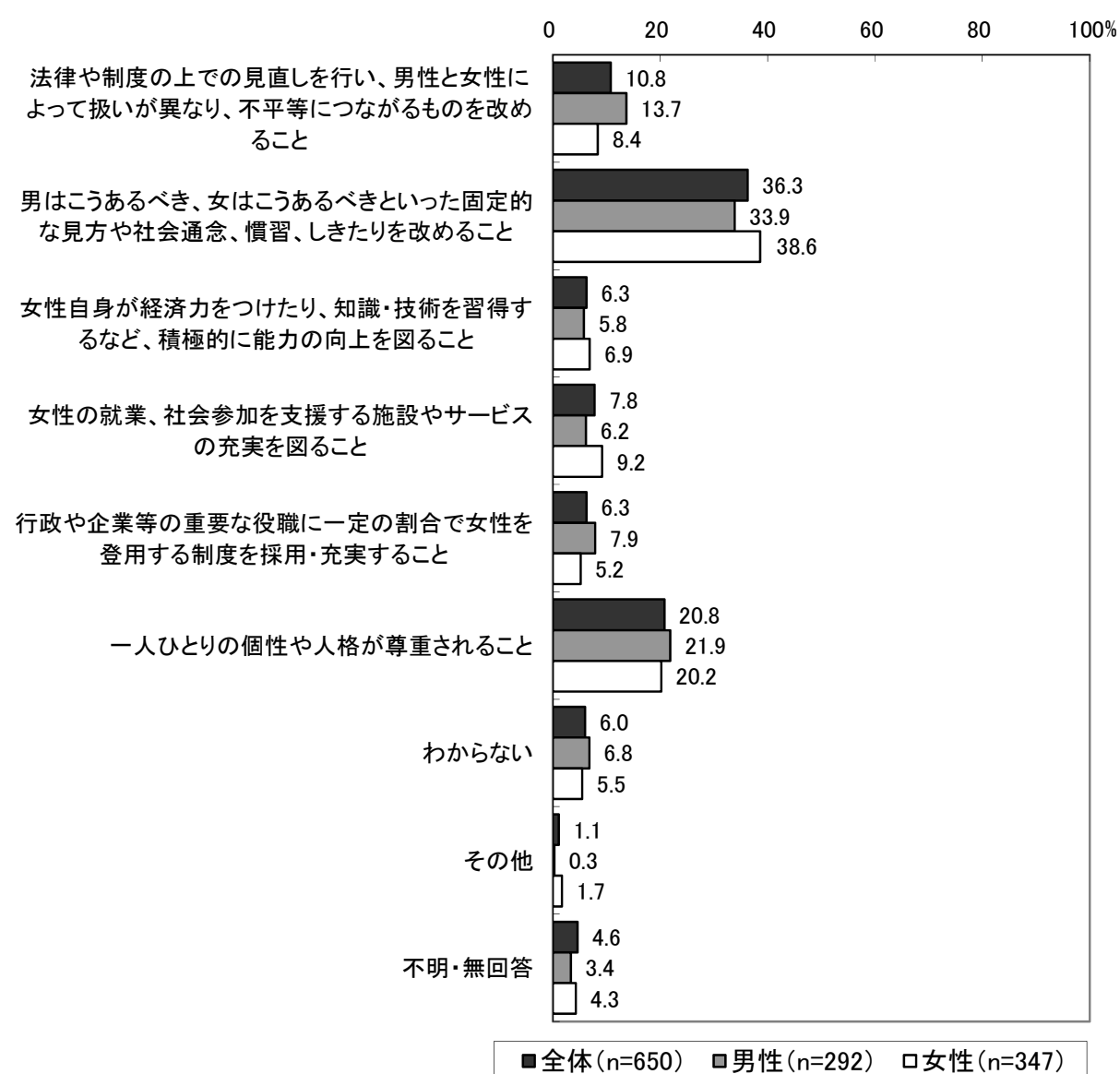


- 男性の方が非常に優遇されている
- ▣ 平等である
- ▣ 女性の方が非常に優遇されている
- 不明・無回答
- ▣ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▣ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▣ どちらともいえない

問8 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために最も重要と思うことは何でしょうか。(1つに○)

社会の男女平等で重要なことについては、全体では「男はこうあるべき、女はこうあるべきといった固定的な見方や社会通念、慣習、しきたりを改めること」が36.3%で最も高く、次いで「一人ひとりの個性や人格が尊重されること」が20.8%、「法律や制度の上での見直しを行い、男性と女性によって扱いが異なり、不平等につながるものを改めること」が10.8%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



性年齢別にみると、男女ともに 40 歳代では「一人ひとりの個性や人格が尊重されること」が全体と比較して低くなっています。また、女性 40 歳代では、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」がやや高くなっています。

■性・年齢別クロス集計

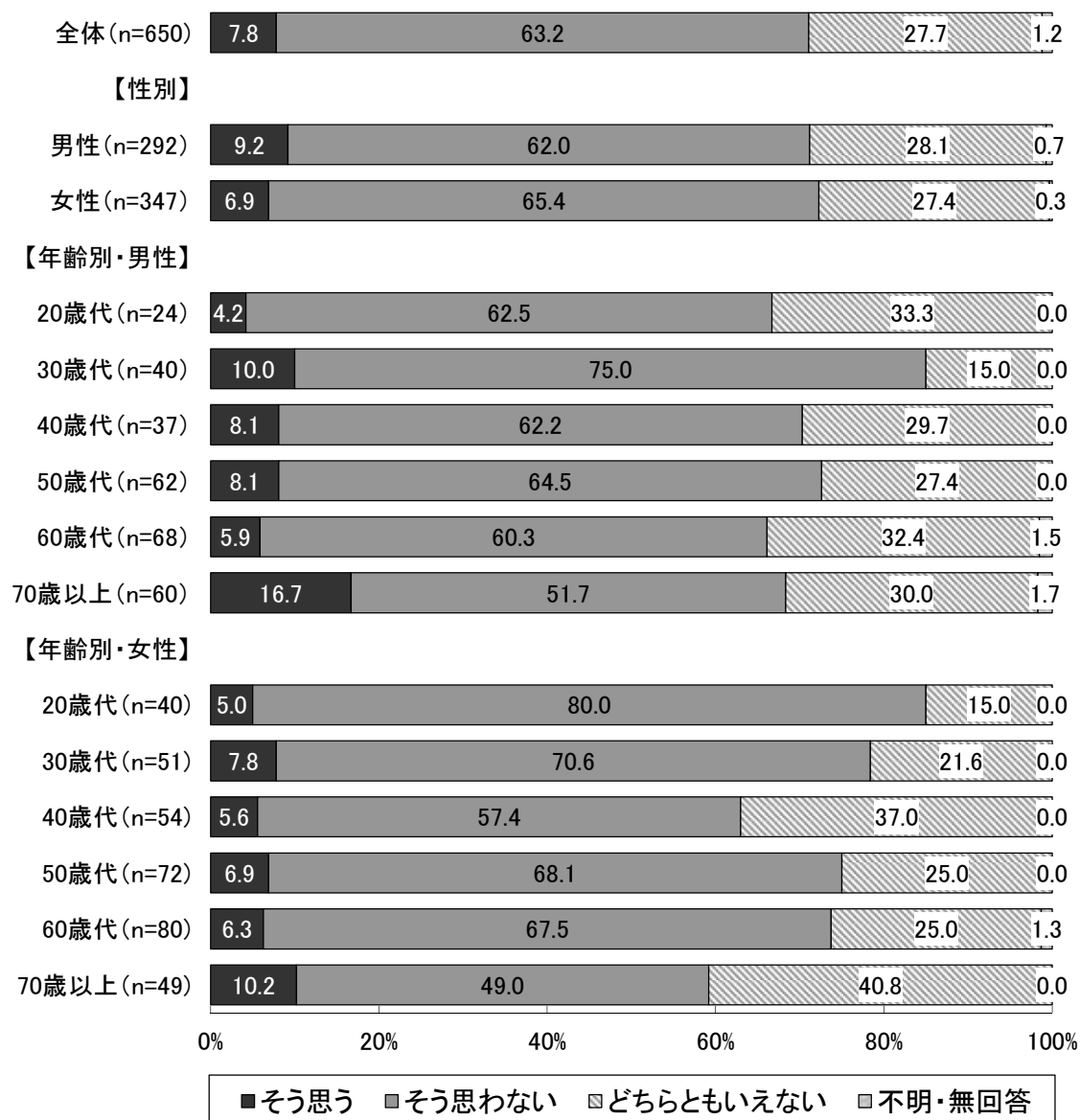
	合計	等性につながらるもの	法律や制度の上での扱いが異なること	習、といった固めな見方や社会通念、慣習	男はこうあるべき、女はこうあるべき	技術自身を経済力をつけたりに、知識の向上を図ること	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	行政や企業等の重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	一人ひとりの個性や人格が尊重されること	わからない	その他	不明・無回答
【年齢別・男性】												
20歳代	24	12.5	41.7	4.2	8.3	12.5	16.7	0.0	0.0	4.2		
30歳代	40	12.5	30.0	7.5	7.5	5.0	27.5	7.5	0.0	2.5		
40歳代	37	18.9	40.5	8.1	2.7	2.7	10.8	10.8	0.0	5.4		
50歳代	62	14.5	32.3	3.2	9.7	4.8	27.4	6.5	1.6	0.0		
60歳代	68	11.8	38.2	5.9	5.9	10.3	20.6	2.9	0.0	4.4		
70歳以上	60	13.3	25.0	6.7	3.3	11.7	23.3	11.7	0.0	5.0		
【年齢別・女性】												
20歳代	40	2.5	45.0	2.5	12.5	5.0	27.5	0.0	0.0	5.0		
30歳代	51	2.0	51.0	9.8	5.9	3.9	13.7	3.9	9.8	0.0		
40歳代	54	1.9	48.1	11.1	14.8	5.6	11.1	3.7	0.0	3.7		
50歳代	72	16.7	30.6	4.2	11.1	2.8	29.2	2.8	0.0	2.8		
60歳代	80	8.8	37.5	8.8	6.3	7.5	17.5	6.3	1.3	6.3		
70歳以上	49	14.3	22.4	4.1	6.1	6.1	22.4	16.3	0.0	8.2		

問9 「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(1つに○)

「男は仕事、女は家庭」という考え方については、全体では「そう思わない」が63.2%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が27.7%、「そう思う」が7.8%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

性年齢別にみると、男性の30歳代では「そう思わない」が男性全体に比べて高く、男性70歳以上では低くなっています。また、女性の20歳代では「そう思わない」が女性全体に比べて高く、女性70歳以上で低くなっています。



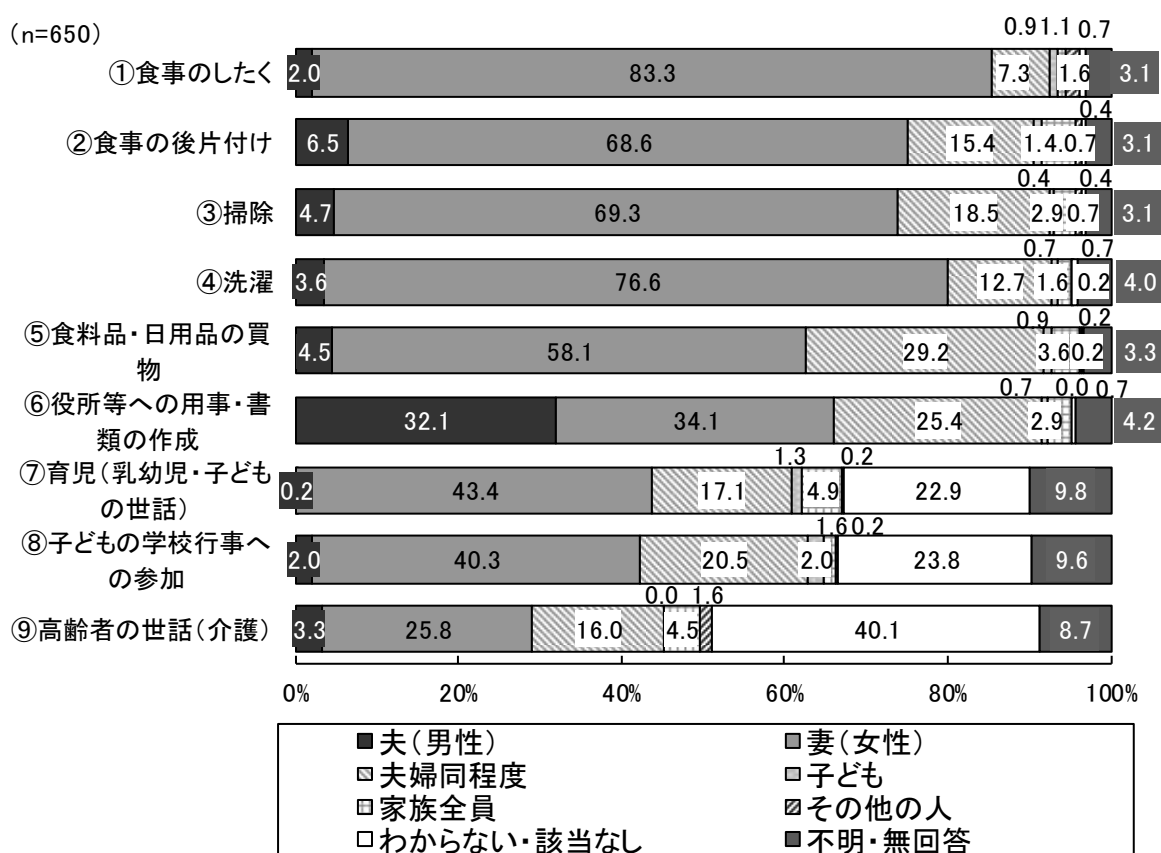
3. 家庭生活について

※問5で「1. 結婚している（事実婚を含む）」を選択した方にうかがいます。

問10 あなたの家庭では現在、①～⑨のことは日常どなたが担当していますか。（①～⑨それぞれ1つに○）

※「その他の人」にはボランティア、ホームヘルパー、家政婦等の各種家事代行委託業等も含まれます。

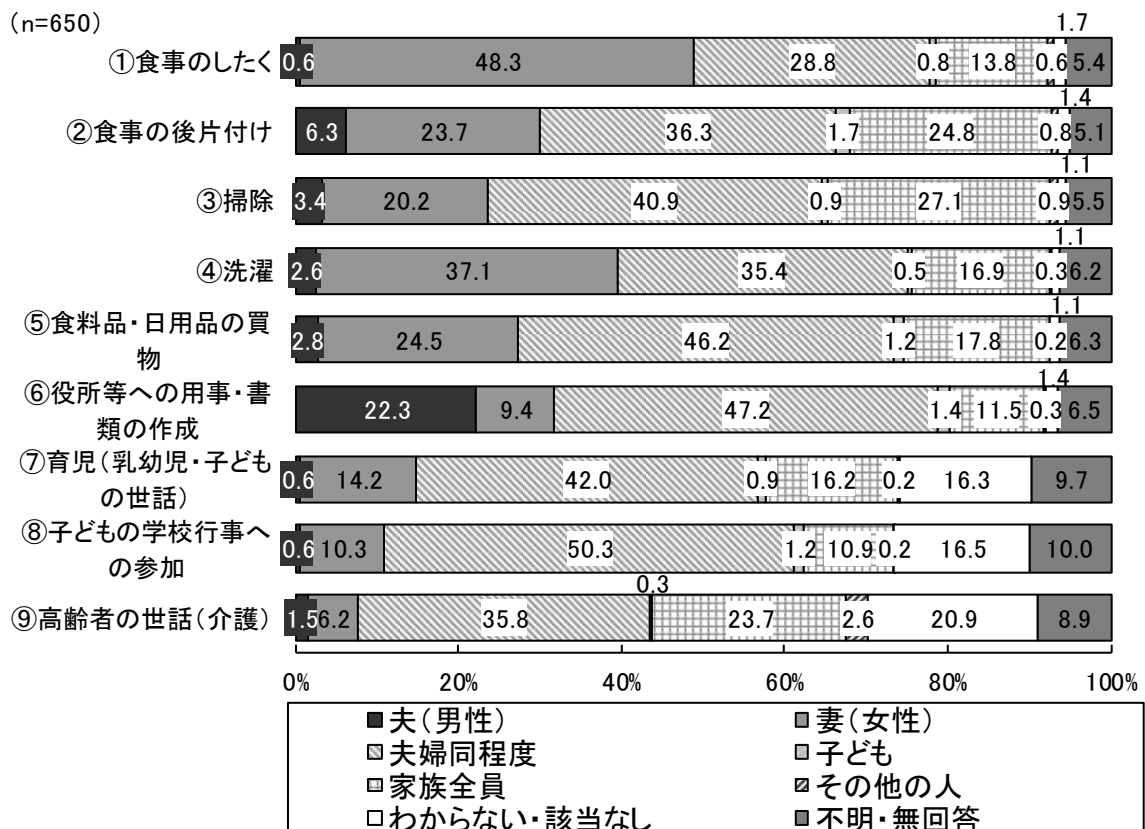
次のような役割分担の【現状】について、すべての項目で妻（女性）が最も高く、次いで「夫婦同程度」、「夫（男性）」となっており、[⑤食料品・日用品の買物]で「夫婦同程度」が他と比べて高くなっています。[⑥役所等への用事・書類の作成]では「夫（男性）」「妻（女性）」がそれぞれ3割前後となっています。



※すべての方にうかがいます。

問 11 あなたの家庭では理想として、①～⑨のことは日常どなたに担当してほしいと思いますか。(①～⑨それぞれ1つに○)

次のような役割分担の【理想】について、[①食事のしたく][④洗濯]では「妻(女性)」が、それ以外の項目では「夫婦同程度」が最も高くなっています。[⑥役所等への用事・書類の作成]では、次いで「夫(男性)」が高くなっています。



問 12 あなたは、「仕事」との関係において、「家庭生活」や地域活動・学習・趣味・付き合い等の「地域・個人の生活」をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。（1つに○）

仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度の希望については、全体では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が 28.5%で最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が 25.4%、「家庭生活」を優先したい」が 13.8%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

性年齢別にみると、男性の 40 歳代では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が男性全体に比べて高くなっています。また、女性の 70 歳以上では「家庭生活」を優先したい」が女性全体に比べて低くなっています。女性 40 歳代で「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が、女性 20 歳代で「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が女性全体に比べて高くなっています。また、女性 50～60 歳代で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」が女性全体に比べて高く、女性 30 歳代以下・70 歳以上で低くなっています。

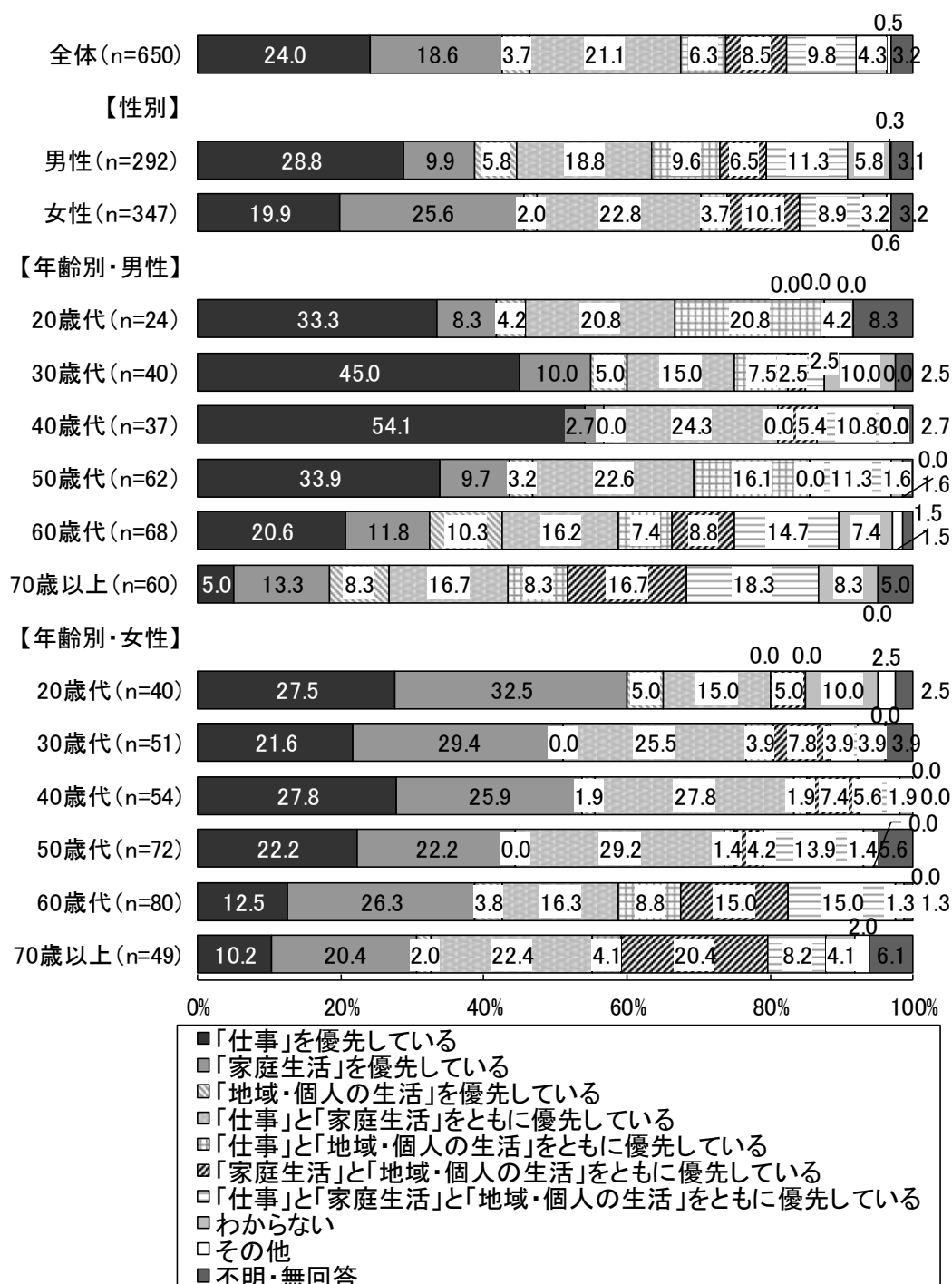


問 12-1 それでは、あなたの現状に最も近いものをお答えください。（1つに○）

仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度の現状については、全体では「仕事」を優先している」が24.0%で最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が21.1%、「家庭生活」を優先している」が18.6%となっています。

性別にみると、男性で「家庭生活」を優先している」が全体に比べてやや低く、女性でやや高くなっています。

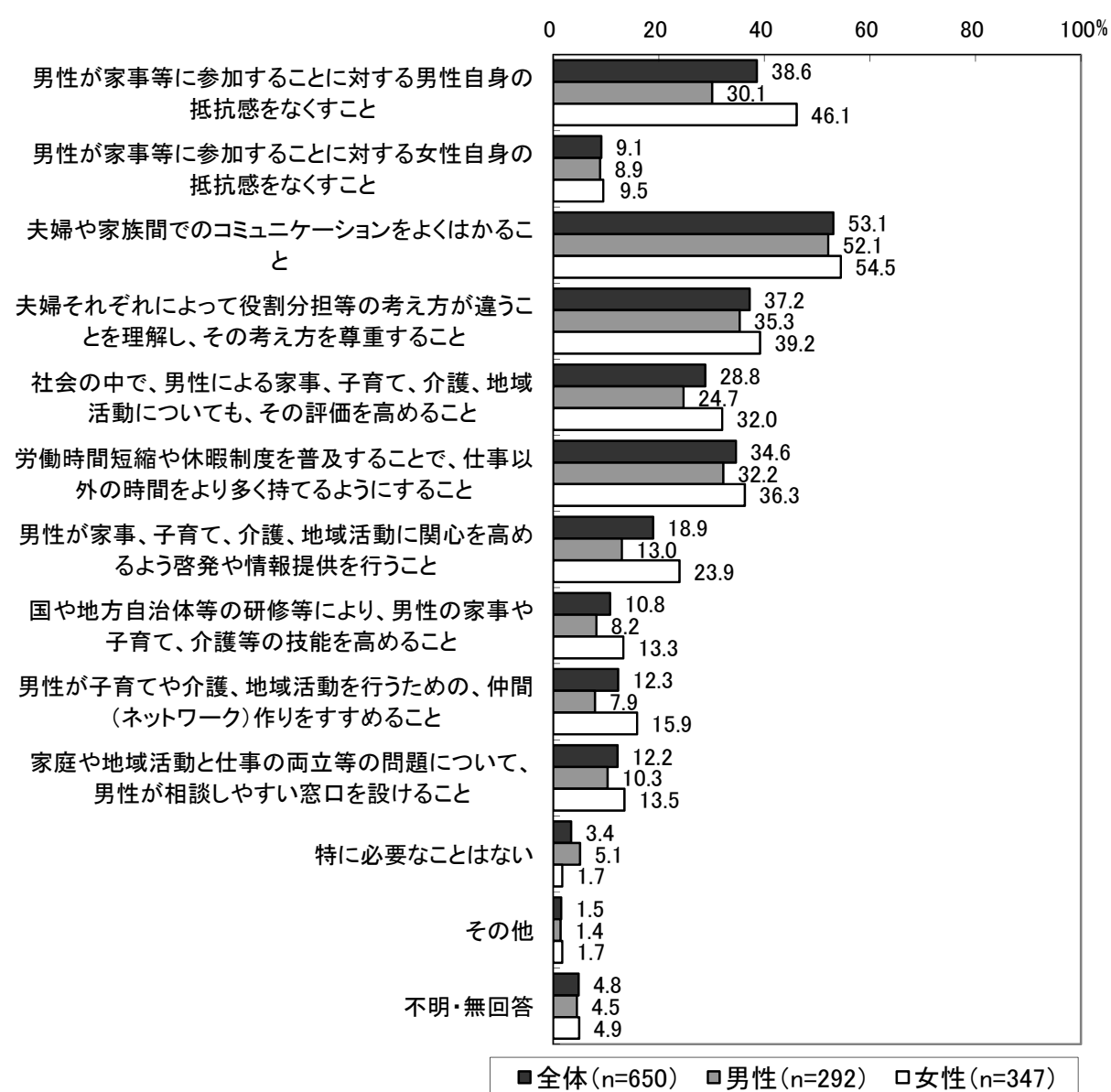
性年齢別にみると、男性の30～40歳代では「仕事」を優先している」が男性全体に比べて高く、70歳以上で低くなっています。また、男性20歳代で「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している」が、男性70歳以上で「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」が男性全体に比べて高くなっています。また、女性の70歳以上では「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している」が女性全体に比べて高くなっています。



問 13 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、全体では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が53.1%で最も高く、次いで「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が38.6%、「夫婦それぞれによって役割分担等の考え方が違うことを理解し、その考え方を尊重すること」が37.2%となっています。

性別にみると、男性で「男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」がともに全体に比べてやや低く、女性ではやや高くなっています。



性年齢別にみると、女性 20 歳代を除くすべての年代で、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が最も高くなっています。男性 50 歳代では「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」も同率でもっとも高くなっています。

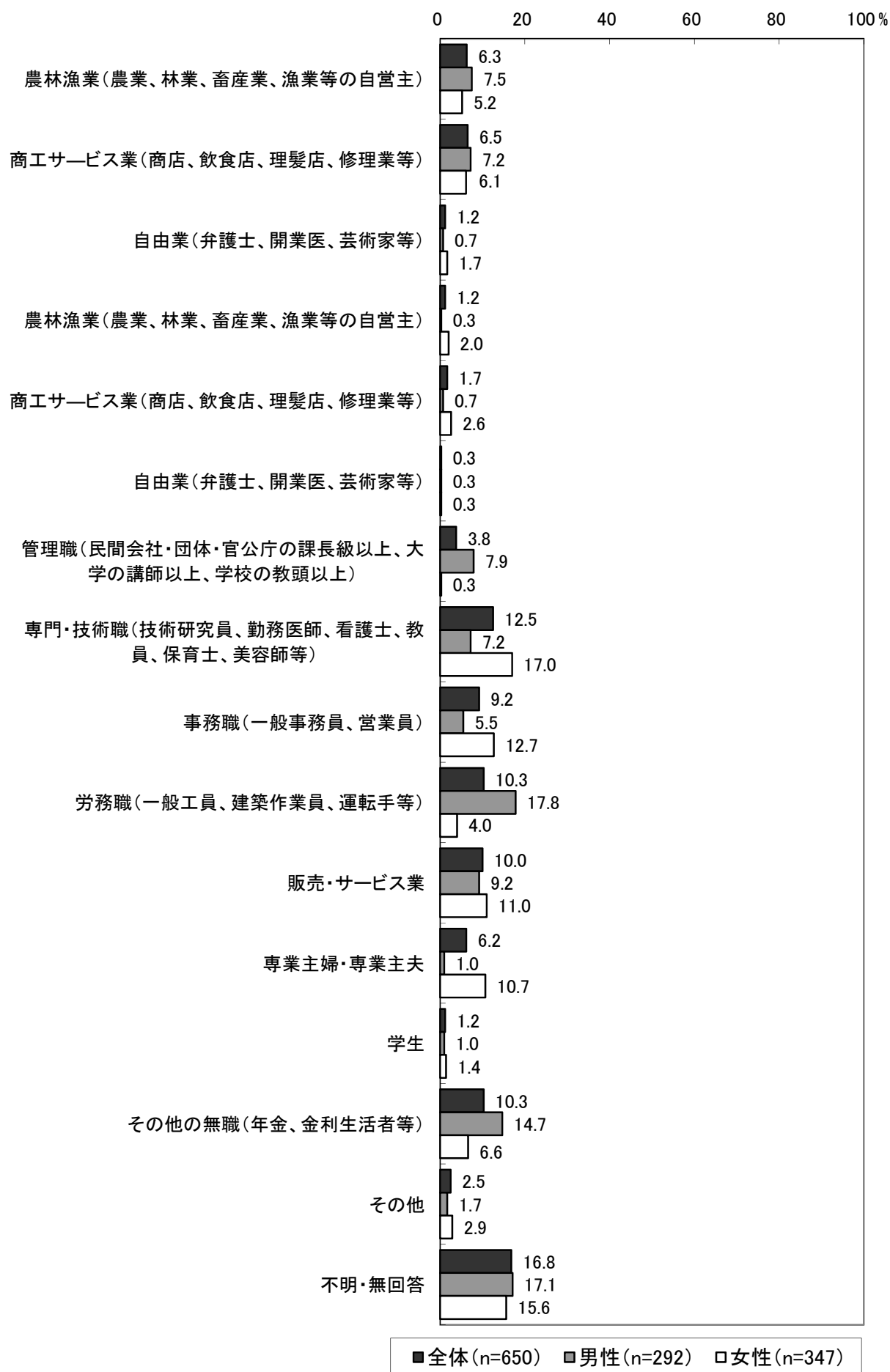
■性・年齢別クロス集計

	合計	男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事等に参加することに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	夫婦それぞれによって役割分担等の考え方が違うことを理解し、その考え方を尊重すること	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	子育て、介護等の技能を高めること、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	国や地方自治体等の研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	特に必要なことはない	その他
【年齢別・男性】														
20歳代	24	33.3	20.8	62.5	33.3	41.7	45.8	12.5	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0
30歳代	40	37.5	20.0	55.0	35.0	30.0	42.5	7.5	2.5	12.5	10.0	2.5	5.0	5.0
40歳代	37	18.9	5.4	56.8	21.6	24.3	29.7	10.8	5.4	10.8	16.2	5.4	2.7	2.7
50歳代	62	27.4	8.1	41.9	38.7	19.4	41.9	12.9	6.5	9.7	4.8	3.2	0.0	0.0
60歳代	68	32.4	5.9	51.5	35.3	22.1	25.0	17.6	11.8	7.4	13.2	5.9	1.5	1.5
70歳以上	60	31.7	3.3	55.0	41.7	23.3	20.0	13.3	11.7	5.0	10.0	10.0	0.0	0.0
【年齢別・女性】														
20歳代	40	62.5	7.5	60.0	27.5	37.5	60.0	25.0	17.5	12.5	22.5	0.0	0.0	0.0
30歳代	51	43.1	13.7	49.0	33.3	29.4	39.2	23.5	11.8	13.7	9.8	2.0	7.8	7.8
40歳代	54	55.6	18.5	57.4	55.6	42.6	33.3	35.2	16.7	16.7	11.1	0.0	0.0	0.0
50歳代	72	41.7	4.2	50.0	37.5	29.2	41.7	13.9	11.1	13.9	8.3	1.4	1.4	1.4
60歳代	80	46.3	6.3	57.5	33.8	26.3	23.8	31.3	11.3	20.0	16.3	1.3	1.3	1.3
70歳以上	49	30.6	10.2	55.1	49.0	30.6	28.6	12.2	14.3	14.3	16.3	6.1	0.0	0.0

4. 仕事について

問 14 あなたの職業はどれに該当しますか。下の選択肢の中から選び、最もあてはまる番号 1 つを記入してください。

職業については、全体では「専門・技術職（技術研究員、勤務医師、看護師、教員、保育士、美容師等）」が 12.5%で最も高く、次いで「労務職（一般工員、建築作業員、運転手等）」と「その他の無職（年金、金利生活者等）」がともに 10.3%となっています。



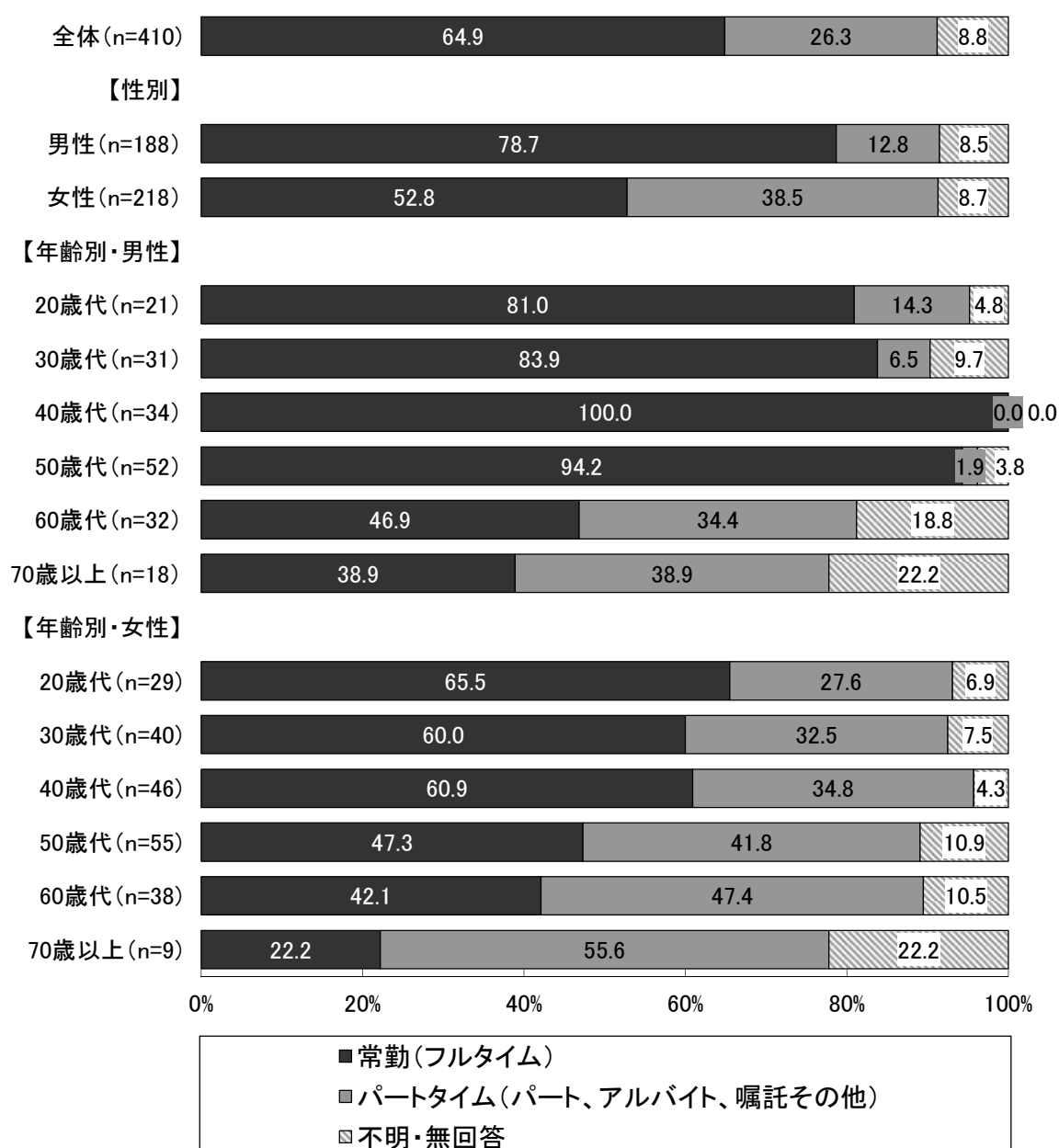
※問 14 で「1～11」を選択した方にうかがいます。

問 14-1 あなたの勤務形態はどれですか。(1つに○)

勤務形態については、全体では「常勤（フルタイム）」が 64.9%で、「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」の 26.3%を上回っています。

性別にみると、男性で「常勤（フルタイム）」が、女性で「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」が全体に比べて高くなっています。

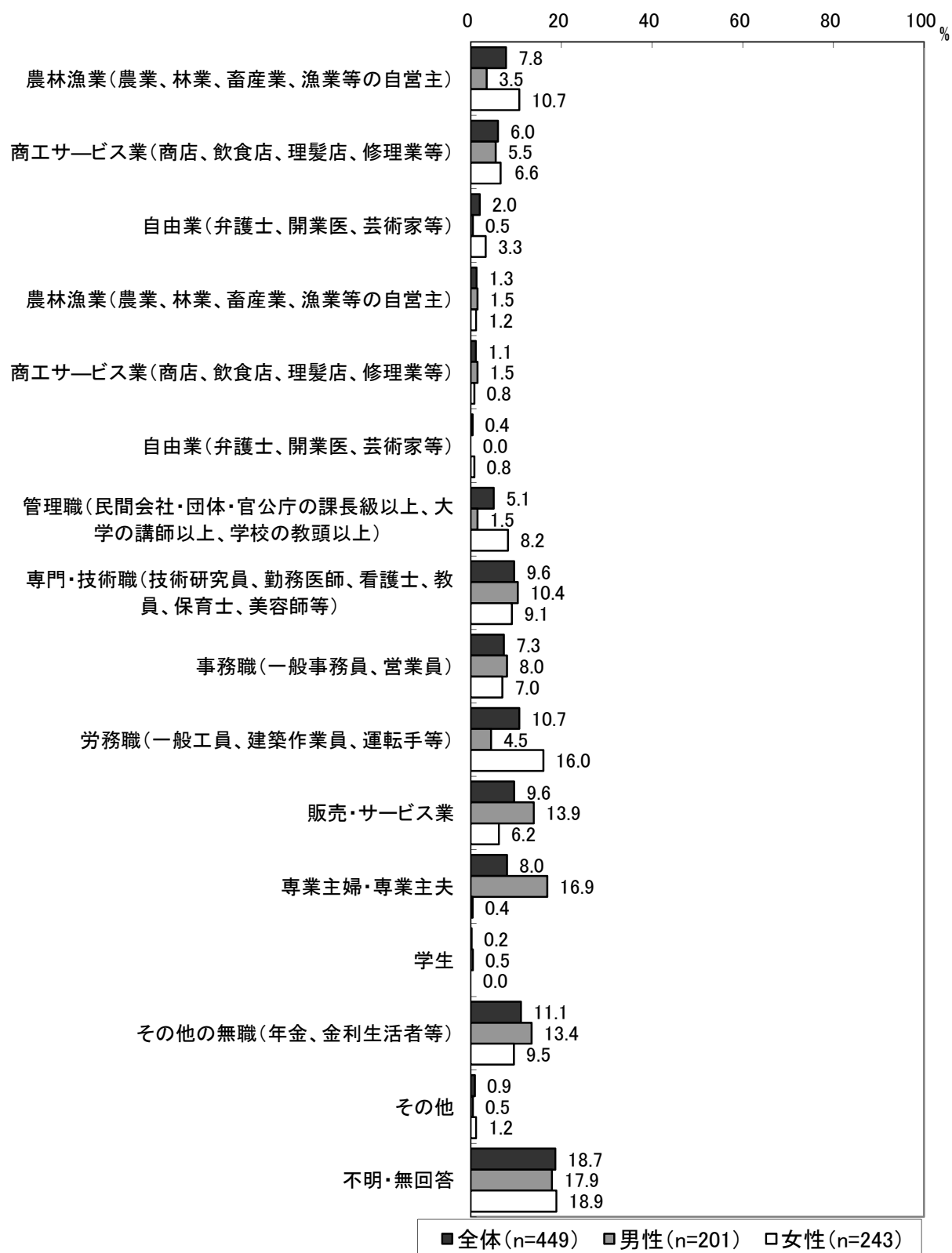
性年齢別にみると、「常勤（フルタイム）」は男性の 40～50 歳代、女性の 20 歳代でそれぞれの性の全体と比較して高くなっています。



※問5で「1. 結婚している（事実婚を含む）」を選択した方にうかがいます。

問 14-2 あなたの配偶者の職業はどれに該当しますか。下の選択肢の中から選び、最もあてはまる番号1つを記入してください。

配偶者の職業については、全体では「その他の無職（年金、金利生活者等）」が11.1%で最も高く、次いで「労務職（一般工員、建築作業員、運転手等）」が10.7%、「専門・技術職（技術研究員、勤務医師、看護師、教員、保育士、美容師等）」と「販売・サービス業」がともに9.6%となっています。



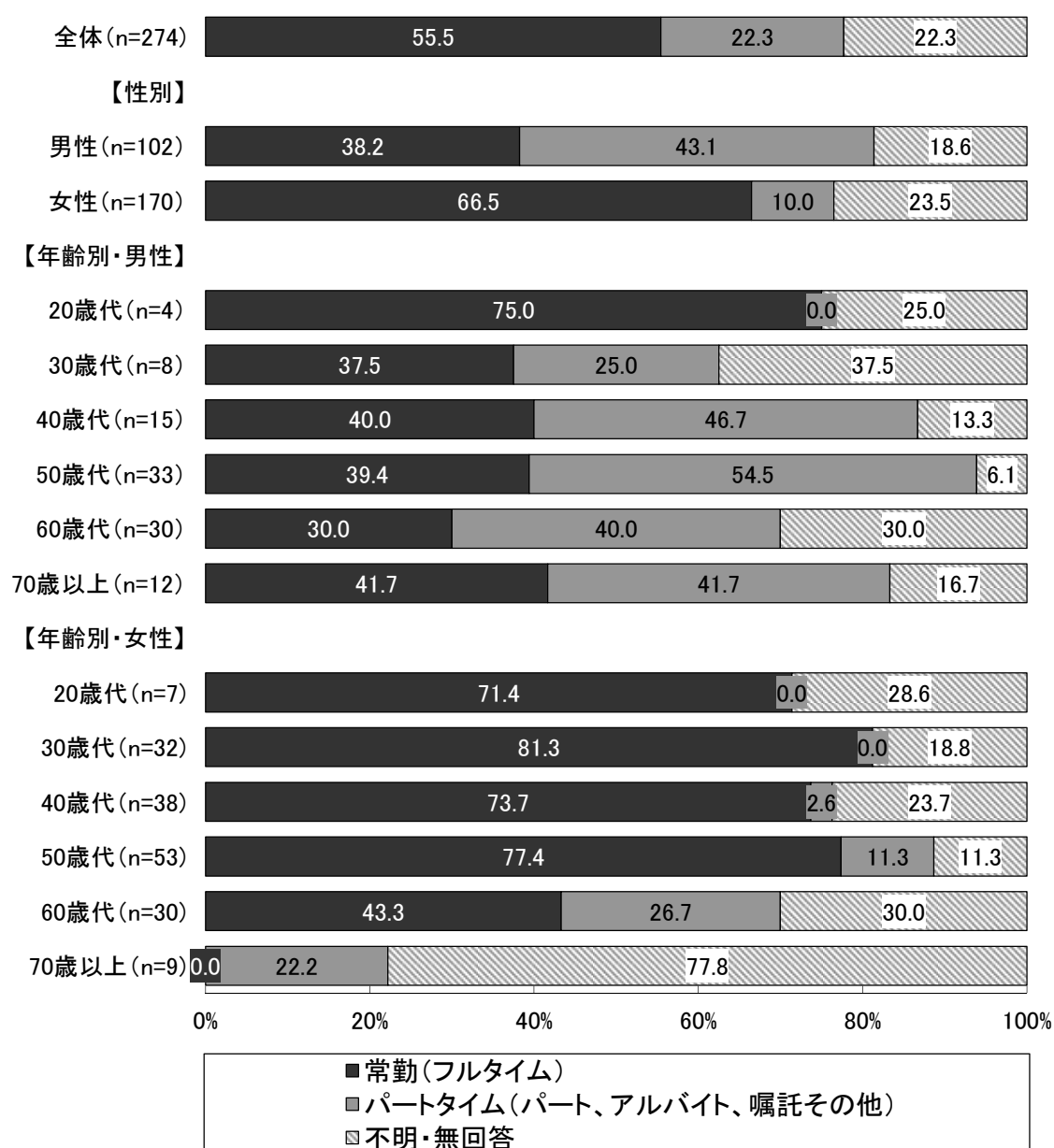
※問 14-2 で「1～11」を選択した方にうかがいます。

問 14-3 あなたの配偶者の勤務形態はどれですか。(1つに○)

配偶者の勤務形態については、全体では「常勤（フルタイム）」が 55.5%で、「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」の 22.3%を上回っています。

性別にみると、男性で「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」が、女性で「常勤（フルタイム）」が全体に比べて高くなっています。

性年齢別にみると、男性の 20 歳代では「常勤（フルタイム）」が、50 歳代で「パートタイム（パート、アルバイト、嘱託その他）」が男性全体に比べて高くなっています。また、女性の 30 歳代・50 歳代では「常勤（フルタイム）」が女性全体に比べて高く、60 歳代以上で低くなっています。



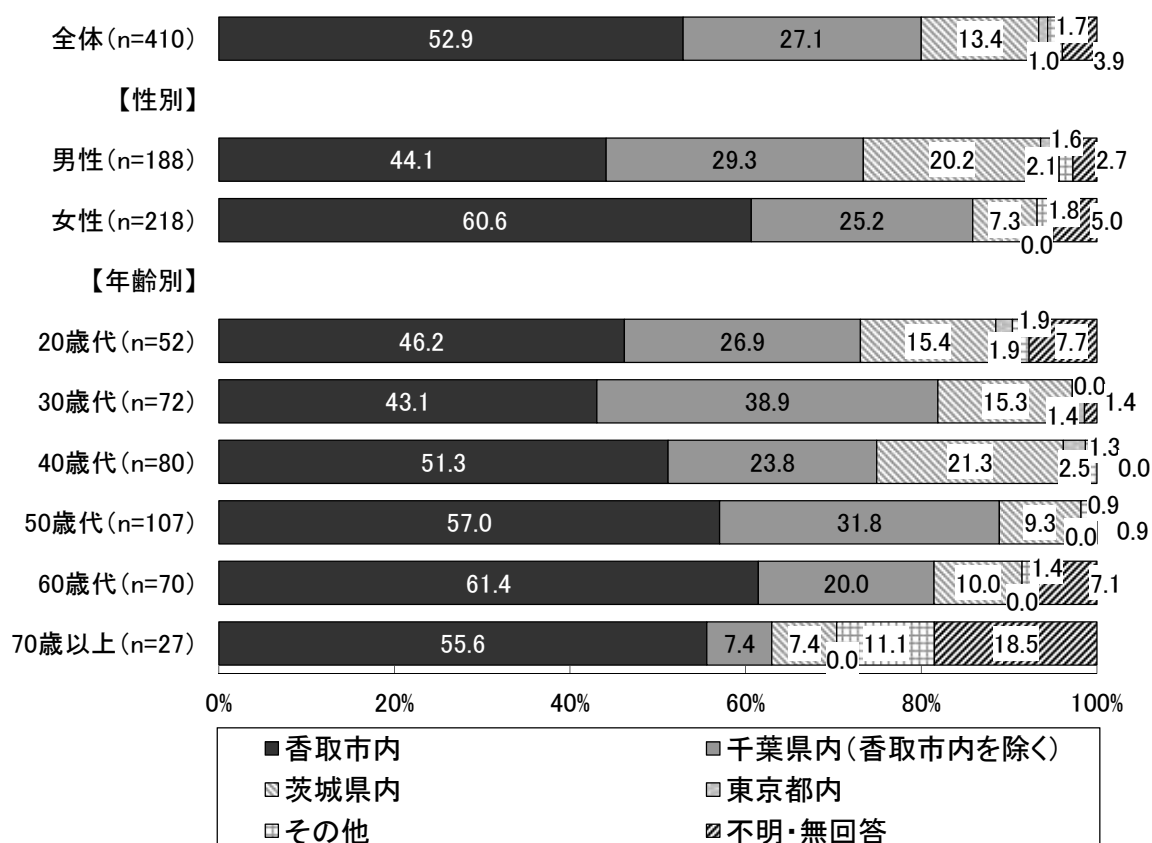
※問 15 から問 17 は有職者の方（問 14 で「1～11」を選択した方）にうかがいます。

問 15 あなたの勤務先はどちらですか。（1つに○）

勤務先については、全体では「香取市内」が 52.9%で最も高く、次いで「千葉県内（香取市内を除く）」が 27.1%、「茨城県内」が 13.4%となっています。

性別にみると、女性で「香取市内」が全体と比較してやや高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「香取市内」が4割を超え、30～60歳代では年齢が上がるにつれ高くなっています。また、30歳代で「千葉県内（香取市内を除く）」が全体に比べて高く、70歳以上で低くなっています。



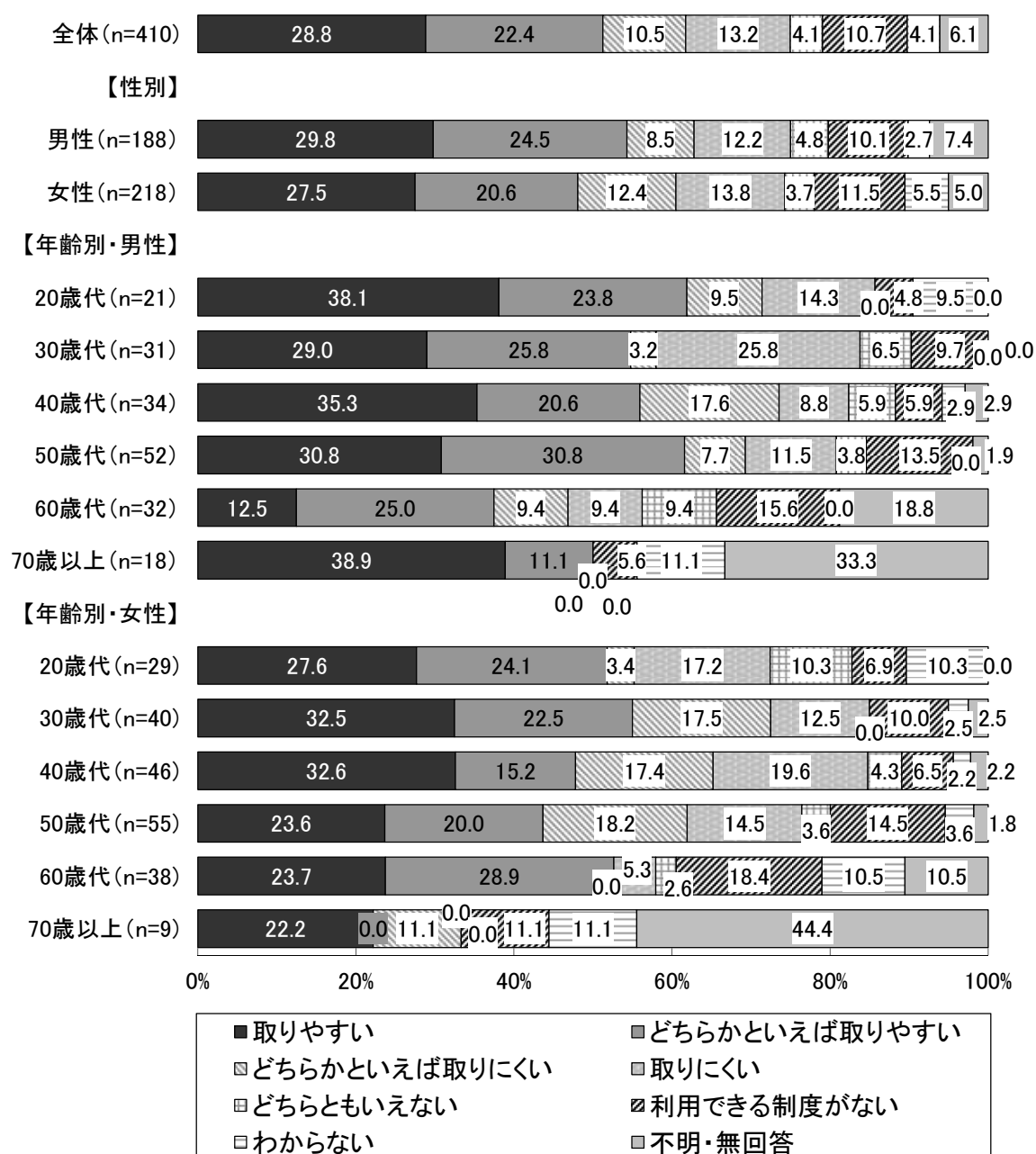
問 16 あなたの職場では、有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。(①～③それぞれ1つに○)

【①有給休暇】

〔有給休暇〕については、全体では「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」を合わせた“取りやすい”が51.2%で、「どちらかといえば取りにくい」と「取りにくい」を合わせた“取りにくい”の23.7%を上回っています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

性年齢別にみると、男性の60歳代では“取りやすい”が男性全体に比べて低くなっています。また、女性の40歳代で“取りにくい”が女性全体に比べて高く、60歳代以上で低くなっています。

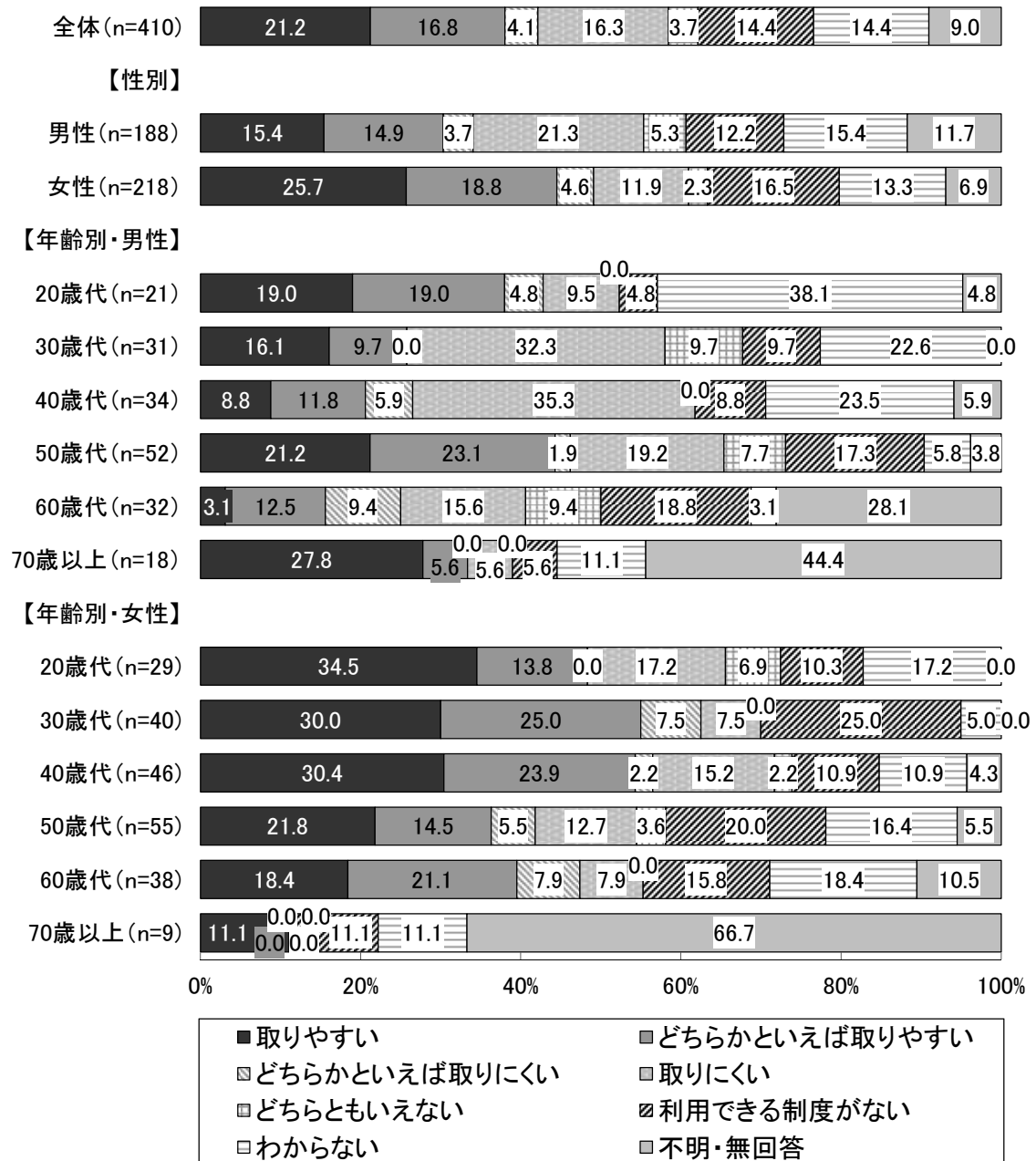


【②育児休業】

〔育児休暇〕については、全体では「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」を合わせた“取りやすい”が38.0%で「どちらかといえば取りにくい」と「取りにくい」を合わせた“取りにくい”の20.4%を上回っています。

性別にみると、男性で“取りやすい”が全体に比べてやや低く、女性でやや高くなっています。

性年齢別にみると、男性の50歳代では“取りやすい”が男性全体に比べて高く、40歳代で“取りにくい”が男性全体に比べて高くなっています。また、女性の30歳代では“取りやすい”が女性全体に比べて高く、70歳以上で低くなっています。

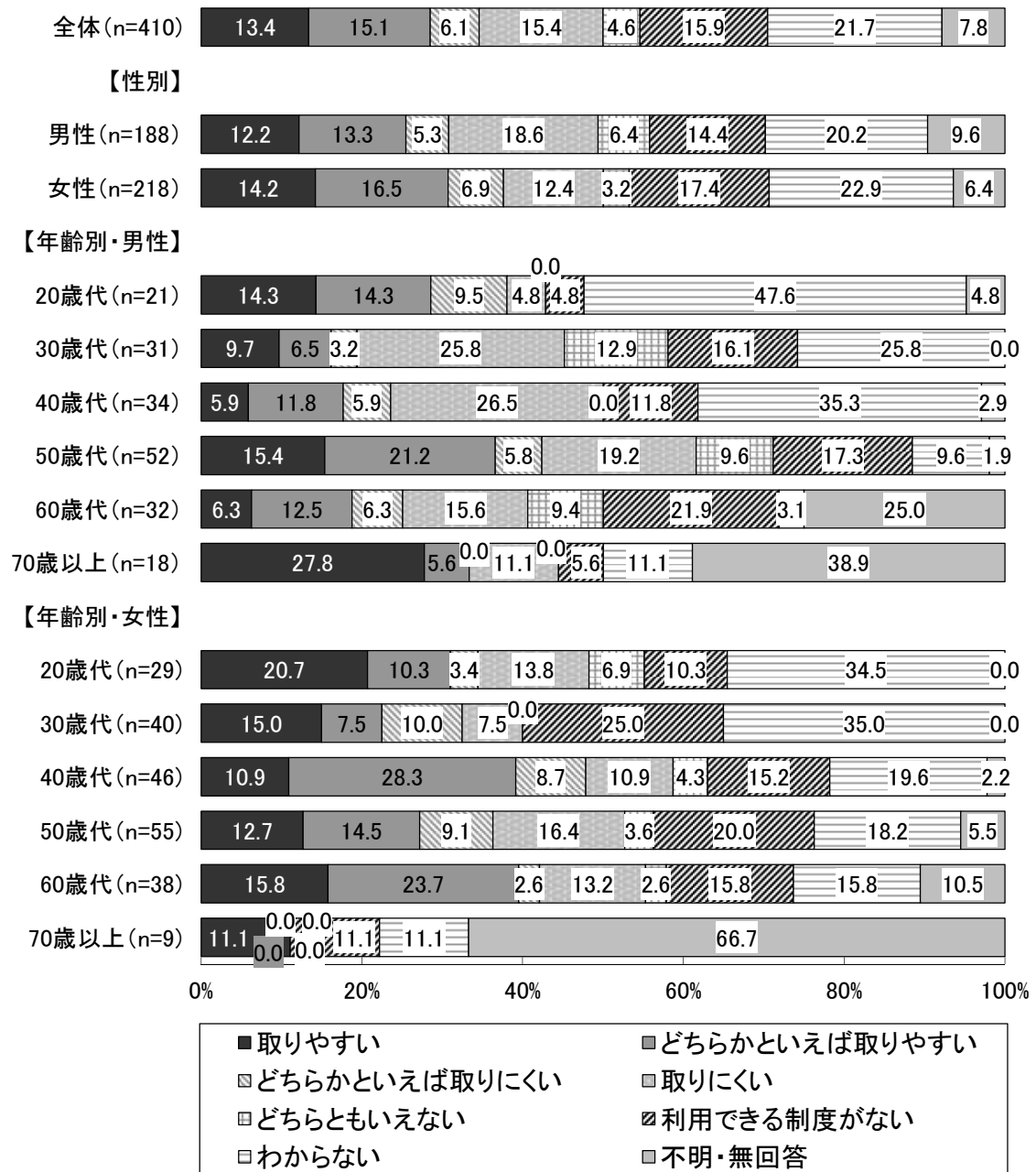


【③介護休業】

[介護休暇]については、全体では「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」を合わせた“取りやすい”が28.5%で「どちらかといえば取りにくい」と「取りにくい」を合わせた“取りにくい”の21.5%を上回っています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向となっています。

性年齢別にみると、男性の50歳代では“取りやすい”が男性全体に比べて高くなっており、70歳以上で“取りにくい”が低くなっています。また、女性の40歳代・60歳代では“取りやすい”がやや高く、50歳代では“取りにくい”がやや高くなっています。

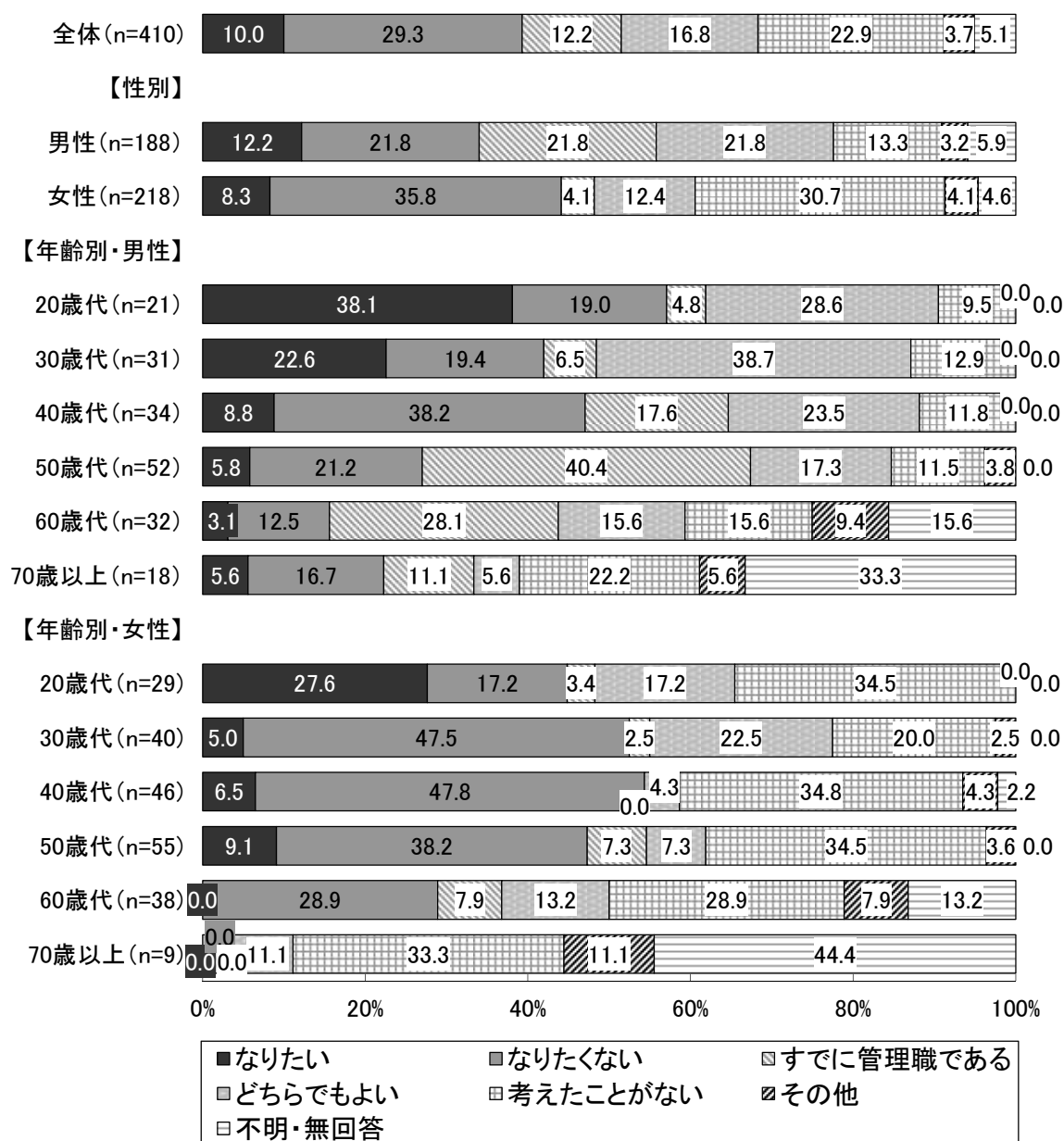


問 17 あなたは機会があれば、管理職になりたいですか。（1つに○）

管理職になりたいかについては、全体では「なりたくない」が29.3%で最も高く、次いで「考えたことがない」が22.9%、「どちらでもよい」が16.8%となっています。

性別にみると、男性で「すでに管理職である」「どちらでもよい」が全体に比べてやや高く、「なりたくない」「考えたことがない」がやや低くなっています。また、女性で「なりたくない」「考えたことがない」が全体に比べてやや高く、「すでに管理職である」がやや低くなっています。

性年齢別にみると、男性の30歳代以下では「なりたくない」、40歳代で「なりたくない」、50歳代で「すでに管理職である」が、それぞれ男性全体に比べて高くなっています。一方、女性の20歳代では「なりたくない」、30～40歳代では「なりたくない」が、それぞれ女性全体に比べて高くなっています。

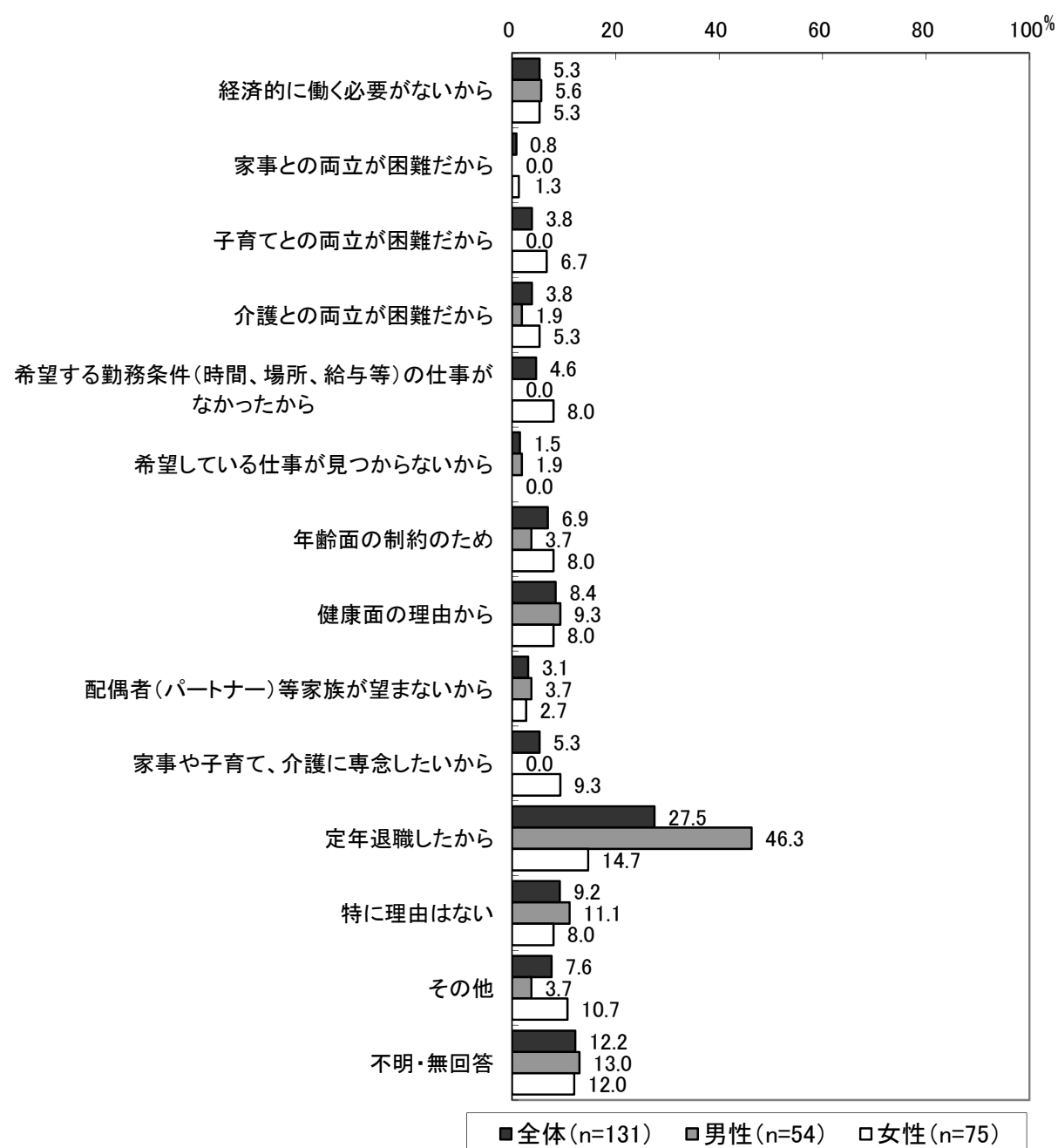


※問 18～問 19-2 は現在働いていない方（問 14 で「12～15」を選択した方）にうかがいます。

問 18 あなたが現在、働いていない最も大きな理由は何ですか。（1 つに○）

働いていない最も大きな理由については、全体では「定年退職したから」が 27.5% で最も高く、次いで「特に理由はない」が 9.2%、「健康面の理由から」が 8.4% となっています。

性別にみると、男性で「定年退職したから」が全体に比べて高く、女性では低くなっています。

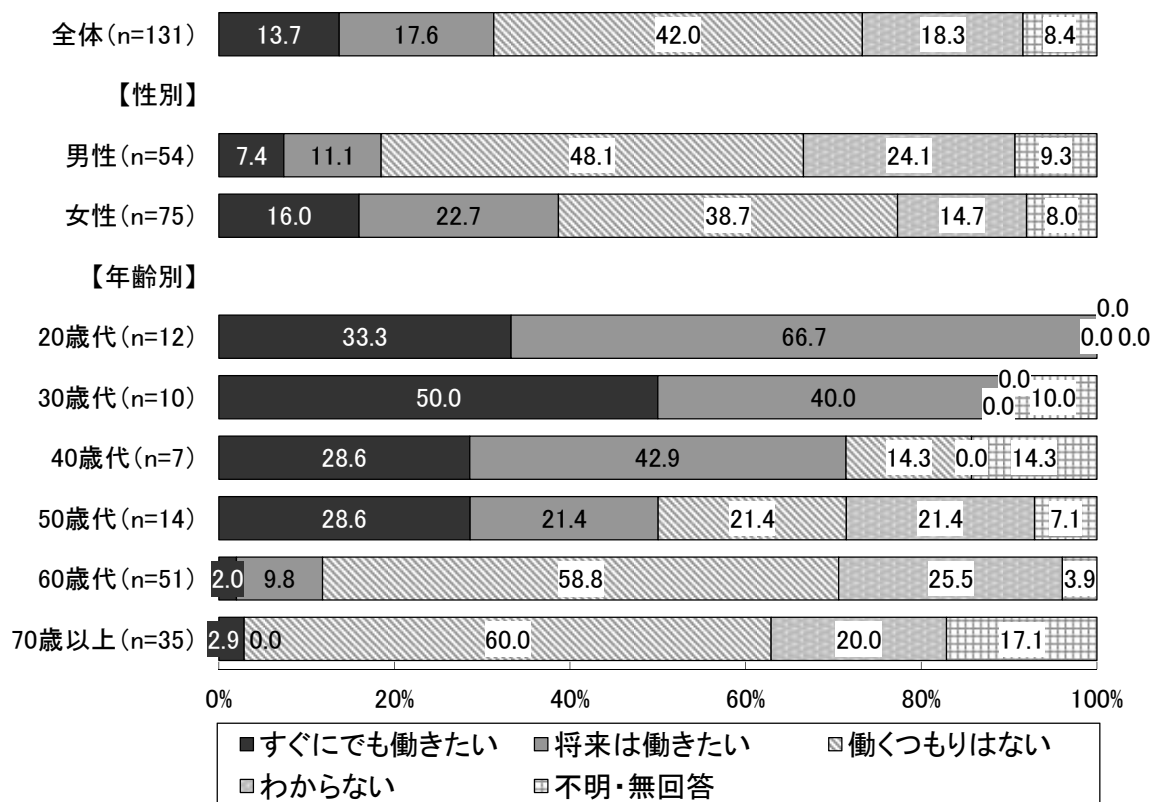


問 19 あなたは、今後職業に就きたいと思いますか。(1つに○)

今後職業に就きたいかについては、全体では「働くつもりはない」が 42.0%で最も高く、次いで「わからない」が 18.3%、「将来は働きたい」が 17.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「働くつもりはない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、50 歳代以下で「すぐにでも働きたい」が、40 歳代以下で「将来は働きたい」が、60 歳代以上で「働くつもりはない」が全体に比べて高くなっています。50 歳代以下で「働くつもりはない」、60 歳以上で「すぐにでも働きたい」が全体に比べて低くなっています。



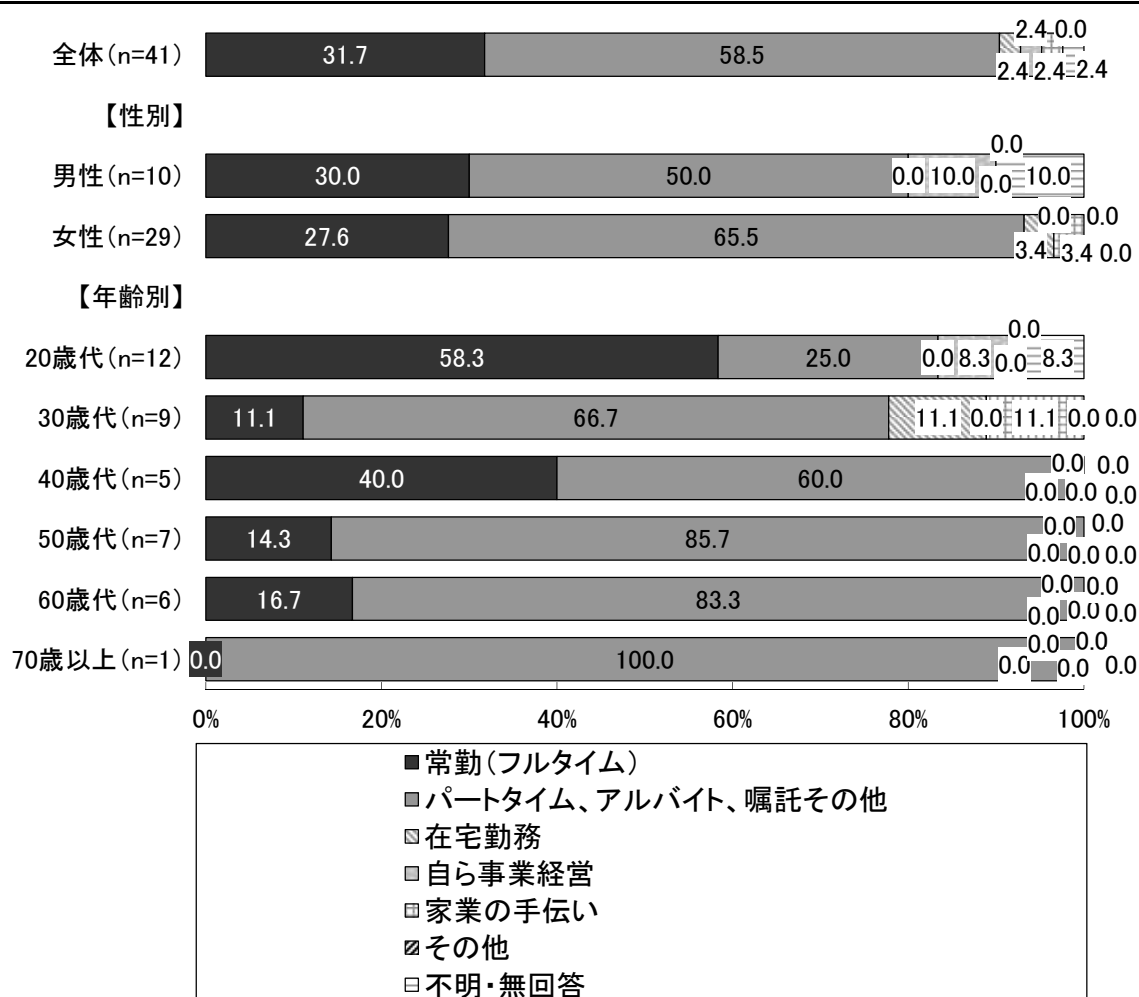
※問 19 で「1」または「2」を選択した方にうかがいます。

問 19-1 今後どのような形で働きたいですか。(1つに○)

今後どのような形で働きたいかについては、全体では「パートタイム、アルバイト、嘱託その他」が58.5%で最も高く、次いで「常勤(フルタイム)」が31.7%、「在宅勤務」「自ら事業経営」「家業の手伝い」がそれぞれ2.4%となっています。

性別にみると、男性で「パートタイム、アルバイト、嘱託その他」が全体に比べてやや低く、「自ら事業経営」が全体に比べてやや高くなっています。

年齢別にみると、20歳代で「常勤(フルタイム)」が全体に比べて高くなっています。また、30歳代以上で「パートタイム、アルバイト、嘱託その他」が6割以上を占めており、50歳代以上で全体に比べて高くなっています。

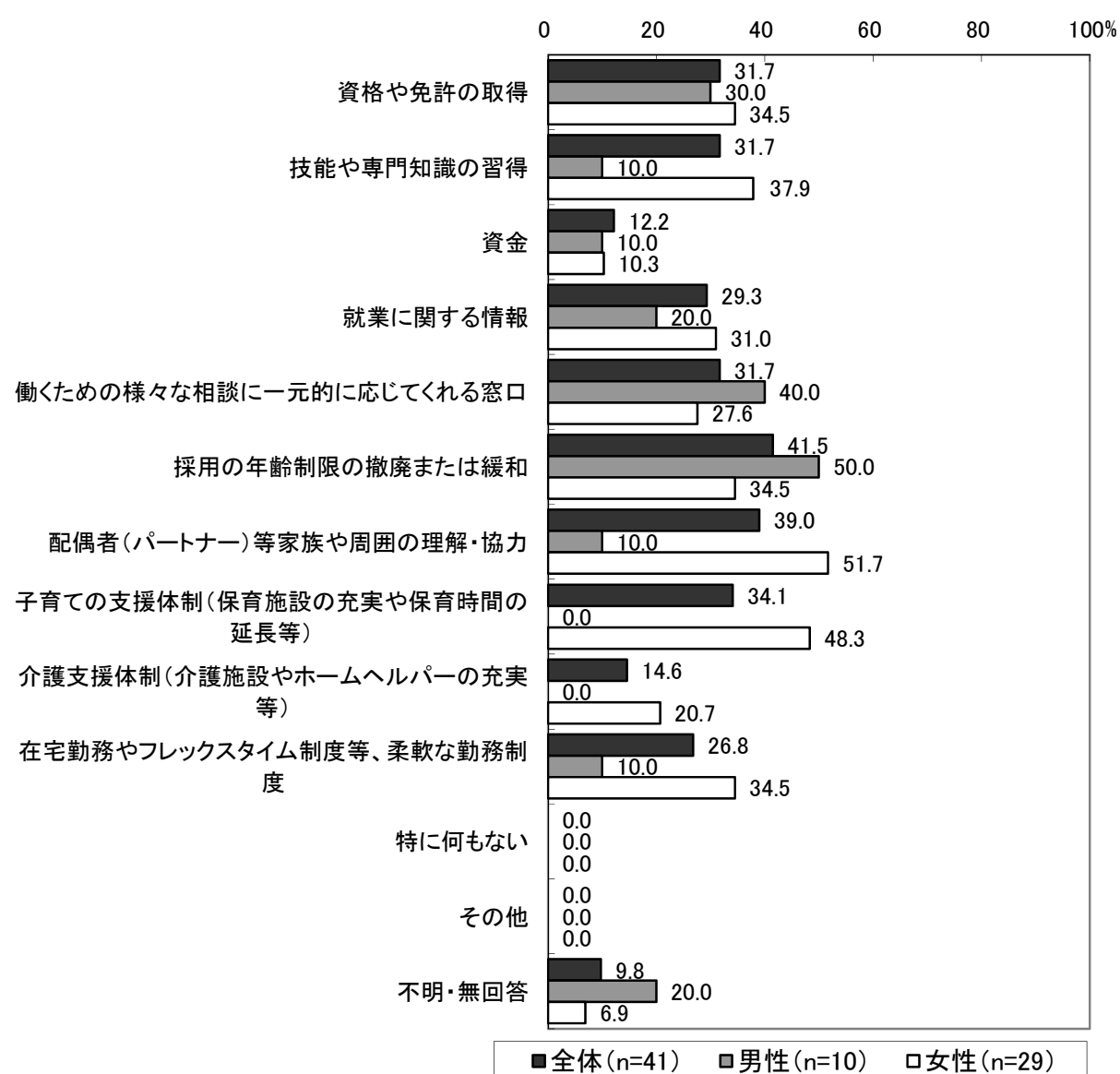


※問 19 で「1」または「2」を選択した方にうかがいます。

問 19-2 仕事を始めるにあたって、どのようなものが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

仕事を始めるにあたって必要なものについては、全体では「採用の年齢制限の撤廃または緩和」が 41.5%で最も高く、次いで「配偶者（パートナー）等家族や周囲の理解・協力」が 39.0%、「子育ての支援体制（保育施設の充実や保育時間の延長等）」が 34.1%となっています。

性別にみると、男性で「働くための様々な相談に一元的に応じてくれる窓口」「採用の年齢制限の撤廃または緩和」が全体に比べてやや高くなっています。また、女性で「配偶者（パートナー）等家族や周囲の理解・協力」「子育ての支援体制（保育施設の充実や保育時間の延長等）」が全体に比べて高くなっています。



※すべての方にうかがいます。

問 20 ご自身と配偶者の働き方について、理想と現実はどうですか。①～④について、それぞれ下の選択肢から 1 つ選び、番号を記入してください。

※結婚されていない方は、将来結婚した時のことを想定してお答えください。

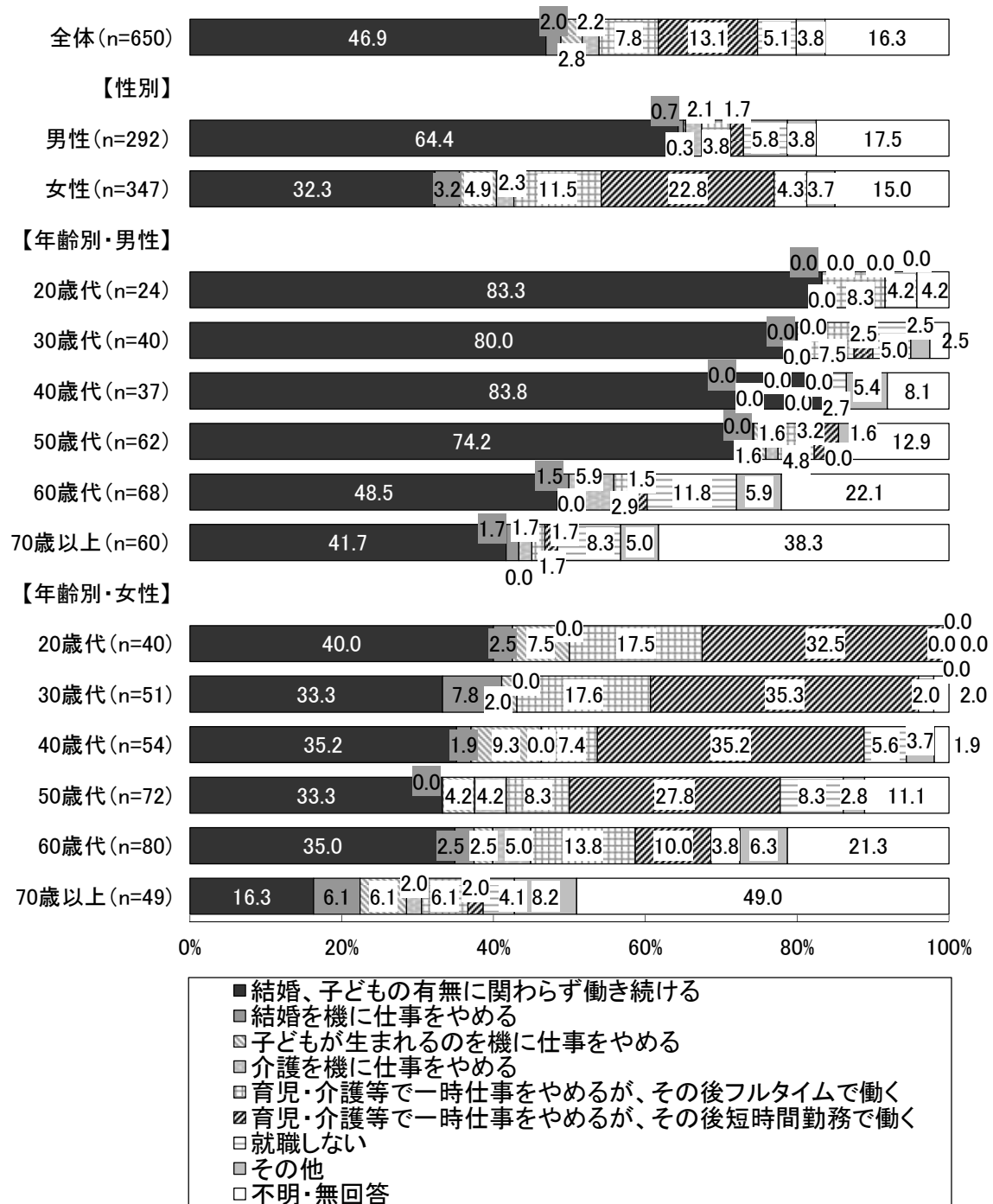
(①～④それぞれ 1 つずつ番号を記入)

【①あなた自身の働き方の理想】

「あなた自身の働き方の理想」については、全体では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が 46.9%で最も高く、次いで「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」が 13.1%、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後フルタイムで働く」が 7.8%となっています。

性別にみると、男性で「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が全体に比べて高く、女性で低くなっています。

性年齢別にみると、男性の 50 歳代以下では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が 7 割を超えています。一方、女性の 70 歳以上では女性全体に比べて低くなっています。また、50 歳代以下で「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」が 3 割前後となっており、30～40 歳代で女性全体に比べて高くなっています。

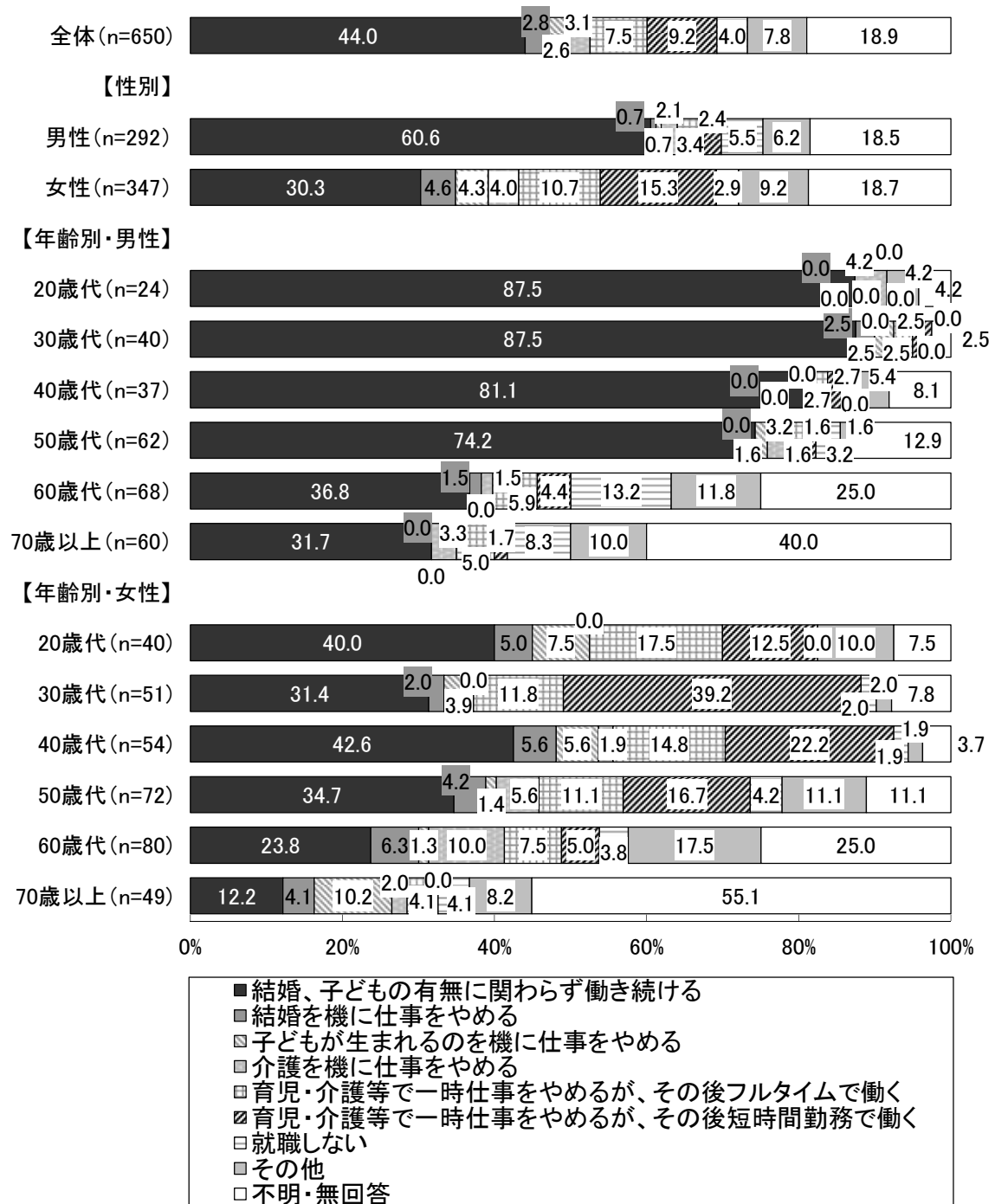


【②あなた自身の働き方の現実】

「あなた自身の働き方の現実」については、全体では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が44.0%で最も高く、次いで「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」が9.2%、「その他」が7.8%となっています。

性別にみると、男性で「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が全体に比べて高く、女性で低くなっています。

性年齢別にみると、男性の50歳代以下では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が7割を超え男性全体に比べて高く、年齢が上がるにつれ低くなっています。一方、女性の40歳代では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が女性全体に比べて高く、50歳代以下で3～4割台となっています。また、30歳代以下で「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」が女性全体に比べて高くなっています。

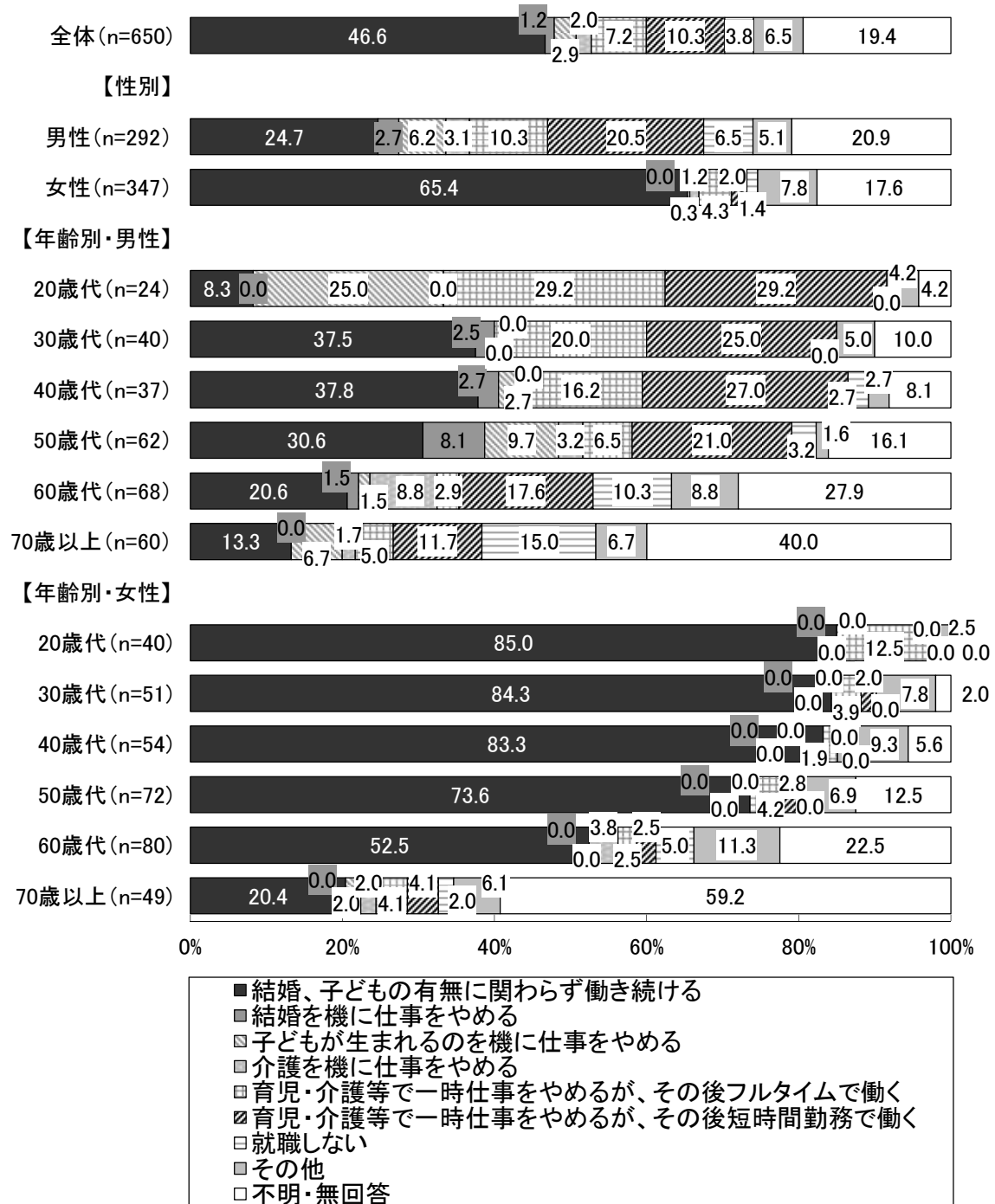


【③あなたの配偶者に望む理想的な働き方】

「あなたの配偶者に望む理想的な働き方」については、全体では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が 46.6%で最も高く、次いで「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」が 10.3%、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後フルタイムで働く」が 7.2%となっています。

性別にみると、男性で「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が全体に比べて低く、女性で高くなっています。また、男性で「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」が全体に比べて高くなっています。

性年齢別にみると、男性の 30～40 歳代では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が男性全体に比べて高くなっています。20 歳代で「子どもが生まれるのを機に仕事をやめる」「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後フルタイムで働く」が男性全体に比べて高くなっています。また、女性の 40 歳代以下では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が 8 割を超え女性全体に比べて高くなっています。

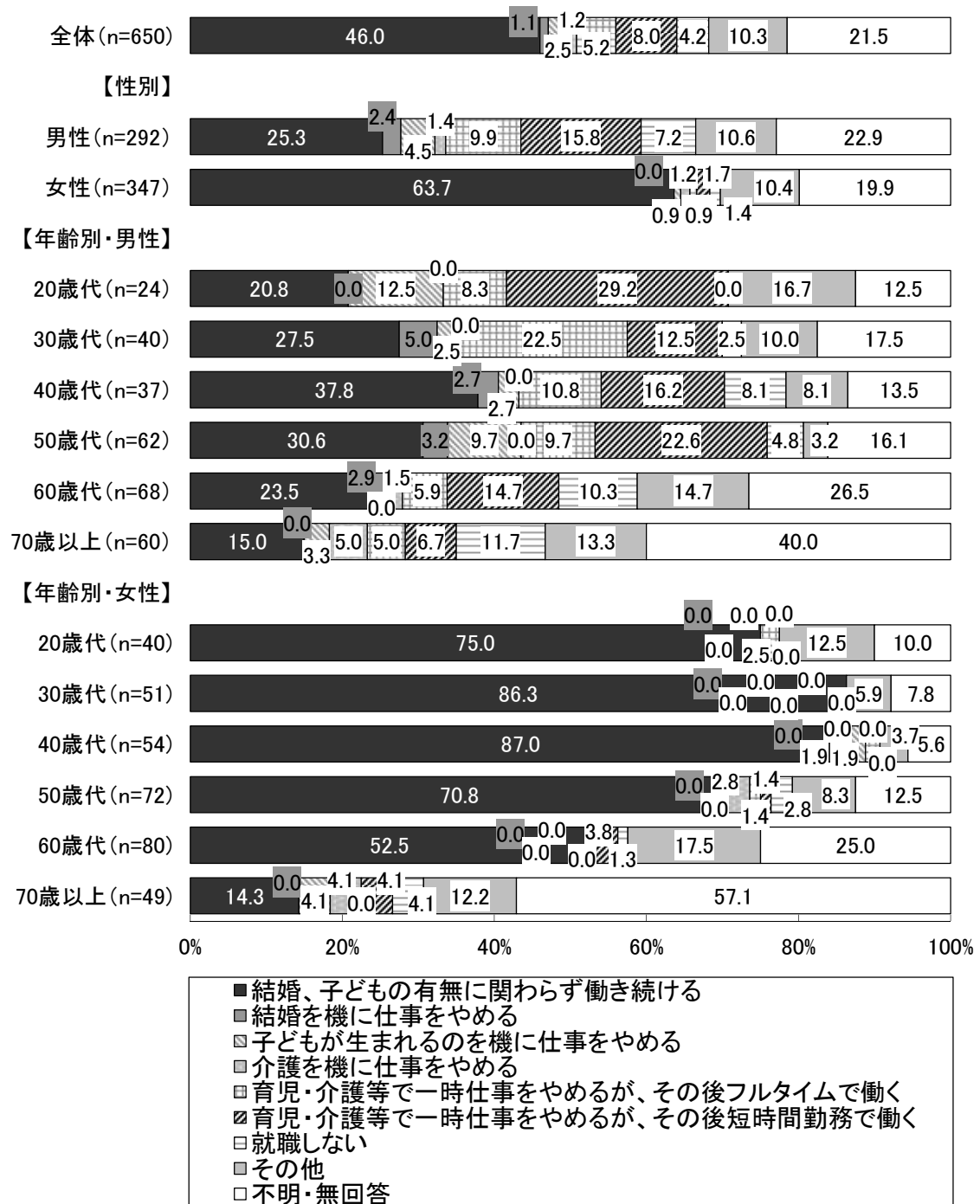


【④あなたの配偶者の働き方の現実】

「あなたの配偶者の働き方の現実」については、全体では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が 46.0%で最も高く、次いで「その他」が 10.3%、「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」が 8.0%となっています。

性別にみると、「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が男性で全体に比べて低く、女性で高くなっています。

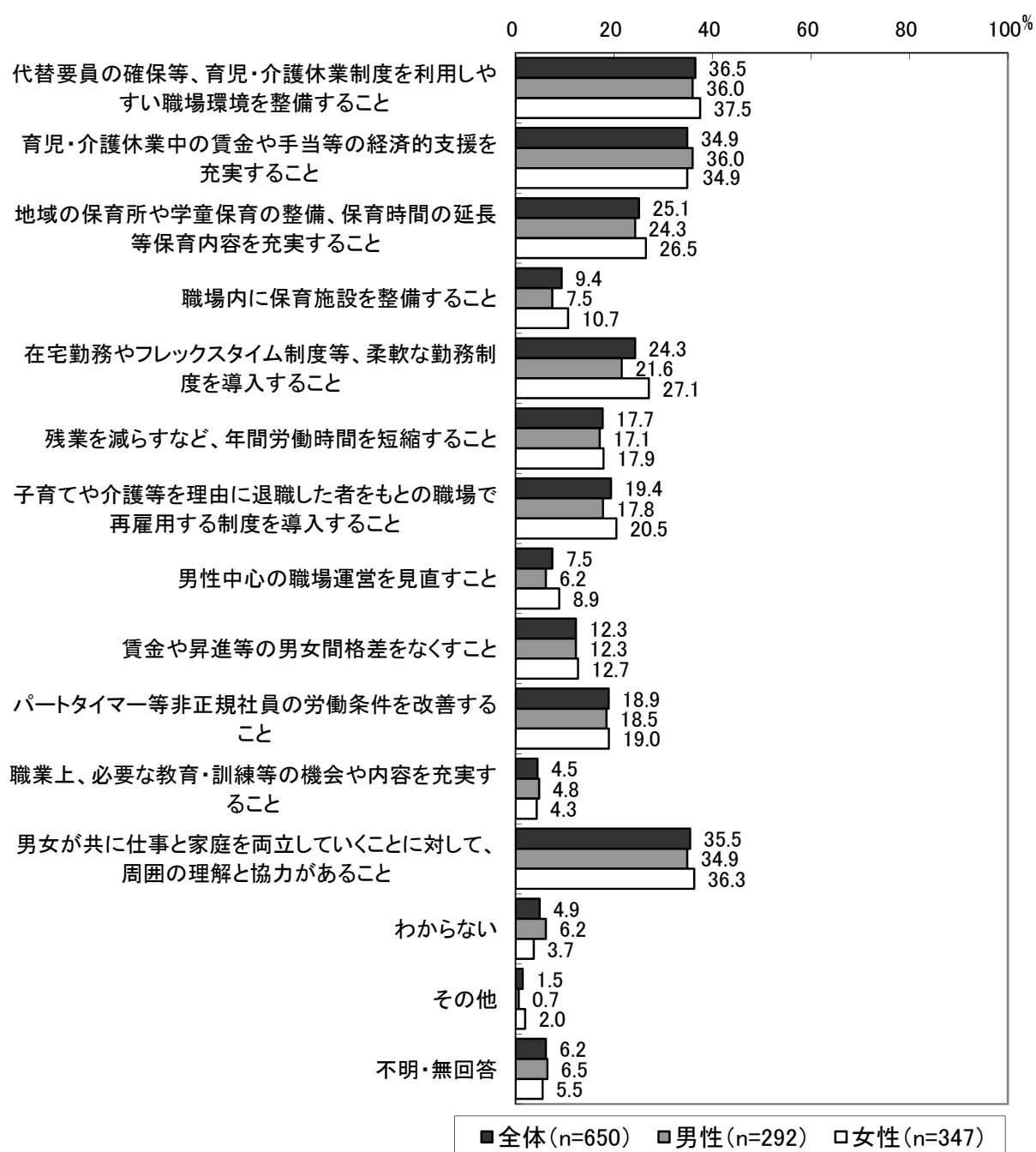
性年齢別にみると、男性の 40 歳代では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が男性全体に比べて高く、また、30 歳代で「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後フルタイムで働く」が、20 歳代で「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」が男性全体に比べて高くなっています。一方、女性の 40 歳代以下では「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が女性全体に比べて高くなっています。



問 21 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思われますか。(3つまで○)

男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要な環境整備については、全体では「代替要員の確保等、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」が36.5%で最も高く、次いで「男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」が35.5%、「育児・介護休業中の賃金や手当等の経済的支援を充実すること」が34.9%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



性年齢別にみると、男性 50 歳代、女性 40 歳代で「代替要員の確保等、育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境を整備すること」、女性 30 歳代で「地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長等保育内容を充実すること」、男性 20 歳代で「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な勤務制度を導入すること」、女性 20 歳代で「男性中心の職場運営を見直すこと」、男性 30 歳代と女性 20 歳代で「残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」がそれぞれ全体と比較して高くなっています。

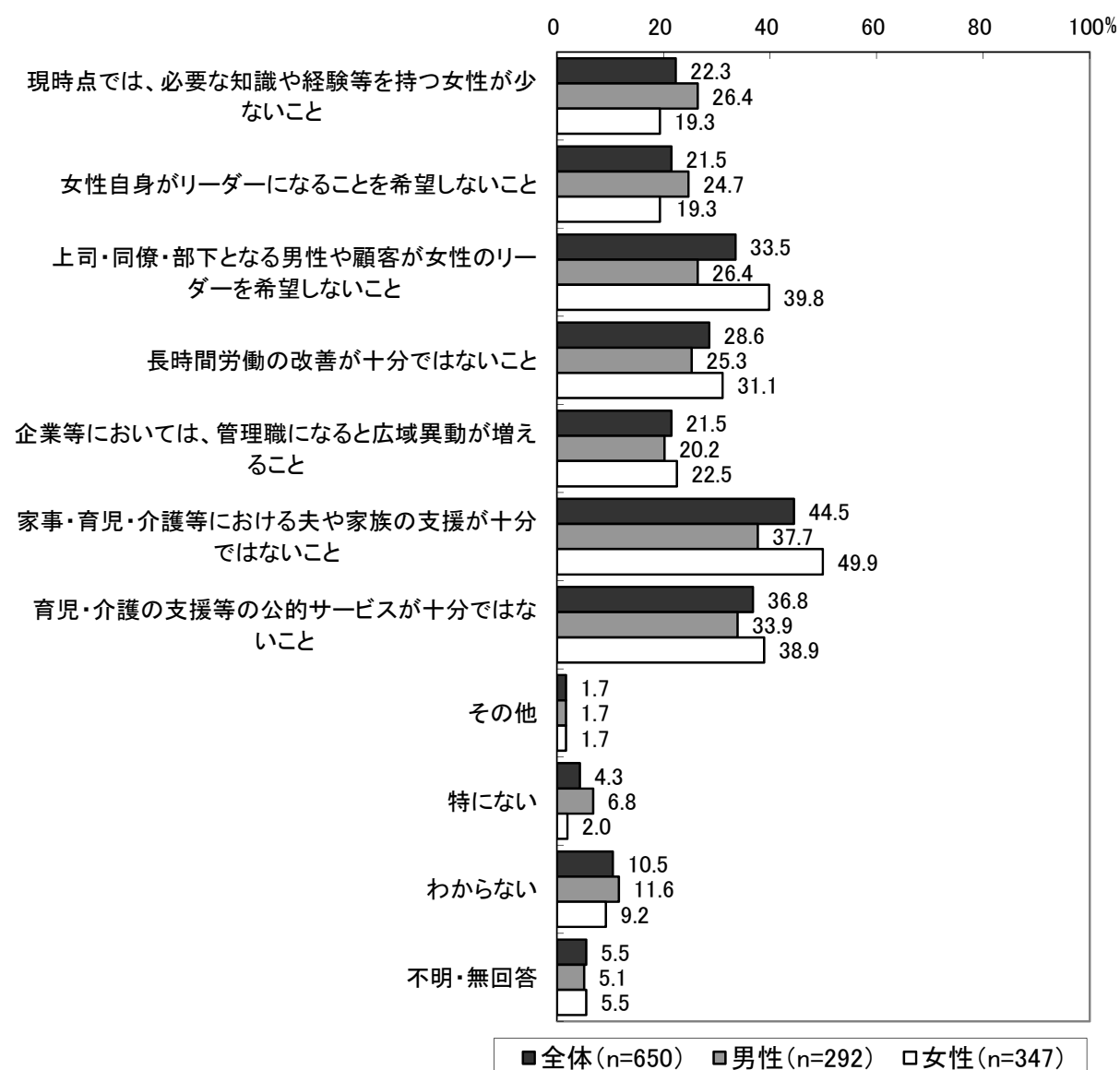
■性・年齢別クロス集計

	合計	代替要員の確保等、育児・介護環境を整備すること	育児・介護休業中の賃金や手当等の経済的支援を充実すること	地域の保育所や学童保育の整備、保育時間の延長等保育内容を充実すること	職場内に保育施設を整備すること	在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な勤務制度を導入すること	残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること	子育てや介護等を理由に退職した者をもとの職場で再雇用すること	男性中心の職場運営を見直すこと	賃金や昇進等の男女間格差をなくすること
【年齢別・男性】										
20歳代	24	33.3	50.0	20.8	8.3	41.7	16.7	12.5	0.0	20.8
30歳代	40	42.5	32.5	20.0	15.0	17.5	30.0	20.0	5.0	10.0
40歳代	37	35.1	43.2	27.0	13.5	16.2	21.6	21.6	5.4	8.1
50歳代	62	50.0	46.8	24.2	3.2	30.6	14.5	11.3	6.5	9.7
60歳代	68	29.4	30.9	32.4	5.9	17.6	14.7	20.6	7.4	13.2
70歳以上	60	26.7	21.7	18.3	5.0	15.0	11.7	20.0	8.3	15.0
【年齢別・女性】										
20歳代	40	45.0	47.5	32.5	10.0	25.0	32.5	20.0	17.5	15.0
30歳代	51	37.3	43.1	37.3	17.6	35.3	21.6	9.8	7.8	9.8
40歳代	54	48.1	37.0	29.6	5.6	27.8	22.2	16.7	3.7	16.7
50歳代	72	43.1	29.2	20.8	11.1	29.2	13.9	27.8	13.9	16.7
60歳代	80	28.8	32.5	23.8	3.8	23.8	15.0	26.3	6.3	10.0
70歳以上	49	26.5	26.5	20.4	20.4	22.4	8.2	16.3	6.1	8.2
		パートタイム等非常勤社員の労働条件を改善すること	職業上、必要な教育・訓練等の機会や内容を充実すること	男女が共に仕事と家庭を両立し、よく協力があること	わからない	その他	不明・無回答			
【年齢別・男性】										
20歳代	24	12.5	8.3	25.0	4.2	0.0	0.0			
30歳代	40	15.0	7.5	35.0	0.0	0.0	5.0			
40歳代	37	18.9	5.4	27.0	13.5	0.0	0.0			
50歳代	62	19.4	4.8	35.5	4.8	1.6	3.2			
60歳代	68	19.1	2.9	39.7	5.9	1.5	8.8			
70歳以上	60	20.0	3.3	38.3	8.3	0.0	15.0			
【年齢別・女性】										
20歳代	40	7.5	5.0	45.0	0.0	0.0	0.0			
30歳代	51	13.7	5.9	41.2	3.9	5.9	0.0			
40歳代	54	11.1	1.9	40.7	3.7	1.9	0.0			
50歳代	72	19.4	5.6	30.6	0.0	2.8	6.9			
60歳代	80	27.5	3.8	36.3	5.0	1.3	8.8			
70歳以上	49	26.5	4.1	28.6	10.2	0.0	14.3			

問 22 あなたは、政治・経済・地域等の各分野で女性のリーダーを増やすときに障がいとなるものは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

女性のリーダーを増やすときに障がいとなるものについては、全体では「家事・育児・介護等における夫や家族の支援が十分ではないこと」が44.5%で最も高く、次いで「育児・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと」が36.8%、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性のリーダーを希望しないこと」が33.5%となっています。

性別にみると、男性で「家事・育児・介護等における夫や家族の支援が十分ではないこと」が全体に比べてやや低く、女性でやや高くなっています。また、女性で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性のリーダーを希望しないこと」が全体に比べてやや高くなっています。



性年齢別にみると、男性 30 歳代・70 歳以上で「現時点では、必要な知識や経験等を持つ女性が少ないこと」、女性 20・50・60 歳代で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性のリーダーを希望しないこと」、女性 30 歳代で「長時間労働の改善が十分ではないこと」、女性 20 歳代で「育児・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと」がそれぞれ全体と比較して高くなっています。

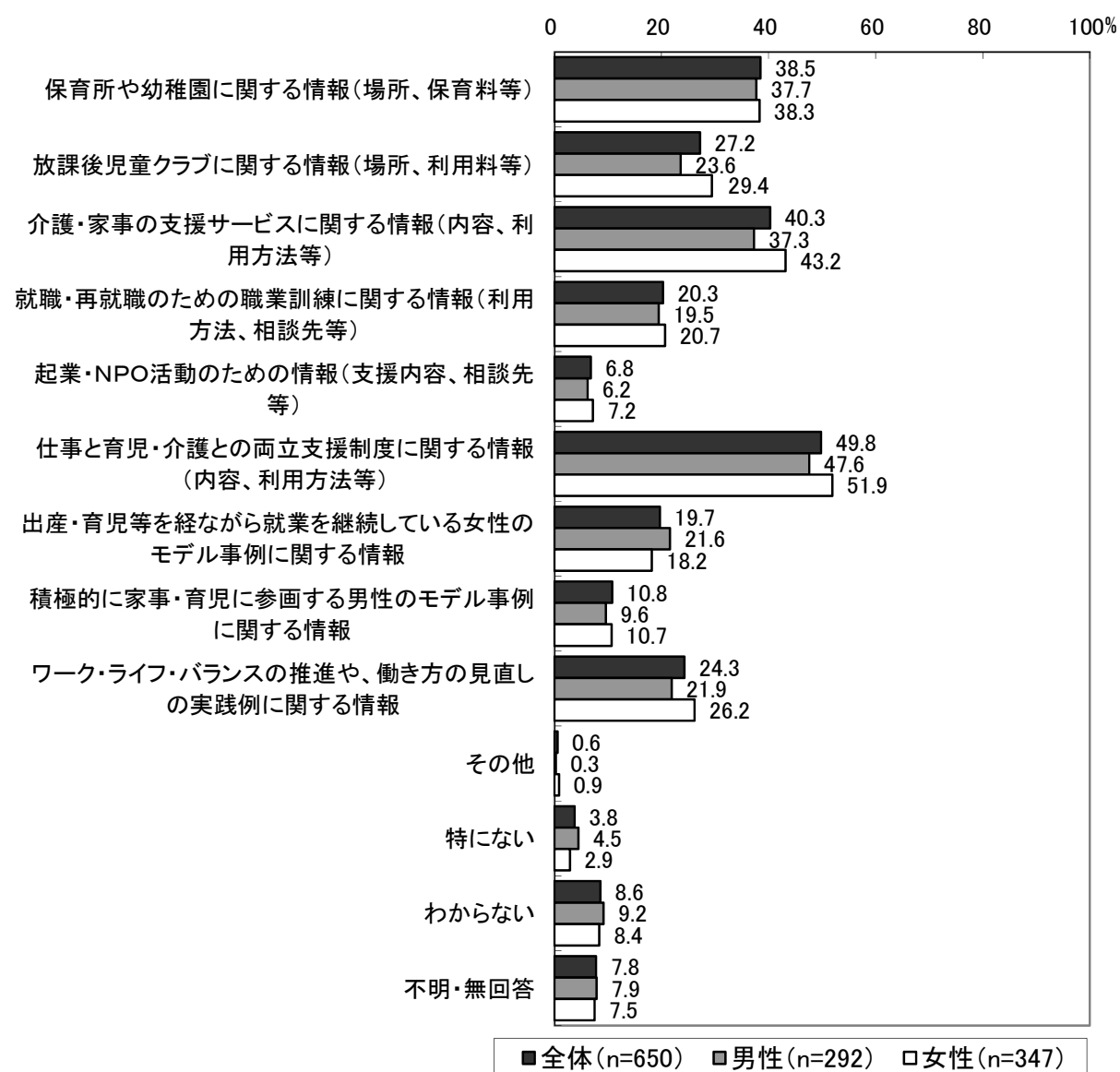
■性・年齢別クロス集計

	合計	現時点では、必要な知識や経験等	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が希望しないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	企業等において、管理職になる機会が増えること	家事・育児・介護等における夫や家族の支援が十分ではないこと	育児・介護の支援等の公的サービスが十分ではないこと	その他	特になし	わからない	不明・無回答
【年齢別・男性】												
20歳代	24	16.7	20.8	33.3	29.2	4.2	37.5	37.5	4.2	8.3	16.7	0.0
30歳代	40	32.5	27.5	25.0	27.5	10.0	37.5	25.0	5.0	5.0	12.5	2.5
40歳代	37	27.0	21.6	13.5	18.9	27.0	40.5	43.2	2.7	2.7	21.6	0.0
50歳代	62	25.8	33.9	25.8	22.6	14.5	43.5	41.9	1.6	4.8	4.8	3.2
60歳代	68	19.1	26.5	29.4	35.3	30.9	35.3	36.8	0.0	4.4	10.3	8.8
70歳以上	60	35.0	15.0	28.3	18.3	21.7	33.3	21.7	0.0	15.0	11.7	10.0
【年齢別・女性】												
20歳代	40	10.0	25.0	47.5	27.5	22.5	57.5	57.5	2.5	0.0	10.0	0.0
30歳代	51	11.8	13.7	27.5	47.1	17.6	62.7	45.1	3.9	2.0	5.9	0.0
40歳代	54	20.4	20.4	42.6	35.2	16.7	44.4	42.6	1.9	0.0	11.1	0.0
50歳代	72	19.4	20.8	48.6	26.4	22.2	54.2	38.9	0.0	4.2	6.9	8.3
60歳代	80	27.5	21.3	45.0	33.8	28.8	41.3	36.3	2.5	2.5	8.8	7.5
70歳以上	49	20.4	14.3	20.4	16.3	24.5	44.9	18.4	0.0	2.0	14.3	14.3

問 23 あなたは、女性の活躍推進の取り組みに関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。（あてはまるものすべてに○）

女性の活躍に関して必要な情報については、全体では「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法等）」が 49.8%で最も高く、次いで「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法等）」が 40.3%、「保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料等）」が 38.5%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



性年齢別にみると、男性 20 歳代・女性 30 歳代で「保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料等）」、男性 50 歳代と女性 50～60 歳代で「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法等）」、女性 40 歳代で「就職・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先等）」、女性 20 歳代で「出産・育児等を経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報」、男性 20 歳代で「積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報」、女性 20 歳代で「ワーク・ライフ・バランスの推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報」がそれぞれ全体と比較して高くなっています。

■性・年齢別クロス集計

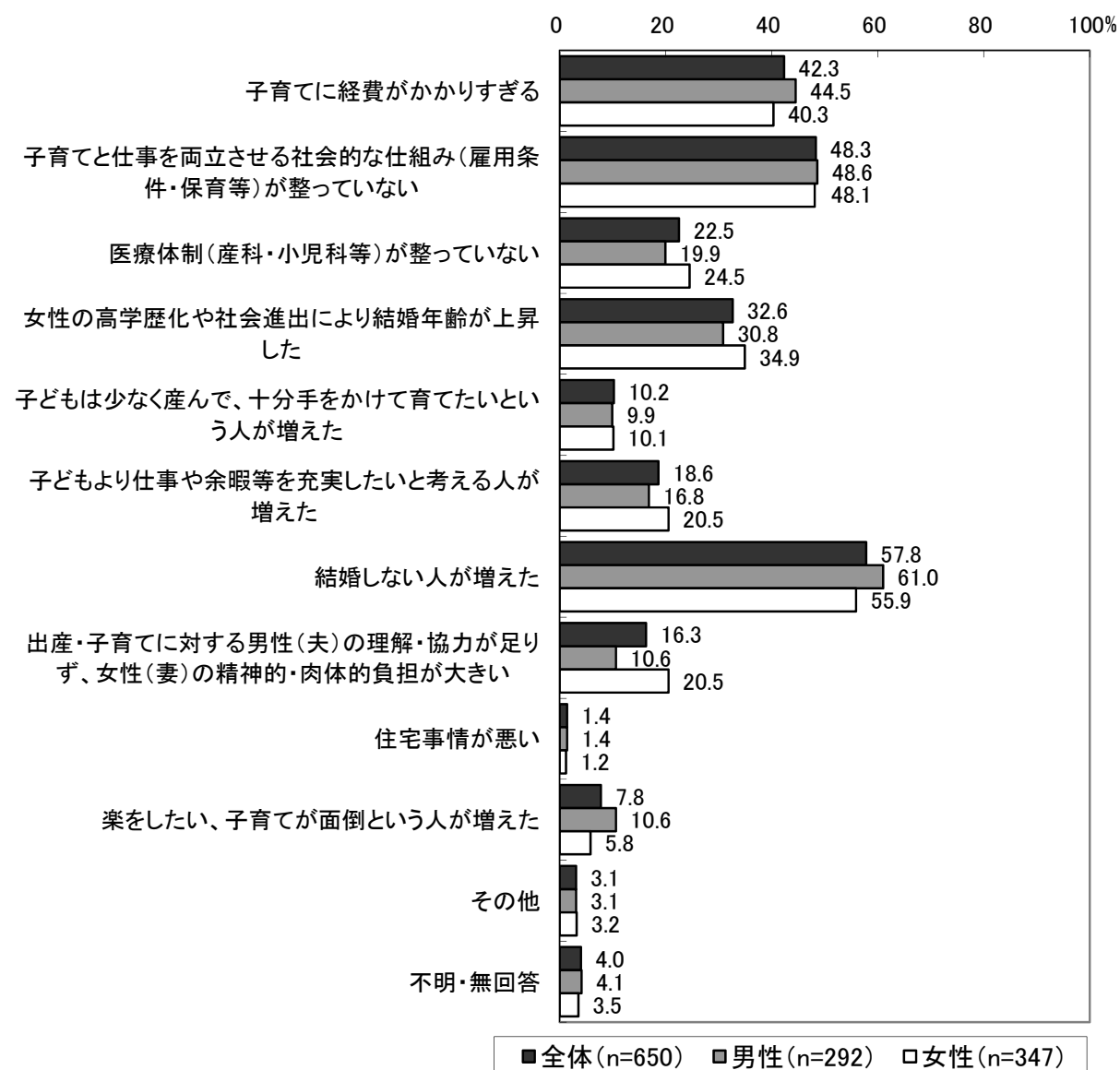
	合計	（保育所や幼稚園に関する情報	放課後児童クラブに関する情報	（場所、利用料等）	介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法等）	就労・再就職のための職業訓練に関する情報（利用方法、相談先等）	起業・NPO活動のための情報（支援内容、相談先等）	仕事と育児・介護との両立、支援制度に関する情報（内容、利用方法等）	事例に関する情報	出産・育児等を経ながら就業を継続している女性のモデル情報	積極的な家事・育児に関する情報	ワーク・ライフ・バランスの実践例に関する情報
【年齢別・男性】												
20歳代	24	75.0	37.5	25.0	29.2	4.2	45.8	20.8	20.8	33.3		
30歳代	40	37.5	15.0	17.5	17.5	7.5	42.5	40.0	7.5	20.0		
40歳代	37	37.8	32.4	32.4	18.9	5.4	43.2	21.6	13.5	21.6		
50歳代	62	40.3	29.0	54.8	16.1	6.5	59.7	22.6	8.1	33.9		
60歳代	68	33.8	17.6	45.6	25.0	8.8	45.6	19.1	7.4	20.6		
70歳以上	60	25.0	20.0	31.7	15.0	3.3	45.0	11.7	8.3	8.3		
【年齢別・女性】												
20歳代	40	67.5	35.0	42.5	17.5	2.5	60.0	35.0	12.5	45.0		
30歳代	51	56.9	51.0	29.4	11.8	5.9	58.8	17.6	13.7	29.4		
40歳代	54	38.9	31.5	40.7	38.9	13.0	61.1	14.8	18.5	27.8		
50歳代	72	29.2	23.6	50.0	18.1	5.6	55.6	19.4	9.7	19.4		
60歳代	80	23.8	23.8	52.5	21.3	7.5	47.5	15.0	7.5	25.0		
70歳以上	49	32.7	18.4	36.7	16.3	8.2	28.6	12.2	4.1	18.4		
	合計	その他	特にない	わからない	不明・無回答							
【年齢別・男性】												
20歳代	24	0.0	4.2	8.3	0.0							
30歳代	40	2.5	5.0	5.0	10.0							
40歳代	37	0.0	0.0	13.5	5.4							
50歳代	62	0.0	4.8	3.2	1.6							
60歳代	68	0.0	2.9	13.2	7.4							
70歳以上	60	0.0	8.3	10.0	18.3							
【年齢別・女性】												
20歳代	40	0.0	0.0	7.5	2.5							
30歳代	51	0.0	2.0	7.8	2.0							
40歳代	54	0.0	0.0	5.6	0.0							
50歳代	72	2.8	2.8	8.3	5.6							
60歳代	80	1.3	3.8	6.3	17.5							
70歳以上	49	0.0	8.2	16.3	12.2							

5. 少子・高齢化について

問 24 出生率が低下している原因は何だと思いますか。（3つまで○）

出生率が低下している原因については、全体では「結婚しない人が増えた」が57.8%で最も高く、次いで「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」が48.3%、「子育てに経費がかかりすぎる」が42.3%となっています。

性別にみると、男性で「出産・子育てに対する男性（夫）の理解・協力が足りず、女性（妻）の精神的・肉体的負担が大きい」が全体に比べてやや低くなっています。



性年齢別にみると、性年齢別にみると、男性の20歳代・40歳代では「子育てに経費がかかりすぎる」が、30歳代で「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」が、50歳以上で「結婚しない人が増えた」が最も高くなっています。また、女性の40歳代以下では「子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない」が、50歳代以上で「結婚しない人が増えた」が最も高くなっています。

■性・年齢別クロス集計

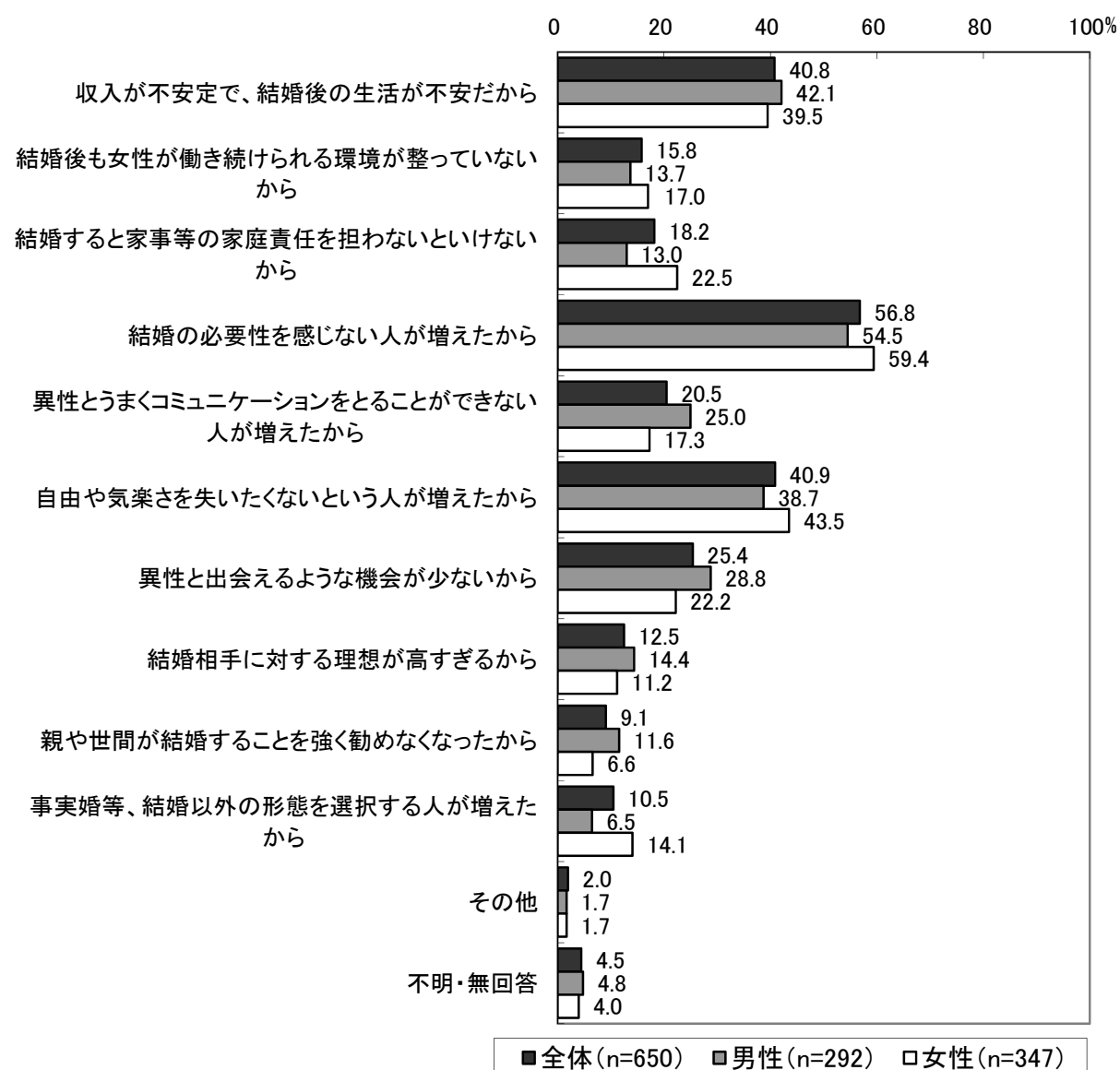
	合計	子育てに経費がかかりすぎる	子育てと仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件・保育等）が整っていない	医療体制（産科・小児科等）が整っていない	女性の高学歴化や社会進出により結婚年齢が上昇した	子どもは少なくという人が増えた	子どもより仕事や余暇等を充実したいと考えている人が増えた	結婚しない人が増えた	精神的・肉体的負担が大きい	理解・協力が足りず、男性（妻）の理解が足りない	出産・子育てに関する情報がない	住宅事情が悪い	増えたい、子育てが面倒という人が増えた	その他	不明・無回答
【年齢別・男性】															
20歳代	24	66.7	54.2	8.3	25.0	4.2	16.7	62.5	16.7	4.2	20.8	4.2	0.0		
30歳代	40	55.0	60.0	17.5	15.0	10.0	22.5	55.0	7.5	0.0	7.5	0.0	7.5		
40歳代	37	62.2	51.4	18.9	27.0	5.4	13.5	56.8	8.1	0.0	10.8	8.1	8.1		
50歳代	62	40.3	43.5	19.4	40.3	6.5	24.2	67.7	8.1	0.0	11.3	0.0	0.0		
60歳代	68	33.8	57.4	23.5	33.8	10.3	14.7	60.3	13.2	1.5	8.8	1.5	1.5		
70歳以上	60	33.3	31.7	23.3	33.3	18.3	10.0	61.7	11.7	3.3	10.0	6.7	8.3		
【年齢別・女性】															
20歳代	40	45.0	62.5	12.5	30.0	2.5	12.5	55.0	40.0	0.0	2.5	5.0	2.5		
30歳代	51	39.2	58.8	27.5	35.3	9.8	23.5	45.1	31.4	2.0	5.9	5.9	2.0		
40歳代	54	46.3	51.9	33.3	29.6	9.3	24.1	38.9	20.4	1.9	0.0	3.7	0.0		
50歳代	72	37.5	47.2	18.1	36.1	15.3	29.2	55.6	22.2	1.4	9.7	4.2	4.2		
60歳代	80	37.5	38.8	26.3	32.5	11.3	17.5	63.8	12.5	0.0	7.5	1.3	6.3		
70歳以上	49	38.8	38.8	28.6	46.9	8.2	12.2	75.5	4.1	2.0	6.1	0.0	4.1		

問 25 未婚率が上昇している原因は何だと思いますか。（3つまで○）

未婚率が上昇している原因については、全体では「結婚の必要性を感じない人が増えたから」が56.8%で最も高く、次いで「自由や気楽さを失いたくないという人が増えたから」が40.9%、「収入が不安定で、結婚後の生活が不安だから」が40.8%となっています。

性別にみると、男性で「結婚すると家事等の家庭責任を担わないといけないから」が全体に比べてやや低くなっています。

年齢別にみると、男性の30歳代では「収入が不安定で、結婚後の生活が不安だから」が、それ以外の男女のすべての年代で「結婚の必要性を感じない人が増えたから」が最も高くなっています。



性年齢別にみると、男性の30歳代では「収入が不安定で、結婚後の生活が不安だから」が、それ以外の男女のすべての年代で「結婚の必要性を感じない人が増えたから」が最も高くなっています。

■性・年齢別クロス集計

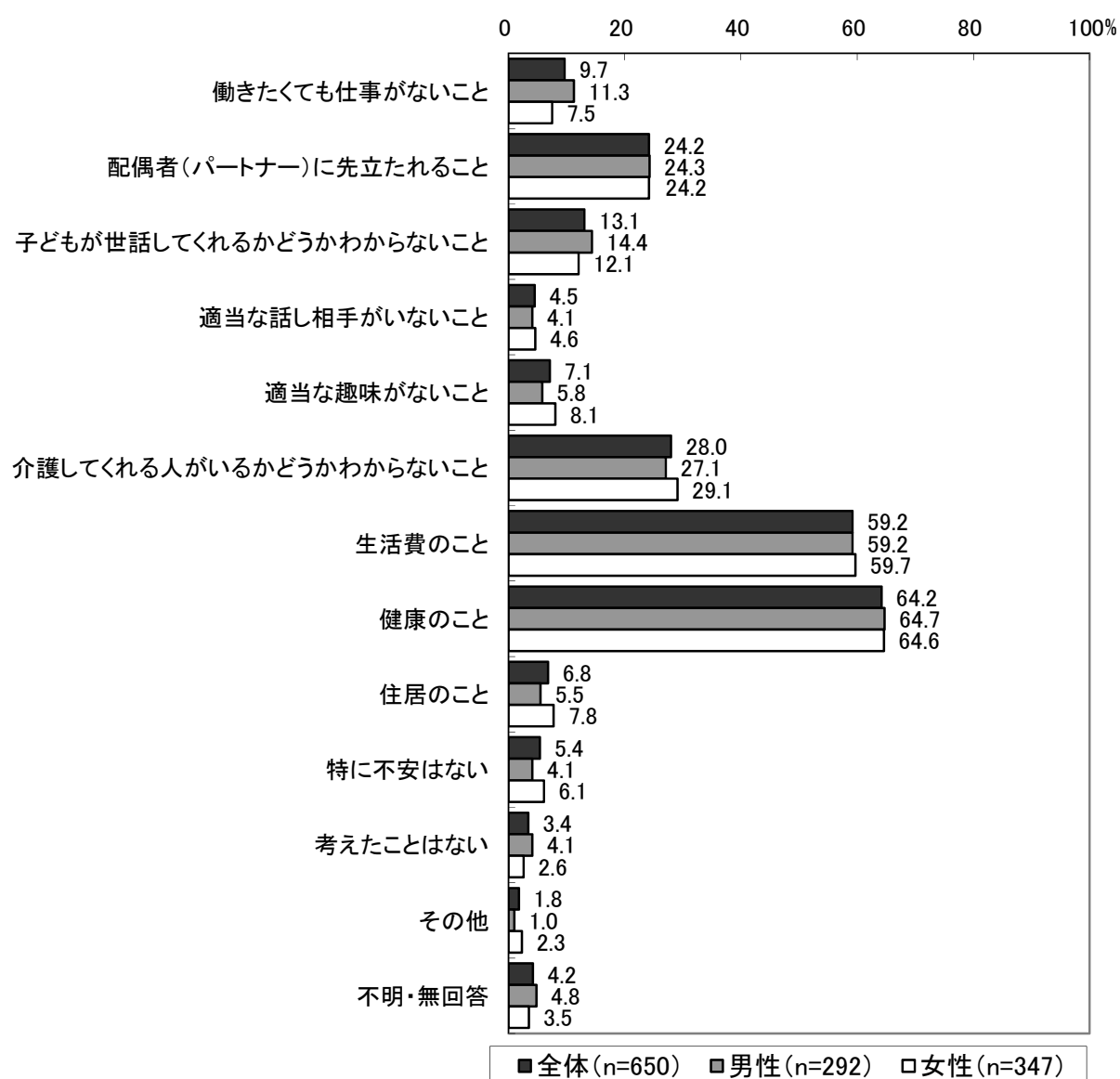
	合計	の収入 生活が不安 定だから、結 婚後	いられ る環境が整 つてい続け ない	結婚後 も女性 が働いて いる	責任を 担わない と家事等 の負担が 大きい	結婚の 必要性を 感じない 人が増え たから	結婚の 必要性を 感じるこ とが増え たから	異性とい う人との コミュニケーション が	自由とい う人が増 えたから	会が少な いから	異性と出 会えるよ うな機 会	高すぎる から	結婚相手 に対する 理想が	親や世間 が結婚す ることか ら	から選 択する結 婚以外 の形	その他	不明・無 回答
【年齢別・男性】																	
20歳代	24	50.0	8.3	16.7	58.3	25.0	50.0	33.3	25.0	0.0	20.8	4.2	0.0				
30歳代	40	52.5	12.5	10.0	45.0	30.0	35.0	37.5	15.0	5.0	5.0	0.0	7.5				
40歳代	37	40.5	5.4	8.1	45.9	24.3	43.2	21.6	18.9	5.4	10.8	8.1	10.8				
50歳代	62	38.7	8.1	17.7	75.8	30.6	45.2	27.4	11.3	8.1	0.0	1.6	0.0				
60歳代	68	44.1	17.6	13.2	51.5	27.9	35.3	33.8	14.7	11.8	7.4	0.0	1.5				
70歳以上	60	33.3	21.7	11.7	46.7	13.3	31.7	21.7	10.0	28.3	5.0	0.0	10.0				
【年齢別・女性】																	
20歳代	40	37.5	27.5	35.0	47.5	12.5	30.0	20.0	10.0	2.5	22.5	7.5	2.5				
30歳代	51	51.0	21.6	23.5	58.8	15.7	45.1	17.6	9.8	7.8	15.7	3.9	2.0				
40歳代	54	27.8	14.8	31.5	59.3	18.5	51.9	18.5	9.3	1.9	16.7	1.9	0.0				
50歳代	72	48.6	8.3	20.8	63.9	15.3	54.2	22.2	15.3	4.2	6.9	0.0	4.2				
60歳代	80	35.0	12.5	15.0	62.5	17.5	41.3	32.5	10.0	11.3	11.3	0.0	7.5				
70歳以上	49	36.7	26.5	14.3	59.2	24.5	32.7	16.3	12.2	10.2	18.4	0.0	6.1				

問 26 あなたが、ご自分の老後について、不安に思うことは何ですか。（3つまで○）

自分の老後について不安に思うことについては、全体では「健康のこと」が 64.2%で最も高く、次いで「生活費のこと」が 59.2%、「介護してくれる人がいるかどうか分からないこと」が 28.0%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、男性の 30 歳代以下では「生活費のこと」が、40 歳代以上で「健康のこと」が最も高くなっています。また、女性の 40 歳代以下では「生活費のこと」が、50 歳代以上で「健康のこと」が最も高くなっています。



性年齢別にみると、男性の30歳代以下では「生活費のこと」が、40歳代以上で「健康のこと」が最も高くなっています。また、女性の40歳代以下では「生活費のこと」が、50歳代以上で「健康のこと」が最も高くなっています。

■性・年齢別クロス集計

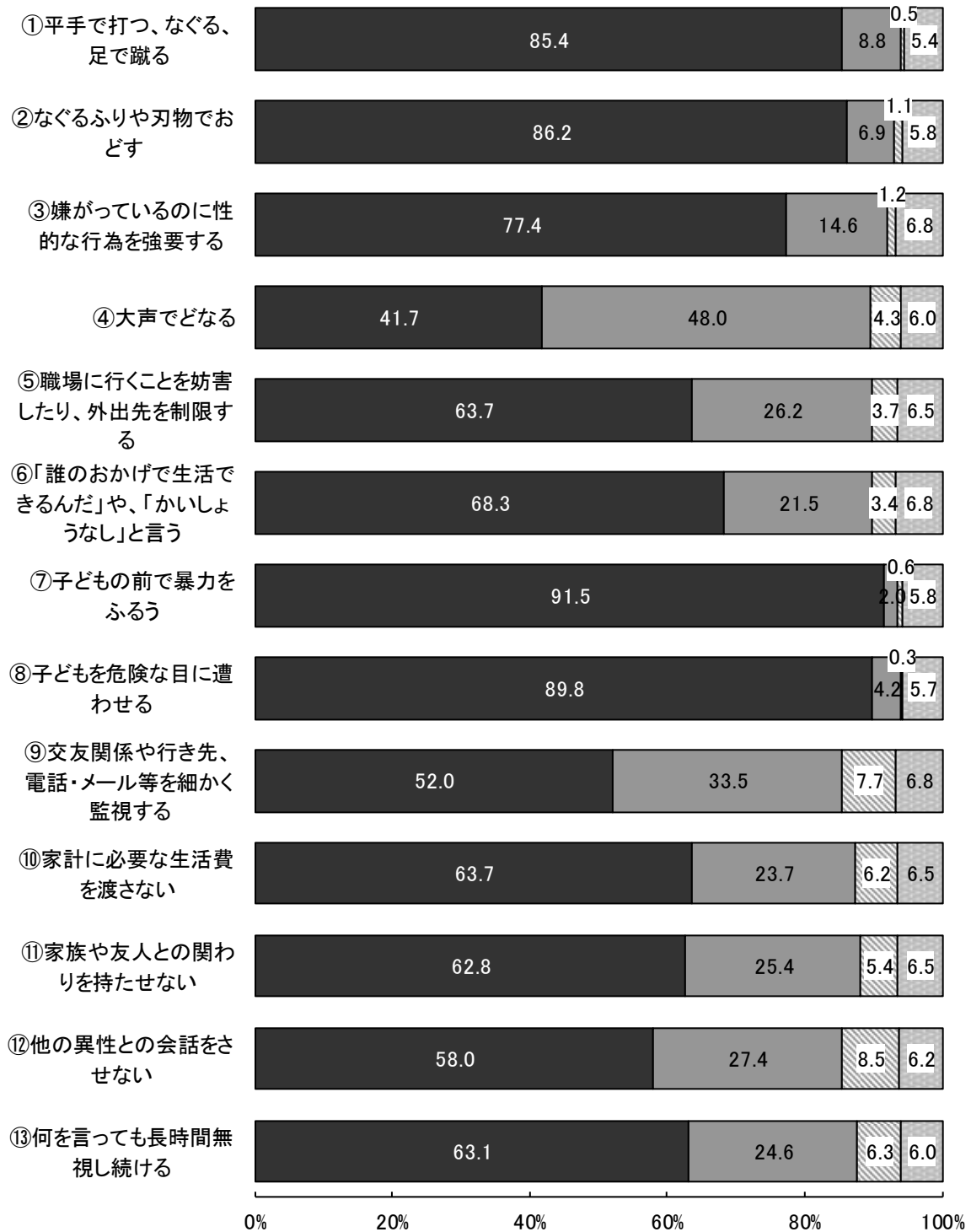
	合計	働きたいことも仕事がないこと	パートナー（先立たれ	配偶者（パート	かれないこと	子どもが世話をかわ	い適ないこと	適ない話し相手が	こ適ない趣味がない	かがい介護してくれ	生活費のこと	健康のこと	住居のこと	特に不安はない	考えたことはない	その他	不明・無回答
【年齢別・男性】																	
20歳代	24	12.5	20.8	8.3	8.3	4.2	29.2	70.8	58.3	12.5	0.0	4.2	8.3	0.0			
30歳代	40	27.5	15.0	10.0	7.5	5.0	27.5	65.0	47.5	5.0	5.0	5.0	0.0	7.5			
40歳代	37	24.3	13.5	5.4	2.7	5.4	24.3	62.2	70.3	2.7	2.7	0.0	0.0	5.4			
50歳代	62	4.8	25.8	12.9	6.5	6.5	29.0	77.4	80.6	4.8	0.0	3.2	0.0	0.0			
60歳代	68	5.9	30.9	27.9	1.5	7.4	27.9	50.0	64.7	5.9	5.9	2.9	0.0	4.4			
70歳以上	60	5.0	28.3	11.7	1.7	5.0	25.0	41.7	60.0	5.0	8.3	8.3	1.7	10.0			
【年齢別・女性】																	
20歳代	40	7.5	20.0	5.0	7.5	5.0	37.5	75.0	50.0	17.5	0.0	7.5	2.5	2.5			
30歳代	51	11.8	21.6	11.8	5.9	3.9	29.4	82.4	49.0	15.7	5.9	2.0	2.0	2.0			
40歳代	54	11.1	18.5	16.7	1.9	11.1	18.5	83.3	61.1	13.0	1.9	1.9	3.7	0.0			
50歳代	72	11.1	30.6	8.3	4.2	9.7	23.6	58.3	69.4	5.6	2.8	0.0	2.8	4.2			
60歳代	80	3.8	25.0	15.0	3.8	8.8	32.5	36.3	78.8	1.3	8.8	2.5	2.5	5.0			
70歳以上	49	0.0	26.5	14.3	6.1	8.2	36.7	36.7	67.3	0.0	16.3	4.1	0.0	6.1			

6. 人権に関することについて

問 27 次のようなことが配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人同士の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（①～⑬それぞれ1つに○）

次の行為が暴力である知っているかについて、[①平手で打つ、なぐる、足で蹴る][②なぐるふりや刃物でおどす][⑦子どもの前で暴力をふるう][⑧子どもを危険な目に遭わせる]では8割以上が「どんな場合でも暴力にあたる」と回答しているものの、[④大声でどなる][⑨交友関係や行き先、電話・メール等を細かく監視する][⑫他の異性との会話をさせない]は4～5割台にとどまっています。また、いずれの項目も「暴力にあたるとは思わない」は1割に満たない回答となっています。

(n=650)



■どんな場合でも暴力にあたる

▣暴力の場合とそうでない場合がある

□暴力にあたるとは思わない

□不明・無回答

問 28 あなたは、これまでに配偶者や恋人等親密な関係にあるパートナーから、次のようなことをされたことがありますか。(①～⑬それぞれ1つに○)

次の行為をされたことがあるかについて、[④大声でどなる]では「ある」が1割台、「何回かある」が2割台と他の項目に比べて高くなっています。それ以外の項目ではほぼ同様の傾向となっており、「ない」が7～8割台の回答となっています。

(n=650)



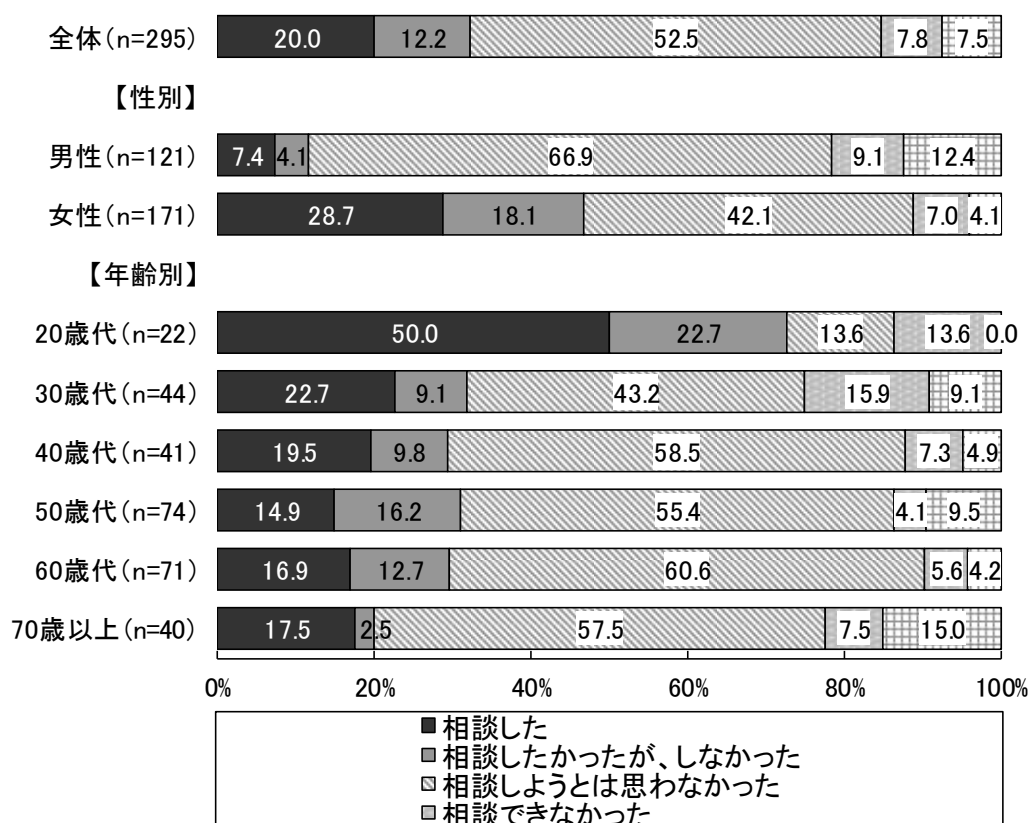
※問 28 で「1. ある」「2. 何回かある」を1つ以上選択した方にうかがいます。

問 28-1 あなたは、その時誰かに相談しましたか。(1つに○)

誰かに相談したかについては、全体では「相談しようとは思わなかった」が 52.5%で最も高く、次いで「相談した」が 20.0%、「相談したかったが、しなかった」が 12.2%となっています。

性別にみると、男性で「相談した」が全体に比べて低くなっています。

年齢別にみると、20 歳代では「相談した」「相談したかったが、しなかった」が全体に比べて高くなっています。また、20 歳代を除くすべての年代では「相談した」が 2 割前後、「相談しようとは思わなかった」が 4 ～ 6 割台となっています。

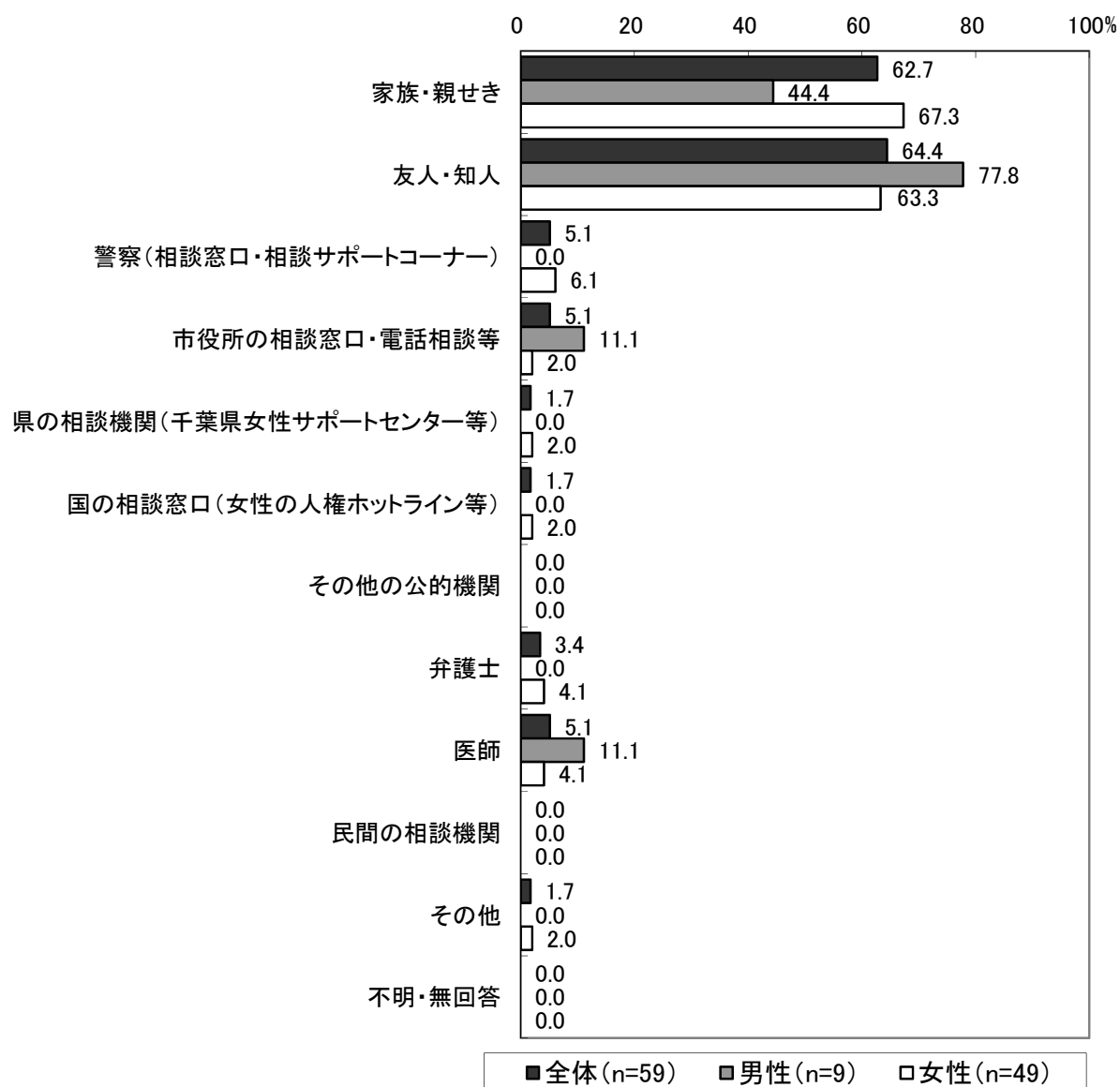


※問 28-1 で「1. 相談した」を選択した方にうかがいます。

問 28-2 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

相談した人（場所）については、全体では「友人・知人」が 64.4%で最も高く、次いで「家族・親せき」が 62.7%、「警察（相談窓口・相談サポートコーナー）」「市役所の相談窓口・電話相談等」「医師」がそれぞれ 5.1%となっています。

性別にみると、男性で「家族・親せき」が全体に比べて低く、「友人・知人」が高くなっています。

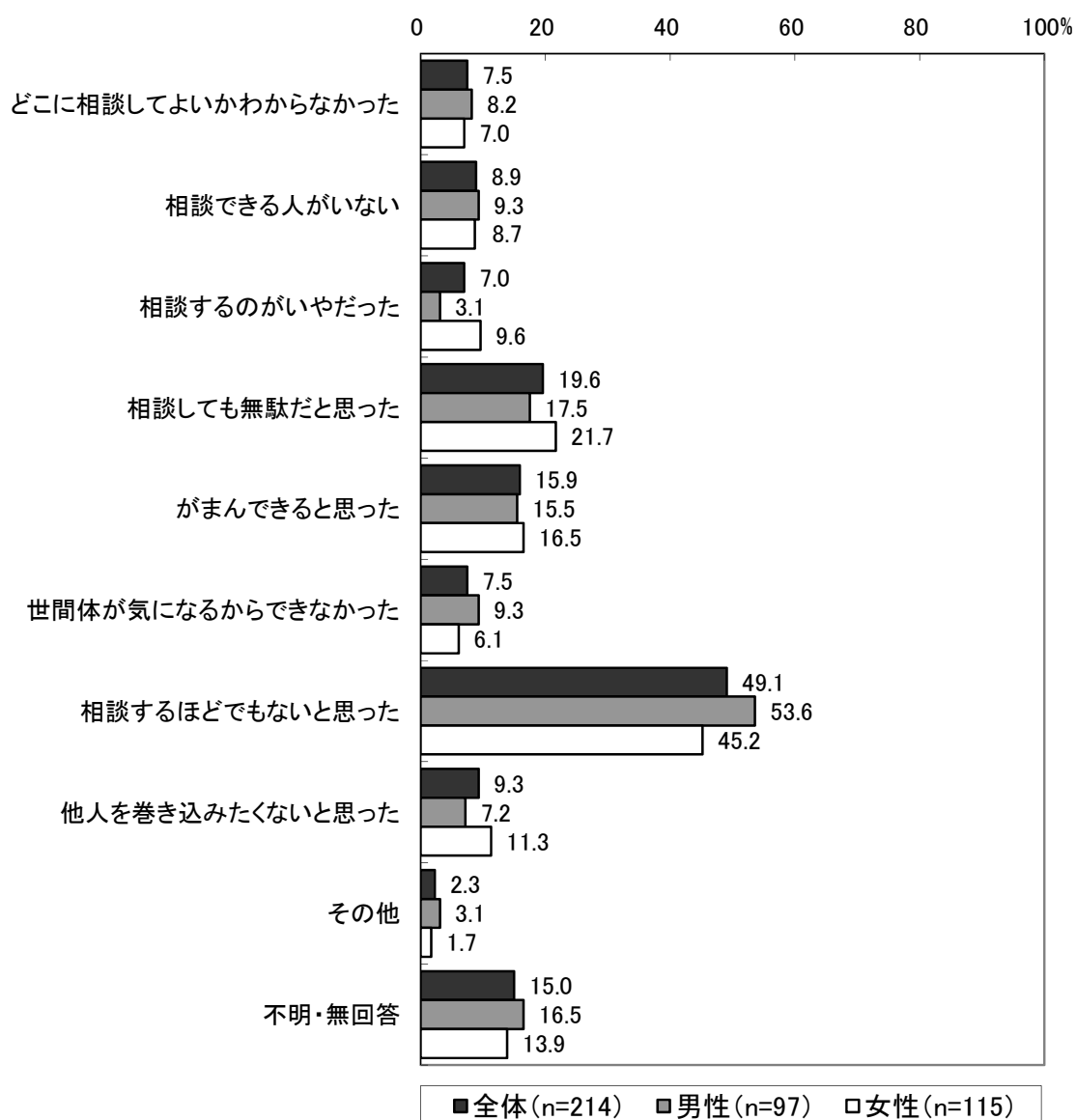


※問 28-1 で「2～4」を選択した方にうかがいます。

問 28-3 相談しなかった・できなかったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

相談しなかった・できなかった理由については、全体に比べて「相談するほどでもないと思った」が 49.1%で最も高く、次いで「相談しても無駄だと思った」が 19.6%、「がまんできるといった」が 15.9%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



性年齢別にみると、男女 20 歳代を除いたすべての年代で「相談するほどでもないと思った」が最も高くなっています。また、男性 20 歳代では「相談できる人がいない」が 42.9%と全体と比較して特に高くなっています。

■性・年齢別クロス集計

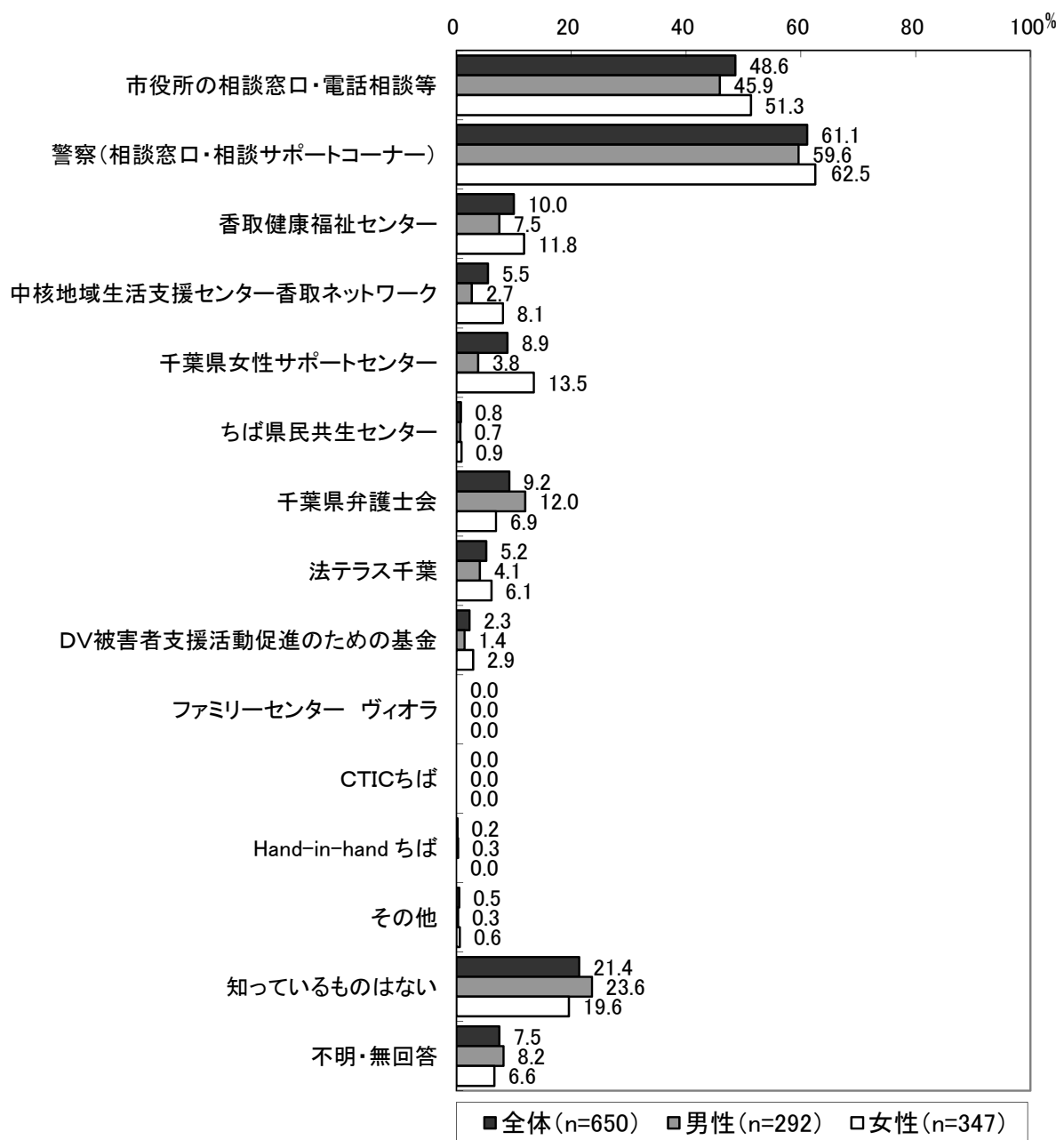
	合計	どこに相談してよかった	相談できる人がいない	相談するのがいやだった	相談しても無駄だと思った	がまんできると思った	世間体が気になるからできなかつた	相談するほどでもないと思った	他人を巻き込みたくないと思った	その他	不明・無回答
【年齢別・男性】											
20歳代	7	14.3	42.9	14.3	28.6	28.6	57.1	14.3	0.0	0.0	28.6
30歳代	10	20.0	10.0	0.0	20.0	10.0	20.0	30.0	10.0	0.0	20.0
40歳代	13	15.4	7.7	0.0	30.8	23.1	0.0	46.2	15.4	0.0	0.0
50歳代	26	0.0	3.8	0.0	7.7	3.8	0.0	57.7	0.0	11.5	26.9
60歳代	25	8.0	8.0	8.0	16.0	24.0	12.0	64.0	16.0	0.0	16.0
70歳以上	15	6.7	6.7	0.0	20.0	13.3	0.0	66.7	0.0	0.0	6.7
【年齢別・女性】											
20歳代	4	0.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0
30歳代	19	15.8	10.5	5.3	31.6	26.3	10.5	52.6	21.1	5.3	0.0
40歳代	18	0.0	0.0	11.1	11.1	16.7	0.0	66.7	5.6	0.0	11.1
50歳代	30	10.0	10.0	10.0	30.0	16.7	6.7	36.7	13.3	3.3	10.0
60歳代	31	0.0	6.5	6.5	19.4	12.9	6.5	51.6	6.5	0.0	19.4
70歳以上	12	8.3	16.7	16.7	8.3	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	41.7

※すべての方にうかがいます。

問 29 男女間における暴力に関する次のような相談窓口について、あなたが知っているものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

男女間における暴力に関する相談窓口の認知度については、全体では「警察（相談窓口・相談サポートコーナー）」が61.1%で最も高く、次いで「市役所の相談窓口・電話相談等」が48.6%、「知っているものはない」が21.4%となっています。

性別にみると、男性で「千葉県女性サポートセンター」が全体に比べてやや低くなっています。



性年齢別にみると、全体とほぼ同様の傾向となっています。

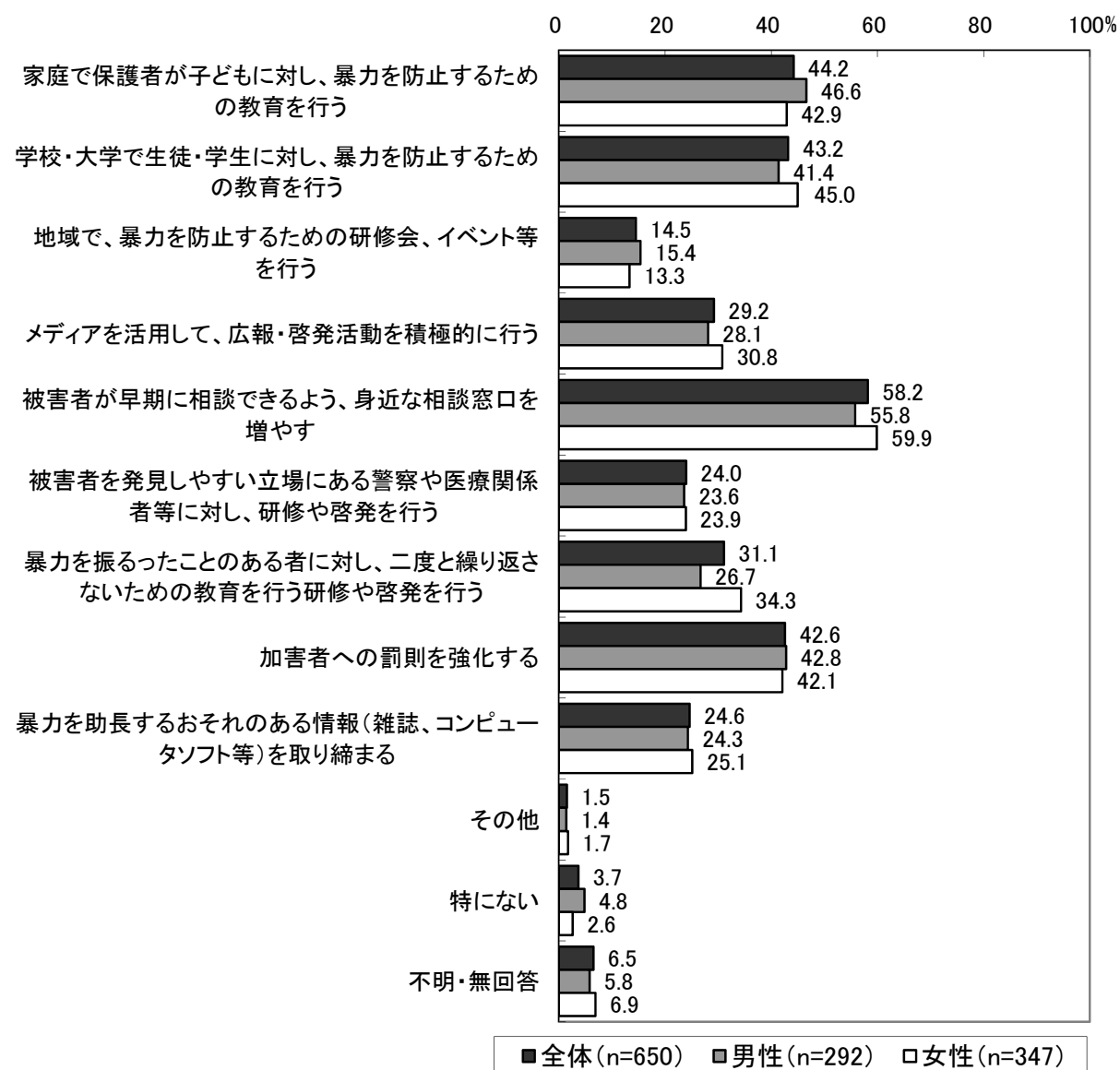
■性・年齢別クロス集計

	合計	市役所の 相談等	警察（相談窓口・相談サ ポートコーナ―）	香取健康福祉センタ―	中核地域生活支援セン タ―香取ネットワーク	千葉 県女性サポ―トセン タ―	ちば 県民共生センタ―	千葉県 弁護士会	法テラス千葉	DV被害者支 援活動促進 のための基 金
【年齢別・男性】										
20歳代	24	41.7	58.3	8.3	0.0	4.2	0.0	12.5	4.2	4.2
30歳代	40	45.0	57.5	10.0	0.0	5.0	0.0	10.0	7.5	0.0
40歳代	37	40.5	56.8	0.0	0.0	0.0	0.0	8.1	5.4	2.7
50歳代	62	59.7	69.4	9.7	8.1	4.8	3.2	12.9	4.8	3.2
60歳代	68	45.6	61.8	5.9	2.9	2.9	0.0	16.2	2.9	0.0
70歳以上	60	38.3	51.7	10.0	1.7	5.0	0.0	10.0	1.7	0.0
【年齢別・女性】										
20歳代	40	40.0	65.0	5.0	7.5	5.0	0.0	5.0	5.0	2.5
30歳代	51	51.0	66.7	9.8	0.0	11.8	0.0	3.9	5.9	3.9
40歳代	54	59.3	61.1	9.3	5.6	16.7	0.0	3.7	7.4	0.0
50歳代	72	52.8	70.8	16.7	8.3	20.8	2.8	8.3	5.6	2.8
60歳代	80	53.8	61.3	12.5	13.8	13.8	0.0	8.8	7.5	5.0
70歳以上	49	46.9	49.0	14.3	10.2	8.2	2.0	10.2	4.1	2.0
	合計	ファミリー センター ヴァイオラ	CTIC ちば	Hand in ちば	その他	知 つ て い る も の は な い	不 明 ・ 無 回 答			
【年齢別・男性】										
20歳代	24	0.0	0.0	0.0	4.2	25.0	0.0			
30歳代	40	0.0	0.0	0.0	0.0	27.5	5.0			
40歳代	37	0.0	0.0	0.0	0.0	29.7	8.1			
50歳代	62	0.0	0.0	0.0	0.0	19.4	3.2			
60歳代	68	0.0	0.0	0.0	0.0	19.1	11.8			
70歳以上	60	0.0	0.0	1.7	0.0	25.0	15.0			
【年齢別・女性】										
20歳代	40	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	12.5			
30歳代	51	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5	2.0			
40歳代	54	0.0	0.0	0.0	0.0	24.1	0.0			
50歳代	72	0.0	0.0	0.0	1.4	15.3	2.8			
60歳代	80	0.0	0.0	0.0	0.0	17.5	7.5			
70歳以上	49	0.0	0.0	0.0	2.0	18.4	18.4			

問 30 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

男女間における暴力を防止するために必要なことについては、全体では「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が58.2%で最も高く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が44.2%、「学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」が43.2%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



性年齢別にみると、女性 30 歳代以外のすべての年代で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が最も高くなっています。また、男性 20 歳代、女性 40 歳代では「被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者等に対し、研修や啓発を行う」、男性 50 歳代で「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」、男性 30 歳代で「メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う」が全体と比較して高くなっています。

■性・年齢別クロス集計

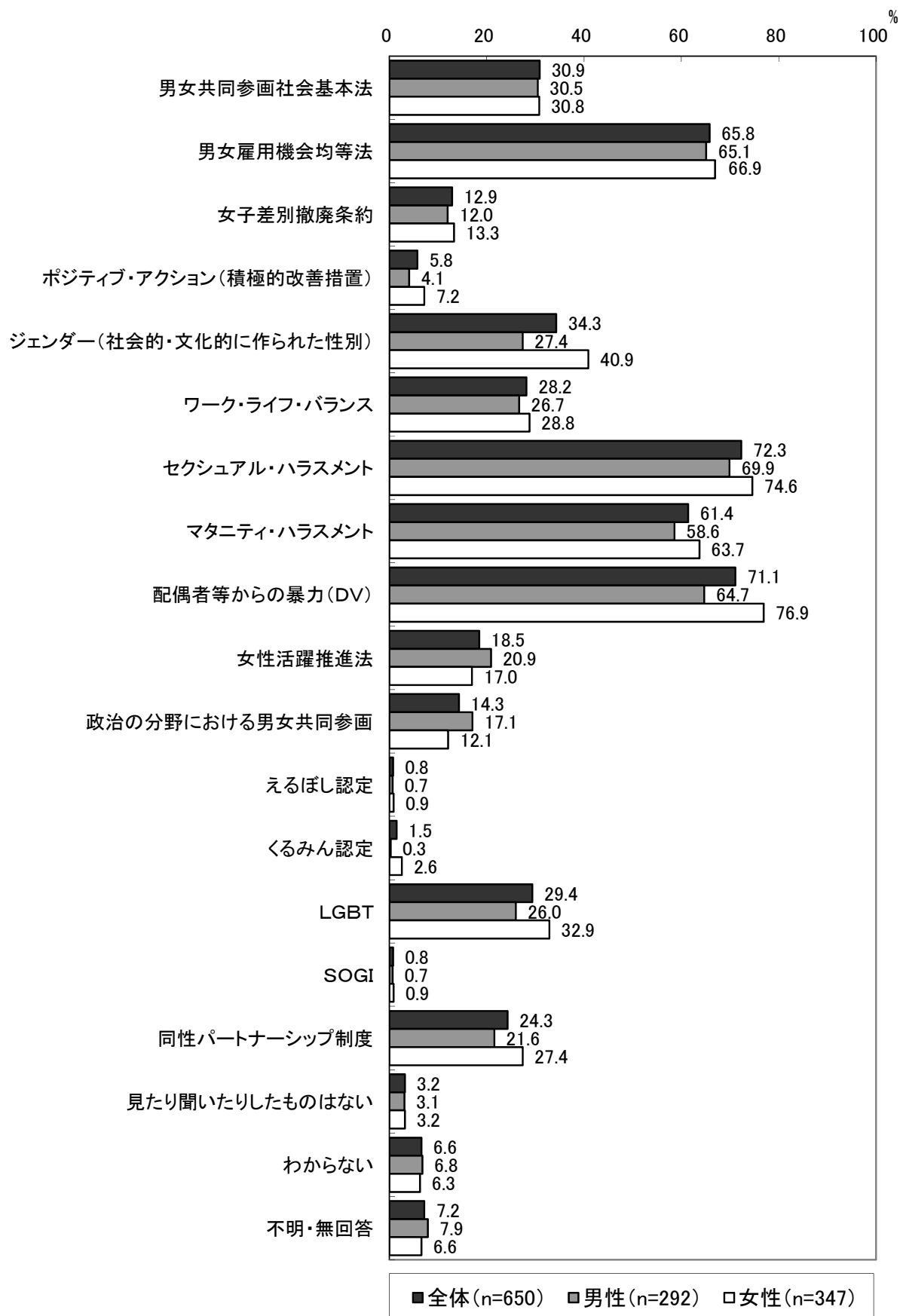
	合計	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う	学校・大学で生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベント等を行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者等に対し、研修や啓発を行う	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフト等）を取り（締）める	その他	特になし	不明・無回答
【年齢別・男性】													
20歳代	24	54.2	58.3	16.7	29.2	62.5	45.8	41.7	54.2	20.8	4.2	0.0	4.2
30歳代	40	55.0	50.0	20.0	50.0	57.5	32.5	40.0	52.5	12.5	0.0	2.5	2.5
40歳代	37	40.5	40.5	13.5	27.0	43.2	10.8	27.0	40.5	18.9	2.7	5.4	5.4
50歳代	62	61.3	45.2	14.5	24.2	62.9	21.0	25.8	43.5	16.1	0.0	6.5	1.6
60歳代	68	44.1	33.8	20.6	29.4	51.5	23.5	26.5	32.4	39.7	2.9	4.4	5.9
70歳以上	60	30.0	33.3	8.3	16.7	58.3	20.0	13.3	43.3	26.7	0.0	6.7	13.3
【年齢別・女性】													
20歳代	40	27.5	35.0	5.0	30.0	65.0	27.5	27.5	62.5	17.5	0.0	2.5	10.0
30歳代	51	49.0	49.0	9.8	31.4	35.3	19.6	33.3	47.1	15.7	7.8	5.9	3.9
40歳代	54	46.3	38.9	9.3	29.6	64.8	37.0	50.0	51.9	22.2	0.0	0.0	0.0
50歳代	72	44.4	52.8	22.2	34.7	69.4	16.7	34.7	40.3	23.6	1.4	0.0	2.8
60歳代	80	42.5	47.5	15.0	32.5	61.3	22.5	31.3	32.5	32.5	1.3	1.3	11.3
70歳以上	49	44.9	40.8	12.2	24.5	59.2	24.5	28.6	28.6	34.7	0.0	8.2	14.3

7. 男女平等推進の施策について

問 31 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

男女共同参画に関する言葉の認知度については、全体では「セクシュアル・ハラスメント」が 72.3%で最も高く、次いで「配偶者等からの暴力（DV）」が 71.1%、「男女雇用機会均等法」が 65.8%となっています。

性別にみると、男性で「ジェンダー（社会的・文化的に作られた性別）」「配偶者等からの暴力（DV）」が全体に比べてやや低く、女性ではやや高くなっています。



性年齢別にみると、男女 20 歳代で「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」、自男性 20 歳代と女性 20～50 歳代で「ジェンダー」、男性 30・40 歳代、女性 20・50 歳代で「ワーク・ライフ・バランス」、女性 20・30 歳代で「マタニティ・ハラスメント」、男性 20 歳代、女性 20・30 歳代で「同性パートナーシップ制度」がそれぞれ全体と比較して高くなっています。

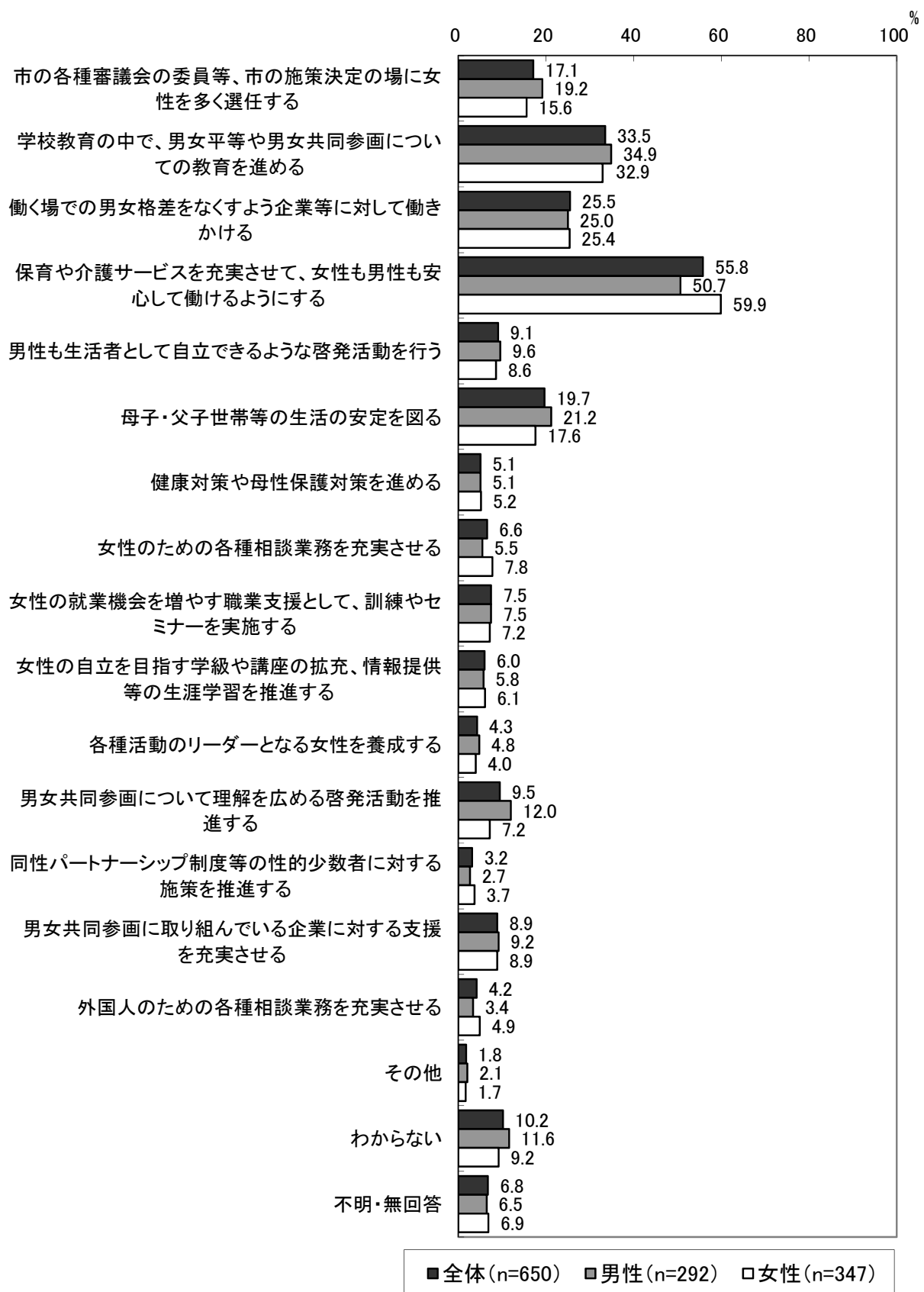
■性・年齢別クロス集計

	合計	男女共同参画社会基本法	男女雇用機会均等法	女子差別撤廃条約	ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	ジェンダー(社会的・文化的に作られた性別)	ワーク・ライフ・バランス	セクシュアル・ハラスメント	マタニティ・ハラスメント	配偶者等からの暴力(DV)	女性活躍推進法
【年齢別・男性】											
20歳代	24	45.8	70.8	37.5	4.2	45.8	33.3	83.3	70.8	83.3	33.3
30歳代	40	27.5	67.5	12.5	5.0	35.0	40.0	80.0	62.5	70.0	20.0
40歳代	37	21.6	51.4	5.4	8.1	27.0	43.2	73.0	62.2	62.2	24.3
50歳代	62	33.9	74.2	9.7	8.1	33.9	24.2	72.6	66.1	75.8	27.4
60歳代	68	33.8	72.1	11.8	1.5	25.0	23.5	73.5	60.3	64.7	22.1
70歳以上	60	25.0	51.7	6.7	0.0	11.7	11.7	48.3	40.0	43.3	6.7
【年齢別・女性】											
20歳代	40	60.0	72.5	27.5	2.5	57.5	47.5	82.5	72.5	80.0	15.0
30歳代	51	25.5	76.5	9.8	2.0	58.8	31.4	86.3	78.4	86.3	17.6
40歳代	54	20.4	64.8	3.7	5.6	48.1	27.8	83.3	64.8	77.8	13.0
50歳代	72	26.4	72.2	13.9	12.5	44.4	38.9	81.9	66.7	77.8	18.1
60歳代	80	33.8	66.3	17.5	8.8	31.3	22.5	70.0	65.0	82.5	17.5
70歳以上	49	26.5	49.0	8.2	8.2	12.2	8.2	44.9	34.7	55.1	20.4
	合計	政治の分野における男女共同参画	えるぼし認定	くるみん認定	L G B T	S O G I	度同性パートナーシップ制	は見たり聞いたりしたもの	わからない	不明・無回答	
【年齢別・男性】											
20歳代	24	16.7	4.2	0.0	29.2	4.2	41.7	4.2	4.2	4.2	
30歳代	40	12.5	0.0	0.0	37.5	0.0	22.5	0.0	7.5	2.5	
40歳代	37	8.1	2.7	2.7	40.5	2.7	24.3	8.1	10.8	2.7	
50歳代	62	17.7	0.0	0.0	35.5	0.0	24.2	1.6	6.5	8.1	
60歳代	68	19.1	0.0	0.0	20.6	0.0	14.7	1.5	4.4	7.4	
70歳以上	60	23.3	0.0	0.0	5.0	0.0	16.7	5.0	8.3	16.7	
【年齢別・女性】											
20歳代	40	15.0	0.0	5.0	47.5	0.0	50.0	0.0	5.0	7.5	
30歳代	51	7.8	2.0	11.8	58.8	3.9	39.2	2.0	5.9	3.9	
40歳代	54	9.3	0.0	0.0	29.6	0.0	29.6	5.6	5.6	0.0	
50歳代	72	12.5	0.0	0.0	36.1	0.0	25.0	4.2	5.6	2.8	
60歳代	80	15.0	2.5	1.3	21.3	1.3	20.0	1.3	2.5	11.3	
70歳以上	49	12.2	0.0	0.0	12.2	0.0	10.2	4.1	16.3	14.3	

問 32 あらゆる人がお互いを認め合いながら、その個性と能力を発揮し、喜びも責任も分かち合うことができる社会の実現のために、あなたは市が今後どのようなことに力を入れていったらよいと思いますか。（3つまで○）

あらゆる人がお互いを認め合いながら、その個性と能力を発揮し、喜びも責任も分かち合うことができる社会の実現のために市に求めることについては、全体では「保育や介護サービスを充実させて、女性も男性も安心して働けるようにする」が 55.8%で最も高く、次いで「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」が 33.5%、「働く場での男女格差をなくすよう企業等に対して働きかける」が 25.5%となっています。

性別にみると、男性では「保育や介護サービスを充実させて、女性も男性も安心して働けるようにする」が全体に比べてやや低くなっています。



性年齢別にみると、男性 50 歳代で「学校教育の中で、男女平等や男女共同参画についての教育を進める」、男性 20・40 歳代で「母子・父子世帯等の生活の安定を図る」、男性 40 歳代、女性 20 歳代で「健康対策や母性保護対策を進める」、女性 20 歳代で「同性パートナーシップ制度等の性的少数者に対する施策を推進する」、男性 20 歳代で「男女共同参画に取り組んでいる企業に対する支援を充実させる」がそれぞれ全体と比較して高くなっています。

■性・年齢別クロス集計

	合計	市の各種審議会の委員等、多くの女性を選任する	学校教育の中で、男女平等の教育を進める	働く場での男女格差をなくすよう企業等に対して働きかける	保育や介護サービスの充実させて、女性も男性も安心して働けるようにする	男性も生活者として自立できるような啓発活動を行う	母子・父子世帯等の生活の安定を図る	健康対策や母性保護対策を進める	女性のための各種相談業務を充実させる	女性の就業機会を増やす職業支援として、訓練やセミナーを実施する	女性の自立を目指す学級や講座の拡充、情報提供等の生涯学習を推進する
【年齢別・男性】											
20歳代	24	25.0	29.2	16.7	45.8	16.7	37.5	8.3	8.3	8.3	12.5
30歳代	40	25.0	32.5	30.0	50.0	12.5	27.5	2.5	2.5	10.0	5.0
40歳代	37	16.2	24.3	18.9	51.4	8.1	32.4	16.2	5.4	2.7	2.7
50歳代	62	11.3	43.5	27.4	53.2	8.1	14.5	3.2	6.5	9.7	6.5
60歳代	68	17.6	30.9	23.5	58.8	7.4	16.2	4.4	2.9	7.4	4.4
70歳以上	60	23.3	41.7	26.7	41.7	10.0	16.7	1.7	8.3	6.7	5.0
【年齢別・女性】											
20歳代	40	15.0	22.5	30.0	57.5	7.5	32.5	17.5	12.5	2.5	2.5
30歳代	51	19.6	25.5	27.5	60.8	3.9	19.6	2.0	7.8	9.8	2.0
40歳代	54	14.8	38.9	29.6	61.1	18.5	14.8	1.9	7.4	14.8	9.3
50歳代	72	15.3	31.9	19.4	63.9	8.3	16.7	5.6	9.7	6.9	6.9
60歳代	80	11.3	38.8	32.5	63.8	6.3	10.0	3.8	3.8	5.0	8.8
70歳以上	49	18.4	34.7	10.2	46.9	8.2	20.4	4.1	8.2	4.1	4.1
	合計	女性の自立を目指す学級の拡充、情報提供等の生涯学習を推進する	各種活動のリーダーとなる女性を養成する	男女共同参画について理解を広げる啓発活動を推進する	同性パートナーシップ制度等の性的少数者に対する施策を推進する	男女共同参画に取り組んで実を企业に對する支援を充てる	外国人のための各種相談業務を充実させる	その他	わからない	不明・無回答	
【年齢別・男性】											
20歳代	24	12.5	4.2	8.3	12.5	20.8	8.3	12.5	4.2	4.2	
30歳代	40	5.0	5.0	5.0	7.5	5.0	7.5	0.0	12.5	5.0	
40歳代	37	2.7	2.7	8.1	2.7	5.4	5.4	2.7	13.5	5.4	
50歳代	62	6.5	1.6	4.8	1.6	11.3	3.2	3.2	14.5	1.6	
60歳代	68	4.4	7.4	16.2	0.0	11.8	1.5	0.0	8.8	8.8	
70歳以上	60	5.0	6.7	23.3	0.0	5.0	0.0	0.0	13.3	11.7	
【年齢別・女性】											
20歳代	40	2.5	7.5	5.0	15.0	17.5	12.5	2.5	10.0	7.5	
30歳代	51	2.0	2.0	0.0	3.9	13.7	3.9	2.0	13.7	5.9	
40歳代	54	9.3	3.7	7.4	7.4	9.3	7.4	0.0	5.6	0.0	
50歳代	72	6.9	2.8	5.6	0.0	4.2	6.9	2.8	6.9	5.6	
60歳代	80	8.8	5.0	12.5	1.3	8.8	0.0	2.5	6.3	10.0	
70歳以上	49	4.1	4.1	10.2	0.0	4.1	2.0	0.0	16.3	12.2	

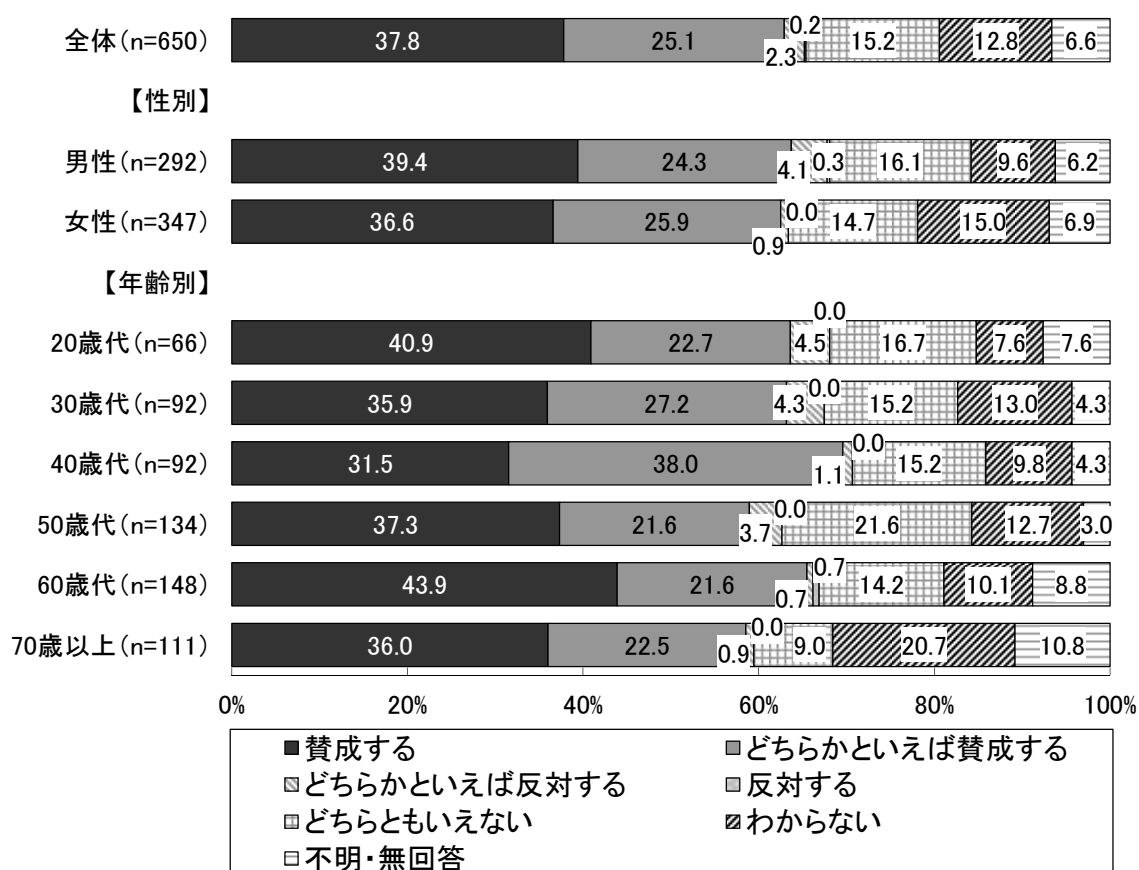
8. 社会活動等への参画について

問 33 たとえば企業・行政等の管理職や審議委員会等、女性があまり進出していない分野で、女性の登用を計画的に進めていくこと等をポジティブ・アクション（積極的改善措置）といいます。これは、様々な分野における活動に参画する機会の男女間の格差を改善するために、必要な範囲内で、男女のうちいずれか一方に対し、その機会を積極的に提供することです。このような取り組みを行なうことについてどのように思いますか。
（1つに○）

ポジティブ・アクション（積極的改善措置）の取り組みについては、全体では「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた“賛成する”が62.9%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が15.2%、「わからない」が12.8%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、40歳代で“賛成する”が、50歳代で「どちらともいえない」が、70歳以上で「わからない」が全体に比べてやや高くなっています。また、20歳代で「わからない」が、70歳以上で「どちらともいえない」が全体に比べてやや低くなっています。

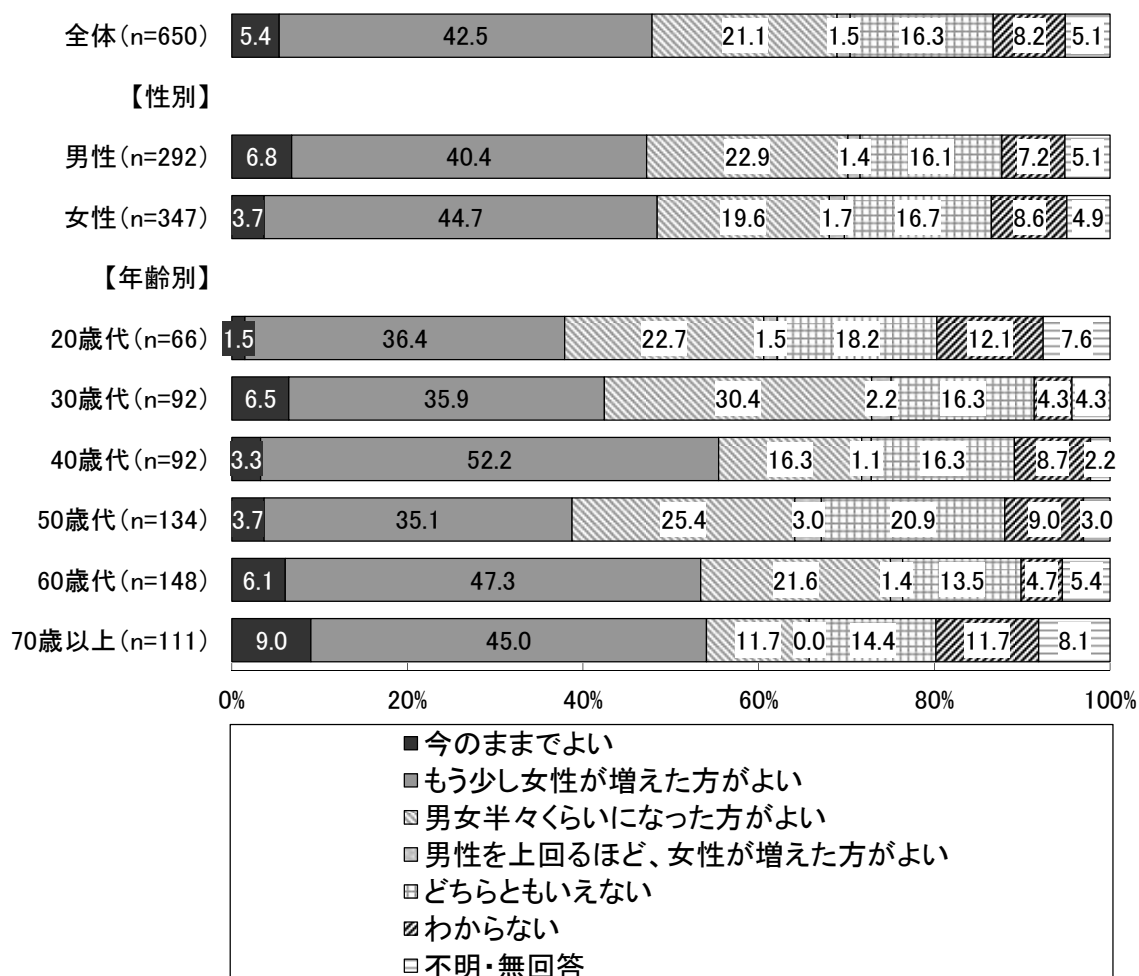


問 34 香取市では、審議会、委員会等の女性委員は 413 人中 82 人（19.9%）となっています（平成 30 年 4 月 1 日現在）。あなたは、この状況をどのように思いますか。（1 つに○）

市の審議会、委員会等の女性委員の状況については、全体では「もう少し女性が増えた方がよい」が 42.5%で最も高く、次いで「男女半々くらいになった方がよい」が 21.1%、「どちらともいえない」が 16.3%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。

年齢別にみると、40 歳代で「もう少し女性が増えた方がよい」が全体に比べてやや高く、30 歳代以下・50 歳代でやや低くなっています。また、30 歳代で「男女半々くらいになった方がよい」が全体に比べてやや高く、70 歳以上でやや低くなっています。

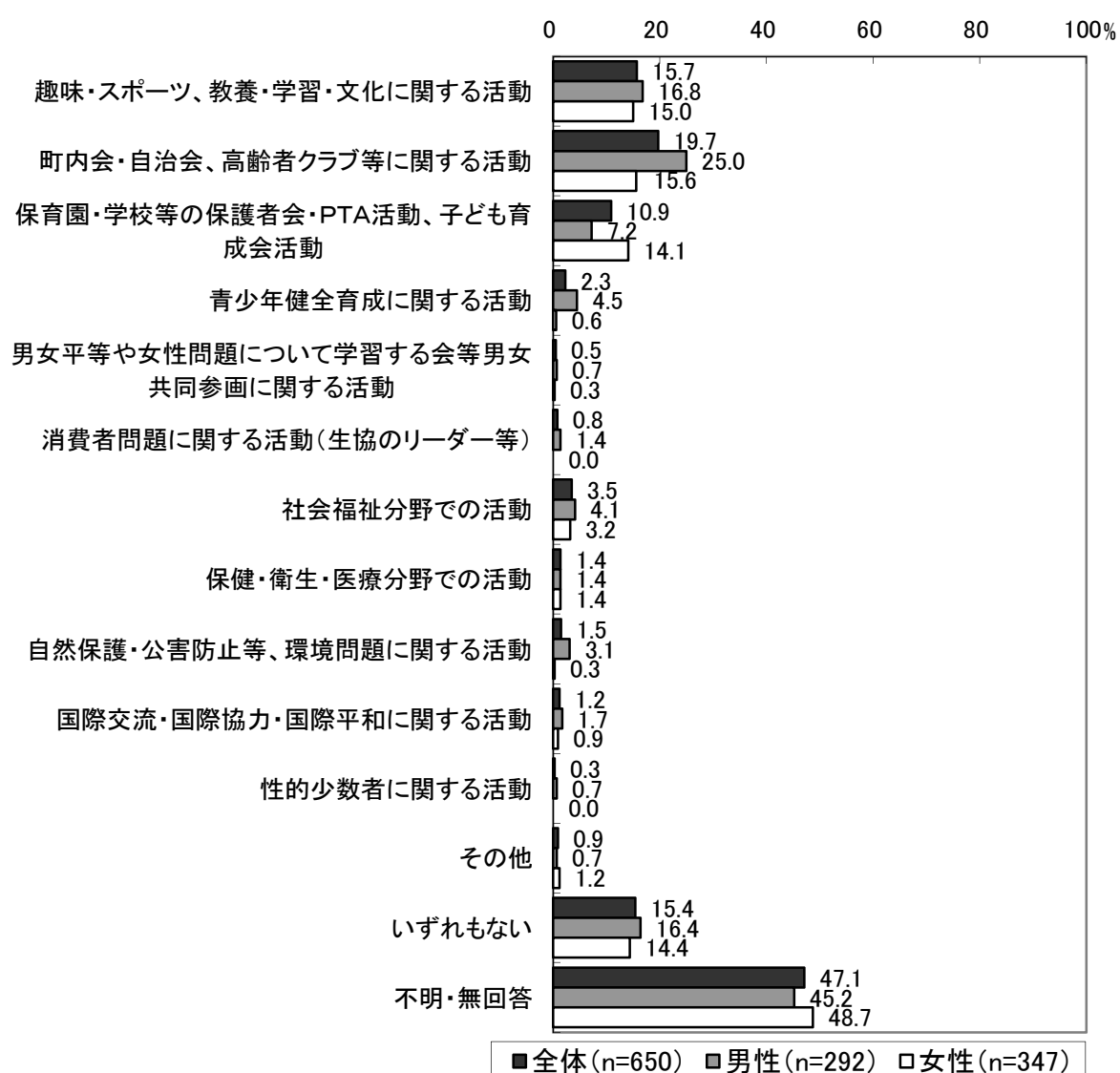


問 35 次にあげる地域活動の中で、あなたが「現在、企画から実行までの一連の取り組み（参画）をしているもの」と「今後参画してみたい地域活動、または引き続き参画したい地域活動」はどれですか。（あてはまるものすべてに○）

【現在参画している活動】

現在参画している地域活動については、全体では「町内会・自治会、高齢者クラブ等に関する活動」が 19.7%で最も高く、次いで「趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」が 15.7%、「いずれもない」が 15.4%となっています。

性別にみると、男性で「町内会・自治会、高齢者クラブ等に関する活動」、女性で「保育園・学校等の保護者会・PTA活動、子ども育成会活動」がそれぞれ全体と比較してやや高くなっています。



性年齢別にみると、男性 20 歳代・70 歳以上、女性 60 歳代で「趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」が最も高く、男性 30～60 歳代、女性 50 歳以上で「町内会・自治会、高齢者クラブ等に関する活動」、女性 40 歳代で「保育園・学校等の保護者会・PTA 活動、子ども育成会活動」、女性 20・30 歳代で「いずれもない」がそれぞれ最も高くなっています。

また、男性の 20・50 歳代と女性 20～30 歳代では「いずれもない」が 2 割を超え、全体と比較してやや高くなっています。

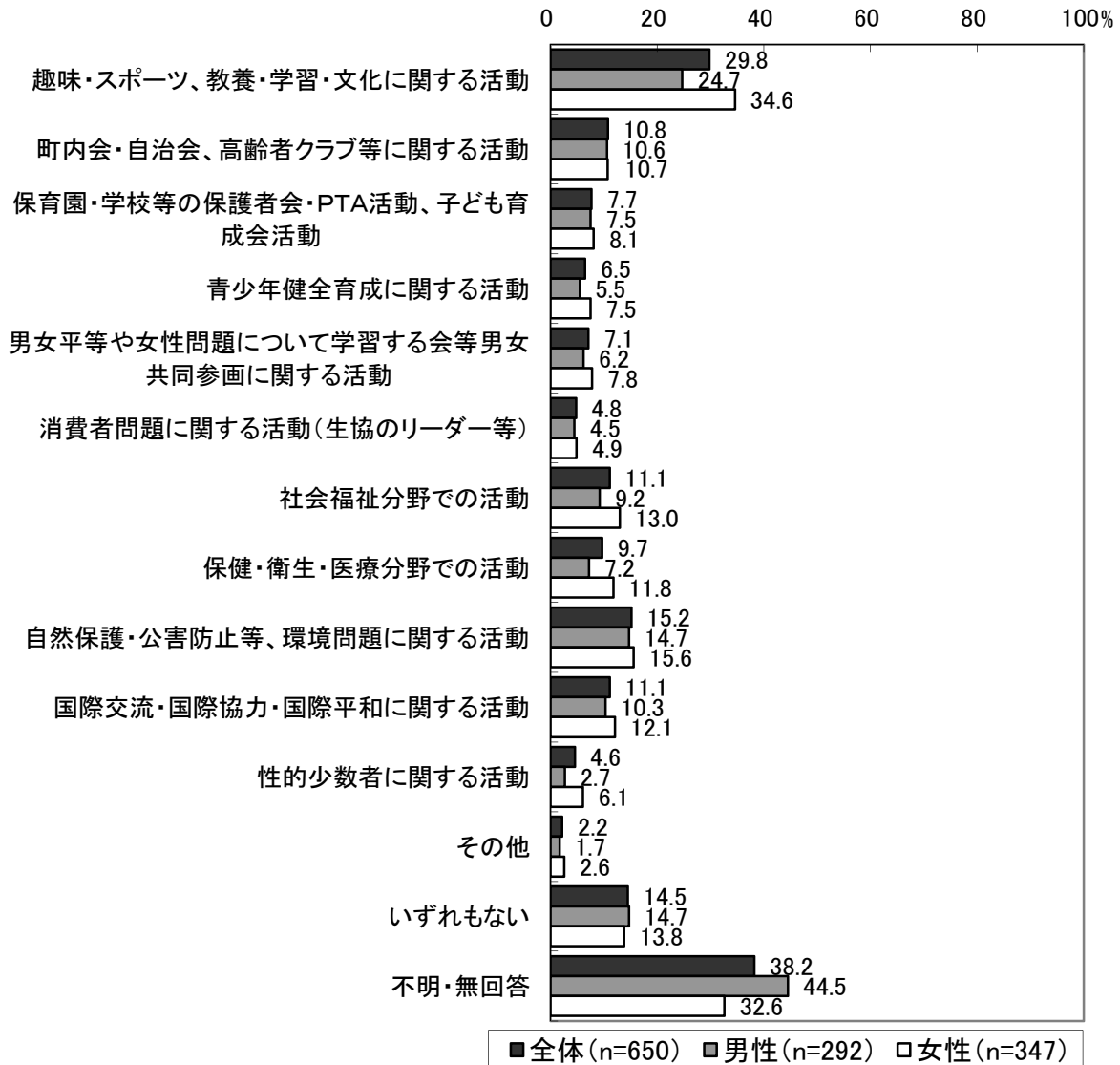
■性・年齢別クロス集計

	合計	趣味・スポーツ、 学習・文化に 関する活動	町内会・自治会、 高年齢者クラブ等 に関する活動	保育園・学校等の 保護者・PTA活動、 子ども育成会活動	青少年健全育 成に関する活動	男女平等や女性 問題について学 習する会等男 女共同参加に 関する活動	消費者問題に 関する活動（ 生協のリーダー 等）	社会福祉分野 での活動	保健・衛生・医 療分野での活 動	自然保護・公 害防止等、環 境問題に関 する活動
【年齢別・男性】										
20歳代	24	25.0	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0
30歳代	40	17.5	22.5	5.0	5.0	0.0	2.5	7.5	0.0	0.0
40歳代	37	13.5	27.0	16.2	8.1	2.7	2.7	8.1	2.7	0.0
50歳代	62	12.9	32.3	14.5	8.1	1.6	0.0	1.6	0.0	3.2
60歳代	68	8.8	30.9	1.5	2.9	0.0	0.0	4.4	0.0	5.9
70歳以上	60	28.3	20.0	3.3	1.7	0.0	3.3	1.7	5.0	5.0
【年齢別・女性】										
20歳代	40	12.5	10.0	7.5	0.0	0.0	0.0	5.0	2.5	0.0
30歳代	51	11.8	3.9	27.5	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
40歳代	54	3.7	7.4	40.7	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0
50歳代	72	12.5	15.3	9.7	1.4	0.0	0.0	1.4	5.6	1.4
60歳代	80	25.0	25.0	2.5	0.0	1.3	0.0	6.3	0.0	0.0
70歳以上	49	20.4	26.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	合計	国際平和・国際 交流に関する 活動・国際協 力活動	性的少数者 に関する活 動	その他	い ず れ も な い	不 明 ・ 無 回 答				
【年齢別・男性】										
20歳代	24	4.2	0.0	0.0	20.8	54.2				
30歳代	40	0.0	0.0	0.0	10.0	55.0				
40歳代	37	0.0	2.7	0.0	10.8	45.9				
50歳代	62	1.6	1.6	1.6	21.0	35.5				
60歳代	68	2.9	0.0	1.5	17.6	45.6				
70歳以上	60	1.7	0.0	0.0	15.0	45.0				
【年齢別・女性】										
20歳代	40	0.0	0.0	0.0	20.0	57.5				
30歳代	51	0.0	0.0	0.0	29.4	37.3				
40歳代	54	0.0	0.0	0.0	20.4	35.2				
50歳代	72	0.0	0.0	4.2	9.7	54.2				
60歳代	80	2.5	0.0	1.3	8.8	50.0				
70歳以上	49	2.0	0.0	0.0	4.1	59.2				

【今後参画したい活動】

今後参画したい地域活動については、全体では「趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」が29.8%で最も高く、次いで「自然保護・公害防止等、環境問題に関する活動」が15.2%、「いずれもない」が14.5%となっています。

性別にみると、全体と同様の傾向となっています。



性年齢別にみると男性 20 歳代・70 歳以上と女性 50 歳代を除いたすべての年齢で「趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」が最も高くなっています。男性の 20 歳代では「自然保護・公害防止等、環境問題に関する活動」、男性 70 歳以上では「町内会・自治会、高齢者クラブ等に関する活動」、女性 50 歳代では「社会福祉分野での活動」「自然保護・公害防止等、環境問題に関する活動」がそれぞれ最も高くなっています。

また、男女 20 歳代で「保健・衛生・医療分野での活動」「自然保護・公害防止等、環境問題に関する活動」が全体と比較して高くなっています。

■性・年齢別クロス集計

	合計	趣味・スポーツ、 学習・文化に 関する活動	町内会・自治会、 高年齢者クラブ等 に関する活動	保育園・学校等の 保護者・PTA活動、 子ども会活動	青少年健全育 成に関する活動	男女平等や女性 問題について学 習する会等男 女共同参画に 関する活動	消費者問題に 関する活動（ 生活協のリー ダー等）	社会福祉分野 での活動	保健・衛生・医 療分野での活 動	自然保護・公 害防止等、環 境問題に関 する活動
【年齢別・男性】										
20歳代	24	25.0	25.0	12.5	16.7	16.7	16.7	20.8	29.2	33.3
30歳代	40	37.5	10.0	20.0	12.5	10.0	10.0	15.0	15.0	25.0
40歳代	37	29.7	2.7	13.5	2.7	2.7	2.7	8.1	5.4	2.7
50歳代	62	22.6	6.5	4.8	6.5	8.1	3.2	9.7	4.8	11.3
60歳代	68	29.4	10.3	1.5	2.9	4.4	0.0	5.9	2.9	16.2
70歳以上	60	10.0	15.0	3.3	0.0	1.7	3.3	5.0	1.7	10.0
【年齢別・女性】										
20歳代	40	47.5	12.5	32.5	20.0	22.5	15.0	25.0	32.5	27.5
30歳代	51	23.5	5.9	11.8	3.9	3.9	0.0	5.9	5.9	9.8
40歳代	54	29.6	11.1	7.4	9.3	5.6	3.7	7.4	13.0	13.0
50歳代	72	48.6	8.3	5.6	8.3	6.9	2.8	16.7	9.7	16.7
60歳代	80	35.0	16.3	1.3	6.3	6.3	7.5	16.3	10.0	18.8
70歳以上	49	20.4	8.2	0.0	0.0	6.1	2.0	6.1	6.1	8.2
	合計	国際平和・国際 交流に関する 活動・国際協 力活動	性的少数者に 関する活動	その他	いずれもない	不明・無回 答				
【年齢別・男性】										
20歳代	24	16.7	8.3	4.2	8.3	41.7				
30歳代	40	17.5	5.0	2.5	12.5	27.5				
40歳代	37	10.8	5.4	2.7	18.9	37.8				
50歳代	62	16.1	1.6	1.6	17.7	43.5				
60歳代	68	5.9	1.5	1.5	14.7	42.6				
70歳以上	60	1.7	0.0	0.0	11.7	65.0				
【年齢別・女性】										
20歳代	40	32.5	25.0	7.5	15.0	22.5				
30歳代	51	13.7	3.9	2.0	21.6	37.3				
40歳代	54	13.0	5.6	1.9	22.2	25.9				
50歳代	72	13.9	4.2	2.8	11.1	25.0				
60歳代	80	6.3	3.8	0.0	6.3	33.8				
70歳以上	49	0.0	0.0	4.1	10.2	53.1				

自由回答

最後に、あらゆる人が社会に参画し、いきいきと暮らせる香取市となるためにご意見がありましたらご記入ください。

合計 101 件の意見をご記入いただきました。

香取市男女共同参画計画の体系ごとに分類して以下に示します。ご意見は、誤字脱字を除いてそのまま掲載しています。

■家庭環境の充実

金銭面での不安を少しでも減らせる様、就職先が充実する事。高齢者だけでなく、妊娠している人や小さい子どもにも良い生活環境になる様なものと良いと思う。	男性	20 歳代
現在少子化などと世間で昔から騒がれていますが、保育士が少ない、子供を保育園に通わせられない。今それで戦っているなど知り合いや SNS で拝見します。まず保育士さんの給料を上げるなど、問題になっているものの元からどうにかして行くべきではと思います。子供は 3 人産め、などニュースで見ましたが出産した後の女性に対して国が冷たい。ならばそれなりの援助や保育園や幼稚園など仕事に対してもどうにかして行くべきではと思います。	女性	20 歳代
核家族に対するサポート体制の充実を測ってもらいたい。親戚が近くにいない家族への子供のサポート。病気になっても見てくれる保育園。(病児保育を行ってくれる。)不登校の子供の支援の充実と理解。不登校親子のサポートの充実。	女性	50 歳代

■多様な働き方への支援

男性、女性ではなく能力の有無を見極める事が重要かと私は考えています。しかし現状、ある一定の年齢以上の方はその能力の見極めに乏しい場合が多い様にも思えます。市として企業や団体等に啓発して行く事は大切だと思いますし若者にも能力の有無で見極められる教育をしていけば良いと思います。	男性	20 歳代
選べる職場、職種を増やす。働き方の選択肢を増やし、個々の事情に出来る限り考慮した、働き方のモデルケースを作る。	男性	30 歳代
働き方改革があまり実感できていません。もっと家での時間を大切にしたいです。	女性	30 歳代
待機児童を無くす。働けなくて困っている。	女性	30 歳代
女性だから優遇されるのだけは、おかしいと思う。同じ義務を果たして(義務を果たした分だけ)権利が発生しないと正直者が馬鹿を見ます。	男性	50 歳代
男女の就職を考えると、女性の就職先を含む場が香取市に少ない。男女平等をうたうのであれば就職先が少ない事は、それ以前の話であるので、平等に働ける場を提供する事が必要です。	男性	50 歳代

「女性活躍推進」と表記しているが、何をして“活躍”していると言えるのか。管理職＝活躍という公式はいかにも男社会が考えそうなことだと常々思っている。男性の“月経”に対する理解不足や妊娠、出産の経験等、女性にしかないことを踏まえてのそれぞれの取組を望んでいる。	男性	50 歳代
--	----	-------

■意思決定過程への参画支援

色々な分野において、女性の進出（参画）は良い事だと思います。しかし、その割合を算出し、その数値を目標とするようなことは止めて欲しい。リーダーシップの無い方（男性も含めて）が役職についてしまい機能しない例が沢山ありましたので。難しいですが、能力ある方は、意外と前面に出たがらない様です。強いてあげるなら、学校ではありませんが、リーダー養成をとっていかねばならないと思います。誰もが認める方が役職についてくれば、多数の方が賛同していくと思っています。	男性	50 歳代
1. 参画ありきの考え方には賛成できませんが普通の生活の中で、そのチャンスをこばまないことが重要なのだと思います。ただ現状ではそう思ったときに、そこのある壁の大きさにへきえきして、あとずさりしますが。（いわゆる出る杭は打たれるといったようなことです。） 2. ポジティブ・アクションは、不平等の温床のように思います。	男性	60 歳代

■困難を抱えた方が安心して暮らせる環境整備

弱者に優しい町づくりをして頂きたいです。例えば幼児や高齢の方が安全に散歩出来る道路整備や公園整備、環境整備に年齢、性別関係なく色々な人々が参画していけたら良いですね。議員さんに頼らない政治なんて面白いかも知れません。	女性	40 歳代
人口減が進む中、海外から来ている人も、香取市にとっては大切な働き手であり、海外にむけて香取市の良さを発信する大切な人達なので、住んでいて困った時や悩んだりした時に相談できる所があるといいのではないのでしょうか。香取市に住む者としては、合併し「〇〇地区」となっていますが、イマイチ良さを感しません。自家用車がないとそれぞれの地区に行けないし、それぞれの地区の住人の仲がいいとも感しません。それぞれの地区の特色を生かし、今住んでいる人達がお互いの個性、地域性を認めながら暮らせる寛容性のある市であってほしいです。	女性	40 歳代
引きこもりで苦しむ家族の相談窓口を。	女性	50 歳代
高齢者の一人生活に対してのケアをお願いします。	男性	60 歳代
障害者が自立出来る様、相談窓口を充実し障害にあった就活が推進されると良いと思います。	男性	70 歳以上

高齢になり家の中に一人でいる事が多いと地域の方との交流が本当になくなってきます。活動の一環として「家の回り見守る、話をする」定期的に行う事の出来る、そんな仕事があっても良いと。この先必要ではないかと思われました。(これは若い方にも、家族が多い方でも全ての人に言えると思います。)地域ごとに出来ていると思われがちですが意外と出来ていないのが現状だと思います。	女性	70 歳以上
--	----	--------

■意識の是正と制度・慣行の見直し

新島、北佐原地区の学童保育の枠が少な過ぎで入れません。利用出来ない為に短時間のパートをしています。もっともっと働いて社会に出て行きたいと思っていますのでもう一つ学童を作って頂きたいです。まだまだ「男はこうあるべき、家事なんかするものじゃない」と言う古い考え方がはびこる地域に住んで居ます。こんな所にはまず嫁も来なけりゃ発展もしないはずです。仕事に行く事すら許されない事もあるそうです。もっともっと色々な家族の事例を目に付くように広報して頂けたら良いんじゃないかなと思います。	女性	20 歳代
とても難しい問題だと思います。男性の理解が無ければ、子育て、家事、仕事を両立させる女性は休みが無く疲れてしまい、結果男性が社会に出て女性はパートで働き、空いた時間に家事などを済ませる。私は一度結婚しましたが育児に参加してもらえず、暴力を受けて毎日が辛かったです。もう何年も前の話ですが、子供がいて配偶者がいない今が一番幸せです。子供も笑顔です。正職員としてフルタイムで、働いていますが、やはり一番の理解は家族です。男性の考え方や、結婚に対しての考え方、育児への不参加など変えない限り、男女平等に社会生活を送るのは難しいと思います。	女性	20 歳代
まだまだ男女差別があると思うので、それを少しでも無くしていく努力を全体でしていく事。みんなが助け合い、声を掛け合い接する事。相談できなくて悩んでいる人がいなくなるよう、呼びかけたりして気に掛ける事。	女性	20 歳代
男手が必要な仕事、女手が必要な仕事と、分けするものは必ずあります。それは差別ではなく区別です。必ずしも女性を起用しなければ、という事はないと思います。男でないと出来ない仕事もあるでしょう。そこをはき違えずに制度を組み立てて欲しいのです。川崎の事件のように、世間に不満を持っている人がほとんどでしょう。皆、自分の事で手一杯で、周りを助けるほど余裕が無いんです。そういうところに税金を使って助けてあげて下さい。	女性	30 歳代

ウーマンリブから男女雇用機会均等法までの時代を経験してきました。当時は女性も男性と同様にと出張や地方に転勤やらとさせられたが昇格もし、給与も昇給し働くことが楽しくて結婚なんてイイやという女性もいる位、毎日がおもしろかったです。バブルの最高潮の時です。バブルはじけて自分の事で精一杯になり、早く経済の立ち直りがあれば男も女もイキイキして社会に参加し益収日本経済立ち直ってくれたらイイデスネ。でも代償は大きいと思う。出世欲と金欲です。他が考えられない。香取市の未来どうすべきなんでしょうね。「男尊女卑」平成の時代でもしっかり根付いていて「こいつら女だと思ってバカにしてる」と思う事あります。田舎者程意識が強い。まずこの意識改革からかな。余談ですが、外国人就労をとりいれていくとそのうち純血日本人いなくなる可能性。人類の始まりはアフリカの女性だから関係ないか。	女性	60 歳代
--	----	-------

■男女共同参画に関する情報共有、学習機会の充実

女性が活躍できる環境整備を行う事によって、男女が考えている役割をお互いに把握し、理解を深める事が必要だと思う。それに共なる交流機会が、今後の発展に繋がると考えている。	男性	30 歳代
互いを思いやる気持ちを持たせる為、コミュニケーションの場を増やす。	女性	30 歳代
平等の一言につきると思います。活動に参加している人は、威圧的な人が多いように思います。なので参加して嫌な気分になるのであれば、参加したくありません。男女差ではなく平等であるか、平等でないかだと思います。人を思いやる人間が少ないと思います。職場でも社会でも人で決まると思います。	女性	50 歳代
行政が色々企画、実施を行っていても仕事や家族生活の両立で一杯で中々参加する事が出来ない状態であった。参加出来る状況をどう作ったら良いか悩む所である。男女共同参画を目指す社会について市民としてどのくらい意識して生活しているか、意識して取り組む為には若い世代への啓発が重要かと思う。	女性	60 歳代

■協働による体制づくりの推進

二年前に東京生活から地元に戻りました。戻ってきてから、香取市にも若い人たちってたくさん頑張っているんだなと思いました。この 2 年で香取市を愛し、香取市をもっと盛り上げたいと熱い思いを秘めている人たちにたくさん出会いました。ただ、そんな思いを受け止めてくれる窓口がないと悲しんでいます。どんなことでもとりあえず香取市のために意見を聞いてくれる窓口を教えてほしいです！	女性	30 歳代
40 代、50 代では職場の中でも、リーダー的位置で仕事することが多く、地域活動に専念する時間が少ない。しかし「こうしたい」とか「こうする」といいなあ」という考えを持っている人は結構いると思います。まずは、出来る範囲で参加するのが大切でしょうか。	女性	40 歳代

小さなサークル活動(単発のワークショップなど)を気軽に行えるよう、公民館や図書館の一角に掲示板を設けて、メンバー募集のチラシ等を貼れるようにしてはどうか。年間を通しての活動は出来なくても何かやってみたい人や、機会があったら新しい事にチャレンジしてみたい人は潜在的にいます。また、その為の場所として公民館や施設を借りるのに、5日前までとか言わず空いていれば前日までOKとか、もう少し借りやすくなるといいなと思います。	女性	50 歳代
これからますます高齢化社会になって行く中で、高齢者がもっと地域参加、協力出来る様(ボランティア、地域活動)な場を作って欲しい。	男性	60 歳代
自分の得意とする仕事、趣味等ボランティアで地域に生かす事が出来る社会。一日一善運動。	女性	60 歳代
今まで地域の活動の中心となっていた学校が統合された事により、閉校になった地域に活動拠点がない。校舎等の跡地に地域住民が集える場所、交流の基地的になる場所が出来ると嬉しい。今後の高齢化に伴い、近くにそんな場所があると地区民の交流も出来る(各区の公民館ではなく地区としての)。	女性	60 歳代

■暴力の防止のための広報・啓発

子供は学校等で教える事が出来るが、大人はDVする人や男尊女卑の考えを変えないと難しいと思います。そういう方はその為の活動に参加する事すらしないのです。男女ともに一度は参加するような取り組みをして大人が変わらないといけないと思います。	女性	30 歳代
--	----	-------

■安全で安心できる相談体制の充実

どんな事でも困っている事を気軽に相談でき、共に解決に向けて進んでくれる市政。	女性	50 歳代
--	----	-------

■アンケートについて

上記設問とはリンクしませんが。今回の調査項目は多い、途中で飽きる。	男性	40 歳代
このアンケートに疑問を感じる。女性が進出すればいい社会になると思っているなら大間違いだと思う。男性だろうが女性だろうが能力のある人が、その地位に立てば良いだけ。無理に女性アゲしたところで何が変わるのか。だから香取市はいつになっても良くならない。世間の流れに乗るだけでは何もならない。いつまでたってもくそな田舎のまま。	男性	40 歳代
子育て支援の前に、子づくり、支援出来る環境整備、問 34 の半々からどうなるか。半分以上で香取市は、変わりますように。「モデル市」目指してもらいたい。このデータは、のちに役立ちますか。半分の質問で良いと思われる。	男性	60 歳代
全ての質問に理解できない点が多くて難しくちゃんとしたアンケートできず申し訳ないです。	女性	60 歳代

■行政に対して

行政ばかりが優遇されている。(男女平等の前に)。税金の使い方を考えて欲しい。子供がいる家庭に支援手当を支給する。	男性	20 歳代
香取市に住んでいるメリットがわかりません。もっと若者が地元で根付くようにして下さい。子育て支援を充実して下さい。若者の働ける場所。	男性	20 歳代
インターネットサイトの充実をお願い致します。何か困った時に現在では育児、医療、介護等の市のサイトを見ても役に立つものが載っていません。情報発信が他の市よりずっと遅れています。”市の便りを見て”と書いてあっても市役所保健センターに行かなければ貰えません。開庁している時間は仕事なので行く事が出来ません。現在はネット社会であり、悩んでいる時、困っている時にほとんど手にするものはスマホです。	女性	20 歳代
市民が役所に伺うと、「暇そうだな」というのが感想です。役所の中から地域活動に対し、活発に動いて欲しい。	女性	20 歳代
香取市からの人口の流出が激しいので佐原ばかり発展させないで、小見川、山田、栗源もどんどん設備して欲しい。公園が小見川にはない。(子供が安全に遊べる)。商業施設ももっと誘致して欲しい。成田や神栖に出ないと買い物出来ない。交通の便が悪い。公共機関をもっと発展させる。	女性	20 歳代
破綻しない様に、山田区のパークゴルフみたいな無駄な公共事業は無くしてもらいたい。パークゴルフ場がどの様に香取市に必要なのか、全くわからない。	男性	30 歳代
市民税が高すぎる。合併後、歩道の草刈りしない。道路は直さない。	男性	30 歳代
子育てし易い、地域にして欲しい。子育て関連の手当てや補助を増やして欲しい。市で行っている教室を幼児からも、通えるようにして欲しい。ランドセルの支給など。	女性	30 歳代
地域活動へ参加する機会が無い。転勤がある為。職場を通じて参加する機会を作って欲しい。子供のいない夫婦2人だと、イベントも参加する機会がない。	女性	30 歳代
香取市民が気軽に集まれる、公園や場所をもっともっと多くあった方が良いと思います(わんぱく公園はちょっと集まりづらい。駐車場が無いのが問題)。成田の福祉会館や公園をまねて欲しい。廃校学校を活用して欲しい。栄町酒直小学校のような感じで。応援しています。	女性	30 歳代

少子化が進み、子供の少ない地域が非常に多くなっています。家庭を持つ女性、特に子供を持つ女性は、職場では管理職に就く年齢になり子供の学校行事・保育園の行事・地域活動で会長などになり、本当に毎日追われるように1日が終わります。地域活動も何個も掛け持ち、ほんとうに大変です。子供が少ない為、子供に関する事は必然的に親も少ないという事になり、役員になる回数も多くなります。昔ながらの地域、価値道も多く残っており、時代に合っていない気がします。子供とゆっくり向き合う時間も有りません。かと言って仕事をパートタイムにすると経済的に無理が出てきます。地域活動、素晴らしい事も多くありますが、何か新しい事をしようとする負担に思う女性も多い事を忘れないで欲しいです。新しい事を始める時は、古い事を見直すなど地域行事をどんどん増やすのは止めて欲しいです。	女性	30 歳代
子供手当、母子手当のことをもっと親身何って考えてもらいたい。このアンケートをやって何が良くなるか分からなかった。香取市役所は、12:00～13:00 の間に行くと暗く、挨拶してくれる人がいない。そこから変わっていったらどうかと思う。	女性	30 歳代
旭市との境に住んで居ますが政策を継続して行く事を市政全部にて真摯に取り組んで頂きたいと思います。	男性	50 歳代
市役所に何度か相談や、手続等に行きましたが、署員の態度が悪く悩みや聞いて欲しい事、手続きまで行きたくなりなくなりました。	女性	50 歳代
市内での地域格差がないよう事業などすすめてほしい。	女性	50 歳代
学校が廃校した後の利用活用の検討又、農地の不耕作地の有効活用の検討を推進して頂きたい。10 年、20 年後の香取市の空家と不耕作地の増化防止に何らかの対策を講じて欲しいと思います。	男性	60 歳代
地域の財政、経済の振興に地方行政担当者もさらに頑張って頂きたい。	男性	60 歳代
公報が廻っている市議もありますが、どの様な活動をしているのが、良く分からない。51 号をもっと活用すべく法整備。	男性	60 歳代
とにかく働く所(企業など)が少ない。他の市町村に比べても工業団地や公的機関が少ないため税収も最低だ。米軍の基地や核廃棄物の処分場など、大掛かりな事業を推進して、市全体の運営費を得る必要がある。そのためにはまずその交渉テーブルにつき、市のためになる条件を付けて交渉を進めるべき。空いている土地は沢山あるし、国の責任で行う事業を進んで受け入れるべき。それ以外に市全体を大きく発展させる方法はない。	男性	60 歳代
香取市は市税を観光に使いすぎているように考えます。住んでいる人が住みやすい街にしてほしい。たとえば子育て世帯が住みやすい、家族で遊べる公共の無料の公園、バスなどの交通のあり方、温泉などが他市に行かないとないので家族で住むには魅力のない町だと思います。町をいきいきするには各家族でまずは子供の笑顔がある町だと思います。	女性	60 歳代
市議会議員の活動報告書を出す人が少ない(上記についてどう考えている人かわからない)。広報かとかに参画内容を寄せるべきでは。	男性	70 歳以上
色々な組織や団体、その活動内容を広く広報して下さい。	男性	70 歳以上

学校(大学含む)、病院(産科、小児科含む)、企業(大型ショッピング街含む)等々を誘致して街を賑やかに”人”を呼び、働く場所の充実を計る。これを実現させるのは政治の力だと思います。英知を集めた政策を打ち出して香取に住んで良かったと心から思える市政をお願いします。	女性	70 歳以上
--	----	--------

■その他

雨の日でも子供が遊べる児童館は少ない。	女性	20 歳代
人は人。やる人はやるし、やらない人はやらない。そんなに人に干渉しないで生きたいね。	女性	20 歳代
生き生き暮らせるのは年寄りだけ、若い人間は一度、他の地域に出たら帰ってこない。帰ってこようと思うほど魅力もない香取だ、歴史だ、誇りだと思えるものも無い。一部分である、広く言えば香取市だが山田は何も無い、老人ホームと年寄り世帯、香取市という名のもと、はしっこにあり属しているという気持ちはない。交通も整っている気も無い、バスが有るが1時間に1本では役に立たない(そもそも1時間に1本も無い)。電車の便も良いわけでは無い、車移動するしかないが、年寄りのドライバーしかいなく遅くて困る、急発進、急ブレーキ今どきの事故もいずれ起こると思う。では何が出来るか何も出来ない、ただいまの生活を落とさず、こつこつと金をため、ある程度の生活を保つことを望んでいるが、それは別に香取市でなくても出来る。意見を聞くと言っても受けられるとも、市政に反映されるとも思わない。年寄りが多い多数決の原則、都合の良い解釈。古い価値観が多いと思う、隣の人間が何をしようが良い(不審者は嫌だ)。離婚しようが一人物だろうが、死のうが好みにしたら良い。周りの年寄りが噂しているのだ、聞こえるとイライラする黙って欲しい。	女性	20 歳代
40 年近く香取市(旧町含む)居住ですが、一度も住みやすさを感じたことがない。税金の高さに見合う居住価値が感じられない。市、地区、地域、全てにおいて上の立場になる人達の考え方に古くささを感じ、若手が活躍できる場が少なく思う。	男性	30 歳代
地域に住んで居てもどのような活動をしているのかさえ解らない。	女性	30 歳代
香取市内で働ける場所を増やす。例えば大袈裟に言うアウトレットの物があると働く人手が必然的に必要になる。神栖や成田と比較してどうしても周りの地域に劣っている。良い点としては最近、子供3～4人の家庭が増えたように感じる。	女性	30 歳代
子どもたちが安心して暮らせるような取り組みを増やしていければ、子どもから大人まで香取市を大切に思い、向上していけるのではと思います。	女性	30 歳代
生きていくのに生活がちゃんと出来る生活。現在、車のお金が8年ぐらい足らなくて貯金のお金を崩して使っているのが不安が有り、少し危機感が有ります。	男性	40 歳代
インターネットで情報発信、教育、告知、相談等。家から出ることが出来ない人でも気軽に相談できる環境を作るべき。	女性	40 歳代

公園等の外で遊ぶ為の子供の安全。学校内で子供達に自分より大きい人に掴まれた時や声掛けられた時の対策法などの実践実習、護衛術を身に付けさせたい。	女性	40 歳代
市の担当者が指導に当たり、多勢の参加者の意見を伺ってお願い致します。	男性	50 歳代
高齢者が増えて介護保険を使用する人が多くなっています。元気な高齢者が自宅で過ごす事が出来るように考えて行かなければならないと思います。それに高齢者の事故も多く発生しています。香取市は車が無いと生活が成り立たない人も多くいます。免許返納を進める事も良いとは思いますが、返納した後に生活支援が確りしていないと返納する人はいないと思います。元気な高齢者を増やし若い世代が定住し易いようにするにはどうしたら良いか色々と考えて欲しいです。	女性	50 歳代
これから先、少子高齢化の増加に向けて年寄りでも解り易い相続等の書類の書き方、この書類国家の日本でお金が無くて専門的な人をお願いしなくても出来る仕組み、聞き方が解らない老人達、聞いた事しか答えられない役所人、施設に入れるお金が無い人達が介護をしながらどれだけ働けるか、子供達は大事に育てられても（3 高）な仕事には就かない。老後破産が増えて行く世の中の仕組みを改善する為の制度や情報は必要だと思います。	女性	50 歳代
香取市内の各活動団体の私物化が多いと思います。「ボランティア」だと言いながら助成金を好き勝手に使用している団体があります。	女性	50 歳代
今の香取市に意見を伝えても何も変わらないように思えます。	女性	50 歳代
人として、1 人 1 人が自分の事より人様の幸せを考え、地域・社会の為に奉仕できる心と環境をつくる。	女性	50 歳代
扶養が無い場合等の負担が大きい。休みが希望通りにいかないのでフルタイムでは難しい。	女性	50 歳代
香取市というよりも日本の国に不安です。この国に子孫を進んで残したいと思わない。自己の事よりも市民や国民の事を心配してくれる政治家が必要です。危機感を持った政治活動をして欲しい。	女性	50 歳代
生保の適応の見直し。もっと厳しく生保の受給者を定めてほしい。	女性	50 歳代
香取市は働く場所が少ない気がする。駅前に箱物ばかり造っている。企業誘致無し。	男性	60 歳代
定年後数年が過ぎ、現在の生活に満足している。出来たら残された人生が地域に貢献出来る事があれば、今後なんらかの活動に参加したい気持ちもある。	男性	60 歳代
香取市は若者がどんどん外に出て行ってしまう傾向です。先日テレビでやっていましたが空家を利用して安く、子連れにはいろんなサービス、人数が増えたとの県を紹介していました。若者を増やす事が重要です。	女性	60 歳代
「豊年楽人」若い人達の就職難が続いたり、豊かな時代とは言えない。お金ではなく豊かな心を持っていれば良い。優しさをされていた人は優しい。	女性	60 歳代

幼児期からの環境、育ちが心の育ちに重要であると思っています。健やかに育まれていく中で個人、地域が保証(あらゆる面で)され、守られる事により、心豊かに生活が出来ると思います。健全な育成の充実を願いたい。	女性	60 歳代
孤立させない、助け合う、共助の精神。現場の声を聞くために訪問対話を。	女性	60 歳代
現在仕事を続けています。母の介護費用の手伝いもあり仕事はやめられません。またほかの方からの助言で年金だけでは生活は成り立たないとのことです。前途多難です。心配ばかりです。	女性	60 歳代
市議会議員の若返り、本当に市民の声に耳を傾けているのでしょうか。市民のためにと議員になられた方はいるのでしょうか。学校の統合化が多くなっていますが、小中一貫校にするような考えはないのでしょうか。企業がないのが問題。香取市には働く場がない。正職になれない(パートばかり)。	女性	60 歳代
伝統や談笑だけでは人は生活出来ない。もっと働く場所を整備すべきである。	男性	70 歳以上
住み易いので満足しています。	女性	70 歳以上
口が出過ぎること、他人の意見を聞く事等は、基本的に必要な事と考えます。	女性	70 歳以上
あらゆる人が社会に参画し、生き生きと暮らせる香取市となる為に、私は 20～56 歳まで職場勤務し退職いたしました。その後は孫や両親の世話等で 70 歳を迎えて徐々に自分自身の体力の衰えを感じています。香取市、皆が生き生き暮らせるための努力しないで、このような状態に有る事を申し訳なく思っております。健康長寿の大切さが一番です。	女性	70 歳以上
向こう三軒両隣、とかご近所様とか、お年寄り、子供を見守るなど、お互い助け合う気持ちを持たなければ、行政がどんなにサポートしてくれても行き届かない事も多いと思う。	女性	70 歳以上
地方の古い行事を少なくしてもらいたい(慣習)。若い人達が土地を離れる原因もあると思います。嫁不足の原因もある。	女性	70 歳以上
あらゆる人が社会に参画することは理想ではあるが、具体的には難題だと思う。いきいきと暮らせるには個々人の思いが違うので考えさせられたが、それは政治の問題であって、どのように組み入れて実現できるかということでしょうか。むずかしいですね。答えになってなくてごめんなさい。	女性	70 歳以上
県立佐原病院に通院して 6 年になります、昔の病院に戻して下さい。命の問題です、一番に考えて下さい、お願い致します。	女性	70 歳以上
香取市は若い人の働く所がなさすぎる。町に子供がいない。仕事もなければ人口も減る。活気がない。先が不安。	無回答	無回答

男女共同参画に関するアンケート調査 報告書

発行年月 令和 2 年 2 月

発 行 香取市役所 生活経済部 市民協働課
人権・市民相談班

〒287-8501 香取市佐原口 2127 番地

Tel 0478-54-1138(直通)

E-mail jinken@city.katori.lg.jp
